録 追 吉 綱 舊 貴 貴 記 公 公 雜 元禄十四年 録 至十二月 自 卷二十九 四月

綱貴公御譜中

正文在文庫

將又在所之一種令進覽之り、猶期後音之時り、恐惶謹言、 被仰聞り由承忝存り、右之御禮等爲可申述如此御座り、 出來い付の、拙者領分繪圖之儀:付役人共方に別の御懇 筆致啓達り、弥可爲御堅固珎重存り、然素今度國繪圖

種子嶋瀬人様

肝

参人、御中

.. 付 主気

嶋津淡路守

元禄十四年四月六日 朱**

嶋津主計様

人
る
御
中

969

綱貴公御譜中

正文在文庫

御香具品、并御肴一種被獻之り、首尾好遂披露り、

968

全上

(表紙)

高付帳相添爲持申吖、 然素長門守領内之繪圖・同式部分知繪圖共:相調并郷村(離) 委細役人相含口上は、 筆致啓上
い、各樣
弥御堅勝被
成御
勤之旨
珎重奉存
い、 全上 恐惶謹言、 可然樣被仰付可被下以、奉賴り、

元禄十四年四月七日

泥 小坂六郎左衞門 谷 次

嶋

嶋津勘解由樣(久) 當) 津分務樣

-- 294 -

元禄十四年四月十四日 ####

972

正文在文庫

元禄十四年

御馬青毛

松平薩摩守に被下、

疋

其方家來嶋津中務明十五日五時

970

綱貴公御譜中

元禄十四年四月十日

謹言、

正武判

阿部豐後守正武

松平薩摩守殿(島津綱も)

973

全御譜中

正文在文庫

今度諸國繪圖御改付の、

日州之清繪圖

候節、 薩摩守樣御調被成候付、長門守領分繪圖鹿兒嶋に致持參(編 - 軌) 御領堺筋之繪圖一紙:御調被成外、

上使稻葉丹後守義雅一、

」營而奉謝之、辱

形仕、爲後證雙方は請取之置候、仍如件、

971

正文在文庫

賜御馬一匹、

賜三告于綱貴」、恩賜亦如」常、其後登 元禄十四年辛巳四月十二日、以二

秋月長門守内 (長好)

元禄十四辛巳年四月十六日

974

正文在文庫

全御譜中

御城に可被差出い、 以

稻葉丹後守

:堺筋之繪圖一枚相調、

爲後證各立合加印形、

此節雙方 依之互

進旨被仰渡、 に被差越、 今度諸國繪圖御改付の、 御領境地面村付等致吟味繪圖相調候、 日州御相給之御方より御領分之繪圖鹿兒嶋 日州之清繪圖薩摩守より可致調(編 費)

-295-

土屋相摸守 小笠原佐渡守(長 重)

松平薩摩守殿

依之各立合印

河野市右衞門郵

'n 請取置之候、 仍如件、

村田平右衛門邸松平薩摩守内 (経 學)

元禄十四辛巳年四月十六日

川上八郎左衞門邸

正文在文庫

975

綱貴公御譜中

筆致啓上り、各樣弥可爲御堅固珎重奉存り、然光常領

間 御役人中は得御意い付、此度及岡田新右衞門持參申付い 涯繪圖出來仕りこ付、則差越申り、先頃於其御地、 諸事御差圖有之樣被仰付可被下內、 奉賴
い、委細
新 絶圖

右衞門口上:可申述り、恐惶謹言、 元禄十四年四月十六日

伴 淺 右 衞 門

九津見吉左衞門

村 型 惣右衞門

戸

種子嶋藏人樣 喜入安房樣 鳴津助之丞樣(忠守)

人
マ御中

976

綱貴公御譜中

案文在文庫

御札令拜見り、各樣弥御堅固之由珎重存り、

委曲御使者可被相達片間、不能詳片、恐惶、 高付帳迄相添、以御使者被差越之付の、示給趣致承知り、 樣御領分之繪圖并秋月式部樣御分地之繪圖被相調、

元禄十四年巳四月十七日

久亮

久時 久兼

夫樣

泥

谷次太

小坂六郎左衞門樣

猶以嶋津中務・嶋津勘解由事江戸に差越み、(久輝) (久産)

鳴津 津

之丞事者不有合い故、不能書載い、以上、

977

全御譜中

案文在文庫

之繪圖被相調、 御札令拜見り、各樣弥御無爲之由珎重存り、然素御領分 岡田新右衞門殿を以被差越いこ付、入御

然素長門守

郷村

全御譜中

伴

淺 石衛

門樣

九津見吉左衞門樣

戸 村

惣右衞門樣

筆啓上仕り、各樣弥御堅勝被成御座之由珎重奉存り、 正文在文庫

然光此方領分繪圖并秋月式部分知之繪圖郷帳共爲持申り

御役人衆中御下知以無滯首尾好相納い之由、役人罷

歸承知仕、殊御丁寧之御馳走被成下、毎度往還:以下之 者迄人馬等被仰付卟由、 誠以忝次第奉存り、委曲長門守

元禄十四年四月廿三日

2可申聞い、先乍憚從私共呈飛札い、恐惶謹言、

泥 小坂六郎左衞門 谷 次 大 夫

> 喜入安房樣 嶋津助之丞樣

委曲新右衛門殿口上可被相達り

不能審り、恐惶、

元禄十四年巳四月廿三日 ####

久時

久亮

種子嶋藏人樣

付主殿樣

参人、御中

979 北郷久嘉譜中

御縁邊 元禄十四年四月二十六日、 近衞大納言家久卿、 家久卿以時服三襲賜久嘉矣、 因茲進藤刑部太輔長之爲結 綱貴公御息女龜姫君被定于

亀姫君ハ元禄三年再午正月晦日ノ御生ナリ、此年十二才ノ御時ニ当レリ、宝永

二年十六才御早世也

980 綱貴公御譜中

正文在文庫

追の申入り、

宰相其外銘、御祝儀被遣、

御懇切之段

不淺存み、以上、

貴札致拜見り、今度公武首尾能隱居、

御慇懃之至恐悦存り、幾久と致受納り、猶期後喜り、 仰出大慶存り、依之爲御祝儀御太刀御目錄之通被贈下、 恐

且亦宰相家督等被(平松時方)

- 297 -

肝

入之使節下 江都、此時

全上

全上

出外、

貴翰致拜見り、如仰入道殿首尾克御隱居、

拙官家督被仰

下り、欣悦之至幾久と令受納御禮難申盡存り、恐惶謹言、

平松宰相

難有仕合存り、依之爲御祝儀御太刀目錄之通被贈

元禄十四年四月廿八日

松平薩摩守樣

貴報

元禄十四年四月廿八日 (島 津綱 g) **** 平

御報

中納言入道(平松時里)

元禄十四年四月廿八日

交野三位

時香

松平薩摩守樣

御報

983 綱貴公御譜中

正文在文庫

新右衛門先頃其御地は差越得御意い處、毎度御出會被成、 筆致啓上り、然素御繪圖之儀:付、此方繪圖役人岡田

如斯御座り、 元禄十四年五月三日 恐惶謹言、 伴

別の御懇意之趣委細致承知忝存り、

右御禮旁爲可得御意

淺右

良錦門

九津見吉左衞門

7 惣右衞門

戸

村

嶋津主計様 (忠体)

人《御中

猶、嶋津主計殿別の心入之段承、致祝着り、宜御心

-- 298

982

全上

御札令披見候、如命平松入道儀首尾好隱居、且宰相家督(韓景) 被仰出り、

受納り、

尚期後喜時み、 依之預御祝詞、

恐惶謹言、

殊更御目錄之通給、幾久鋪令

984

全上

全上

全上

之趣壹岐守:爲申聞い處、(三浦明敬)

則以書中被申入り、

本繪圖

出

987

就中助之丞殿御出御逢被成৸段委細承知仕忝奉存৸、右 (® サ)

且亦新右衞門逗留仕片內御馳走共被仰付、

其上色、御懇意本繪圖仕立之

儀等御指南、

繪圖役人衆無相違御請取、

領分涯繪圖出來、先頃岡田新右衞門差越申৸處、其元御

筆致啓上り、各樣愈御堅固之旨珎重奉存り、

然素此方

來次第自是可得御意い、先御禮旁如斯御座り、恐惶謹言、

985

全上 全上 元禄十四年 五月三日

御禮旁爲可申述如斯り、 懇之趣過分之至存み、

恐惶謹言

越申卟處、各被添御心、繪圖役人衆委細被相談、彼是御

殊度、御馳走却の痛入存り、右之

筆令啓達り、然素今度繪圖之儀:付、先頃家來之者差

得賴入存り、以上、

三浦壹岐守

986

喜入安房守樣 嶋津助之丞樣

種子嶋藏人樣

御宿所

綱貴公御譜中

正文在文庫

守可述以也、 爲端午之祝儀、

雌子單物數十到來歡覺候、

委曲土屋相摸

元禄十四年五月三日

墨綱印吉

中將殿衛

綱貴公御譜中

元禄十四年五月三日

伴 濩 右 良錦門

九津見吉左衞門

戸 村 惣右衞門

嶋津助之丞樣

喜入安房樣

種子嶋藏人樣

人ゝ御中

去年七月奉上訴ニ薩隅日之中金山鑿試之資用;、 是歲元禄

忝 十四年五月六日、以三元老稻葉丹後守義雅黄金二萬兩二、 充二于金山馨試之資用了 依と是家老島津久輝・島津久

新納久珍以二連書」達二之殿府1也、

猶、左之通:近江守殿爲被仰儀も卟故、 其元も御合力金之趣:御心得可然存み、 御合力金と何れも於爰元ハ相心得噂仕事い間、 以上、 御引替之儀 於

種子嶋藏人殿喜人安房殿

嶋津助之丞殿 (忠 守)

嶋

津 圖分

肝

付

殿 殿

人へ御中

筆致啓達り、然素金山御入用金 公義に御引替之御願

此程被仰上置り處、去ル六日稻葉丹後守様より金二萬兩

哉と、 存外、 事
り
間
、
不
被
究
方
可
宜
由
被
仰
り
、 之御究共有之いへ素御拜借こい、 御引替被 荻原近江守殿は市正御尋申い處、(勘定奉行)(重秀) (新納久多) 御引替金と申儀付あハ、御返上方年賦:可被相納 仰付い由被仰渡、 結構之御仕合恐悦御同意奉 是又御合力之方こ、 此節素御合力金之樣成 年限御返上金高

御承知可被成外、 心得仕み、 公義向之御沙汰以方、 就夫御用之儀共ハ別紙 此段各に申越い様こと 御外聞迄も能頂上こり故、其通之 仰出二通差越い間 御意い故如此

新 納 市 久正 珍判

元禄十四年五月十日

御座り、

期後喜時み、

恐惶

謹言、

989 全御譜中

先頃老入道殿御隱居、 正文在文庫

代令進覽之外、恐惶謹言、

御使者御懇意之段恐悦存候、

爲御返禮

御太刀目錄

御 預 樽

拙官家督被

仰出候事達御聞、

松平薩摩守樣(馬沖網で)(馬沖網で)

平松字 相

時方

990

소 全上

-300 -

嶋

冿

中

久務 輝 判

鳴津勘解由

綱貴公御譜中

正文在文庫

991

全上

全上

後喜時小、 慶存り、右之段爲謝申此御太刀目錄之通令進覽り、 恐惶謹言

先頃太平松入道隐居且宰相家督被

仰出み、

預御祝儀大

元禄十四年五月十日

交野三位

時香

松平薩摩守樣

平松侍從

時春

993

全上

之至存み、 就平松阺居・家督等之儀、先頃素預御懇志之御使者恐悦 全上 爲御返禮御太刀目錄進覽之外、

元禄十四年五月十日

石井宮内卿

恐惶謹言、

松平薩摩守樣

994 綱貴公御譜中

正文在文庫

尚期

其元様:の御調被成り由奉

得其意い、 以上、

尊札致拜見り、先以各樣弥御堅康御勤被成珎重奉存り、

印有御座筈卟故、 秋月長門守樣御領涯繪圖:、彼御方御家來と其元樣御役 然去今度御繪圖被 人互之證印相濟り由、依之此方領境之儀も、先例之通證 涯繪圖御調嶋津主計殿より御出被成み(忠体) 仰渡叶付、 先例之通伊東大和守樣

元禄十四年五月十日

者忝存外、爲御返札御太刀目錄令進覽片、

就平松隱居家督等之儀、爲御祝義、

去比素御慇懃之御使

恐惶謹言

石井小納言

紅致證印り者、其御地は差越可申之旨奉得其意候、

付、被差越被致拜見候、

右之御繪圖を以、

地面・字等相

恐惶

-301 -

先頃煮就入道殿御隱居、(時里)

、(畴方)

仰出候、

御慇懃之

松平薩摩守樣

之 外、恐惶謹言

元禄十四年五月十日

松平薩摩守樣

御使者御懇意之段畏悦存候、

爲御返禮御太刀目錄致進覽

正文在文庫 綱貴公御譜中 元禄十四年五月十七百

神宮寺 外 純正記判

7田彌次右衞門

町

伊集院三右衛門

肝 主 殿樣(種子島久門)

貴報人、御中

995

綱貴公御子

女子

於奈百

島津藤次郎久智室

國重女、

元禄十四年辛巳五月二十日誕三生于武州芝第二、

母江田

頃繪圖方之者差越り節、

何角被入御念御差圖被成被下い

一筆致啓上り、弥御堅固御勤可被成珎重奉存り、然素先

享保四年己亥正月十日卒、法名常心玄圓

997

喜安房樣

鴨富

助之丞樣 助之丞樣

元禄十四年五月廿四日 石井宮内卿 間、伏見へ参り儀相止、於彼方可懸御目之由被入御念被 節近衞殿に可被成御見舞い故、平松宰相にも御出可有之(皓カ) 之時分伏見御屋敷沒少納言同道可令爹之由申入卟處、(石井行康) 貴札致拜見候、弥御堅固之由珎重存り、然光今度御歸國

示下り趣致承知り、其節可得御意と大慶存り、恐惶謹言、

松平薩摩守樣

之内有之外御藏地松永村·南方村·福嶋村之義、 (H南) (H間) (H間) 儀を無之り間、村高等書入申度由、手代衆申分御座り付、 出置申り、然處頃日山木與惣左衞門殿手代衆ロ、 衆御代合付、申談難成埒明不申以故、 於拙者其元樣に御斷被仰入、此方繪圖:御書記被成り樣 圖方之者共致對談、 委細致承知忝奉存り、 右繪圖之寫入披見片處、 其節差出り大和守領分、繪圖(伊東祐寅) 相除之張紙この差 何そ相違之 此方繪 御代官

全上

全上

-302 -

嶋津助之允樣

998

い 素可被仰下い、 時節還の如何存、

恐惶謹言、

被下り、 申談り、

尤繪圖方之者差越可申達義御座り得共、 如何樣彼方は御斷可有御座存い間、

以飛札如是御座片、

若相違之儀及御座

元禄十四年五月廿七日

山田次郎左衞門

祐 昌 割

川

崎

權左衞門 福之衞門

伊

東

嶋冿主計様 人
る
御
中

言

差越申り、

宜様御差圖賴存み、

爲其如此御座片、恐惶謹

依之今度役人共

綱貴公御譜中

正文在文庫

筆致啓達り、然素國繪圖出來:付あ、境涯繪圖證印之

共差越申り間、 元禄十四年六月朔日 朱为 ** 先比家老共口委細預示以旨令承知以、 宜樣御指南賴存み、 嶋津淡路守 爲其如此御座り、 依之今度役人 恐

惶謹言、

999

全

家老中ゟ家來共ロ委細預示り由承之り、 筆致啓達外、然素境涯繪圖證印之儀:付、先比其元御 全上

1000

全上

全上

門・上山郷右衞門と申者差越被申い間、 仰下水、 南被成可被下り、 筆致啓上候、然素境涯繪圖證印之儀:付、 右式淡路守方に申聞い、依之今度春成與五左衞(臺華順久) 爲其如斯御座外、 恐惶謹言、 萬端可然樣御指 先頃委細被

喜 入 安 房樣

宜樣被成可 御事多

種子嶋藏 付 主 人樣

殿樣 人
る
御中

肝

鳴津淡路守 惟久判

元禄十四年六月朔日 朱为**

嶋津主計様

人へ御中

全上 全上

元禄十四年六月朔日

町田彌次右衞門

外 純 正記 判

神宮寺

伊集院三右衛門

傳左**衛**門

字 宿

殿樣 参人、御中

肝 種子

主

喜

安

房樣

藏人樣

助之允樣

1002

正文在文庫 綱貴公御譜中

代百疋・御樽代二百疋目錄之通進上之仕り、將又於御當 出舩目出度奉存り、此段爲可申上差上使申り、依之御肴 筆啓上仕候、御道中弥御勇健大坂御着、

近《可被遊御

後喜之時候、誠惶誠恐敬白 元禄十四年 六月三日

松平修理大夫 松平修理大夫

地一門中相替儀無御座片間、尊意安可被思食片、猶奉期

進上 (鳥津縄貴)

町田彌次右衞門

伊集院三右衛門

傳左**衛**門

宇 宿

主計樣 参御与力衆中

嶋岛

— 304 —

者差越被申り間、萬端可然樣御指南被成可被下り趣、宜 預御心得り、誠恐惶謹言' 被仰下��、依之今度春成與五左衞門・上山郷右衞門と申 然光境涯繪圖證印之儀:付あ、先頃其許御家老中ゟ委曲

筆致啓上り、貴殿樣弥御勇健可被成御座と珎重奉存り、

元禄十四年六月朔日 **** 神宮寺

外

純正記判

1003

全 全上 爲後證仍如件御座候、以上、

印形雙方は請取置之申り、私共繪圖用事申付相勤り付、

繪圖相調差上り、依之互堺筋之繪圖一紙調之、各立合加

嶋に被差出外付、嶋津淡路守領内堺地面・村付等吟味仕、(誰 2)

仰渡、日州御相給之御方御領分之繪圖鹿兒

可被遊旨被

今度諸國繪圖御改付あ、日州之清繪圖從

1004

綱貴公御譜中 正文在文庫

先頃罷越い節、互致證印置い境繪圖此方領分相改い處、 少及相違無御座り、 筆致啓上り、各様御堅固可被成御勤珎重奉存り、然素 右之趣爲可得御意如斯御座り、 恐惶

元禄十四辛巳歲六月六日

春成與五左衞門印

嶋津淡路守内

上山郷右

衛門印

猶、態以飛脚可申上৸得共、乍略儀用便宜৸、已上、

元禄十四年六月三日 ****

河野市右衞門

河内山

村田平右衞門樣等)

人、御中

川上八郎左衞門樣

1005 全上

全

進旨被 今度諸國繪圖御改付、日州之清繪圖此御方より可有御調 仰渡、 日州御相給之御方より御領分之繪圖鹿兒

就夫互堺筋之繪圖一枚調之、各立合加印形、此節雙方な 嶋に被差越、御領堺地面・村付等致吟味、繪圖相調候、

請取置之候、我、事繪圖御用相勤候付、爲後證仍如件、

元禄十四辛巳年六月六日

村田平右衛門即

川上八郎左衛門母

綱貴公御譜中

知仕、目出度御儀:奉存り、然素此度 益御機嫌能、先月晦日御發駕、木曾路御通道被遊り由承 一筆致啓上り、先以暑氣之時分こ御座り得共、 正文在文庫 近衞様に 中將樣(島津綱貴) 中將

様御見舞被遊い儀こ付、五月三日之日付この文箱差上い

1006

中將樣御調進

-- 305 --

全上 全上

細素 處 内へこの申聞せ置い間、 下 被下り、 入御滿足之御事:御座り、近、御上京可被成と御待被遊 被備 御内證:の段、私承り儀共、先爲御考伊集院主水迄(次明) 謹の拜見仕、 御着之節萬喜可申上り、 恐惶謹言、 御覽、 右之旨 御意之趣五月十八日之御報:具:被仰 御中途迄も可申上と奉存り、 開白公(近衛基凞) 此等之旨宜樣:被仰上可 右府公2申上外、

元禄十四年六月八日

宮之原甚大夫殿

蓮光院

類□判

1009 全上

砌光爲御安問御使者被下忝奉存り、

猶奉期後音之時い

當御地御發足之

道中御

堅固御歸國可被成と珎重之御事御座り、

筆致啓上
い、御手前様
先頃首尾能御暇被仰出、

恐惶謹言

元禄十四年六月九日

松平薩摩守樣

参人へ御中

수

井上大和守正通判

其御方御領分地面御改被成い處、少及相違無御座旨被仰 儀存以、爲御返答如此御座以、 越得其意、此方家老中并嶋津主計は申聞り處、(ホルト) 今月三日之貴札相達致拜見い、各樣弥御堅勝御勤被成い 由珎重奉存り、然素先比御越之節互こ致證印り堺繪圖 元禄十四年六月十二日朱から 正文在文庫 此方ゟゑ便宜を以御報進申事こり、以上、 猶、態便宜りの御書音被成り由爲入御念儀:存り、 恐惶謹言、

委

川上八郎左衞門

爲入御念

右 經衛 寧判

村田平

河野市右衞門樣

泂

内 山清

八樣

伏見御着之由珎重存片、然素近衞大納言殿に御縁組之事(家 冬) 雖未申通い令啓達い、 暑氣之節片得共道中御勇健、 今日 1008

綱貴公御譜中

綱貴公御譜中

入外、 致承知目出存み、 同意:別の大慶存り、 隨の御太刀・馬并干肴一種令進入り、 大納言殿に素手前儀御由緒依有之、 嘉儀爲可申述、 御旅宅迄以使札申 猶期後喜之

御

元禄十四年辛巳五月晦日、

綱貴發江戸歸國、

家老新納市

元禄十四年六月十二日

時ル、

恐

₹ 謹言、

1010

全

숙

薩摩中將殿(島津綱貫)

(坊 俊))))

之大慶御同意存み、 勝今日伏見は御着之由珎重存り、 入り御太刀目録之通令進入之り、 縁組之事目出度存み、 雖未申通り一筆令啓達り、 嘉儀爲可申述、 大納言殿にハ下官こも御由緒依有 甚暑之節こり得共、 然素近衞大納言殿 猶期後喜之時い、 御旅館迄以使札就申 道中御堅 恐惶 ÌΖ 御

元禄十四年六月十二日 薩摩中將殿

謹言、

坊城宰相(俊精)

判

駕、 日到:|著伏見一、先是恩三免亀姫備:|(編貴女子) 正久珍、 取三陸於木曽地二、 用人猿渡喜右衞門信安·野村太左衞門廣貫等從上 自:濃州大井驛:奔,駕、六月十二

近衞大納言家久公之

第1、其後訪||尋諸司代松平紀伊守信茲||、而入||平松宰相 伏見」、久珍・信安・廣貫扈從、先到三京都四條室町之旅 好逑1、依レ之今般爲レ謁| 殿下1、昱十三日早天綱貴發三

平松宰相・石井三位・交野三位・櫻井三位・町尻三位・(待方) (符豊) (特香) (兼供) (兼集) 山井修理大夫・石井少納言各伺候也、綱貴著二座寢殿 階 カケパン 時方之宅、乃改:1裝束:、 殿下華第一、柳原大納言・高野大納言・裏松大納言・ 著:i風折烏帽子·狩衣·指貫:、

二重三十匹·干鯛一 乃賜飲獻酬、 間 | 謁三于 關白基凞公 終而綱貴獻上御太刀一腰・白銀三百枚・羽 箱・昆布一箱・樽一荷于 右大臣家凞公 大納言家久公二、 基熈公

御太刀一腰・馬代黄金十枚・羽二重三十匹・干鯛一折 御太刀一腰・白銀二百枚・干鯛一箱・樽一荷于 家凞公、

新六・菊重靱負等陪||膳于綱貴|、 息所1賜:1饗應二、 昆布一折・鯣一折・樽三荷于 箱・干鯛一箱・ 樽 浦野杢助 一荷于 ・佐竹右近・藤田市佑 品宮上也基興公之、 家久公、白銀百枚・昆布 終而奏言音樂二、 其後於二休 音樂

-307 -

平調・音取・五常樂急・合歡塩・長慶子等也、是時 基凞公降席而弄:鳳笛:乃音樂既終矣、以 家久公俊成

卿九十賀之歌書應雲院與白

家凞公

後水尾帝之宸翰御製之連歌所賜 闕、 之1也、酉上刻退1出華第1而歸1伏見僑居1、即日 政所品宮折枝等鹽場三于綱貴」、 基凞公御太刀一腰魚家 殿下諸大夫奏,,達 基

1012

有三恩賚之品 1也、

正文在文庫 **仝御譜中**

寢殿階間圖

弊此所

市

本

な

以

上

え

家

足

の

自

見 囡 未形以和風囲之 家臣布衣以上於 **式胚御難** (来縣) 石壇 寝殿 到 同公 七人此廊下"家臣布衣以上 緑 中符聯貴蒂函统出訊邮補上以 縁 御奏者所 於此兩座覆籠廻 并步行之面、御 此席 御着座 臣家凞公大納言家久公 難尽 近衛基凞公右大 娫 書院立之通り

珝

路兵部太輔・佐祭 安殿公 家殿公 佐久間賴母|來申于伏見第上勞」之、且 家久公及 品宮令トュュ進藤筑後守・今大(長 房)

- 308 -

正文在文庫

關白殿 (基础) 正文在文庫

燒鳥

同

鰭立

箸

大納言殿御盃事

海苔 干物

小各

右大臣殿御盃事

削物

小各

小(マヹ **初献**

殿下御盃事

汁

同

饅頭

御陪膳

御陪膳

右大臣殿・大納言殿(家祭)(家祭)

石井少納言殿(行康)

役送

今大路治部少輔

役送

山井修理大夫殿

齋藤左京大進

浦野杢助

菊重靱負 豐岡新六 藤田市佑 佐竹右近

1015

正文在文庫

音取

御陪膳

- 309 -

合歡塩

五常樂急

綱貴公御譜中

正文在文庫

御意い之間、 被成御出京、 筆啓上仕り、 私宅口及預御出忝奉存り、 爲御禮如斯御座り、 然素御國元ロ之御暇被仰出、 恐惶謹言、 其節忌中故不得 御登付御願

元禄十四年六月十五日#カキ 松平薩摩守樣

松平紀伊守

参人、御中

1017

此御書古貴公御譜中"在リ

正文在文庫 全御譜中

時候、

誠惶誠恐敬白

私事後無恙罷在外間、

尊意安可被思食い、

猶奉期後喜之

覽之み、

右御禮旁如是御座り、恐惶謹言、

種・御樽一荷進上之仕候、於御當地一門中別條無御座、

奉存り、右之御祝儀爲可申上、差上輕使申候、

仍御看二

筆啓上仕候、先以海陸益御機嫌能可被遊御歸國目出度

1018

綱貴公御譜中

端午之御内書可相渡い間、明日五 正文在文庫

12

可罷出外、

以上、 元禄十四年六月十七日 半時 御城

松平薩摩守殿

留守居

1019

正文在文庫 全御譜中

彼仰聞り同氏式部少輔由緒書之儀、 被遣被下令拜見り、誠以段、被入御念忝存り、將又其節 上山郷右衞門差越い處、 領内と此方境涯繪圖證印之儀:付、家來春成與五左衞門・ 筆致啓達り、 弥御無事可爲御勤と珎重存り、然素其御 御差圖被成首尾好相濟、涯繪圖 得其意別紙書付令進

— 310 —

元禄十四年六月十五 日

松平修理大夫

進上中將樣

右之趣留守之者、以書付豐後守殿に申出り趣、左:記

全上

正文在文庫

元禄十四年六月十八日朱カキ

嶋津主計様 (忠休)

人
マ
御
中

嶋津淡路守

之事、

嶋津式部少輔昨三日死去仕り、

同氏左京服忌之儀林大(島津惟久)

八月四日

仰聞い、養父之忌三十日服百五十日:あ御座い、以上、 學頭殿に参上仕奉伺之候處、養父之服忌受之可然旨被

右之通式部少輔儀

公義養父:爲相究儀り間、

左樣御意得可被成外、

且亦

嶋津主税儀御朱印頂戴不仕り、 以上、

元禄十四年六月十八日

式部少輔死去:付、同日阿部豐後守殿&留守居之者被(E z)

拙者致在郷い事

式部少輔儀、元禄六年癸酉八月三日致死去り、

其節素

同氏式部少輔、(島津久壽)

拙者從弟この御座い事、

1021

召寄、

拙者と式部少輔續之儀御尋被成り付、

從弟こ

正文在文庫

續仕り、 御座り、

右式:御座り得煮、養父分:あも可有御座哉 拙者幼少之時分より式部少輔番代相勤家督相

豐後守殿被仰い者、拙者服忌之儀林大學 (信策) 大學頭殿差圖之趣豐後守殿口可申達旨御

全上

被下、其上段ゝ御懇意被仰聞৸旨、 左衞門・上山郷右衞門差越申い處、 然素其御領と此方堺涯繪圖證印之儀付あ、先頃春成與五 筆致啓上候、貴殿樣弥御堅固御勤仕可被成珎重奉存め、 一、致承知淡路守方(島津惟久) 此方繪圖迄御調御渡

老中阿部豐後守樣并林大學頭樣へ奉伺之外處、養父之服(音)(質) 仰聞奉得其意い、 忌請可申旨御差圖被遊い付其通仕い、委細之儀以書付今 式部少輔死去之節淡路守服忌之義、(島津久等)

は中聞い、於拙者共忝奉存い、將又式部少輔由緒之儀被

-311 -

林大學頭殿に留守居之者罷出、 養父之服忌受いの可然之旨差圖有之い事、

拙者服忌受い日數之儀

相尋い處、

返答御座り事、

頭殿に相尋、 と申上い處、

此御書吉貴公御譜中二在リ

筆啓上仕候、 正文在文庫 綱貴公御譜中

御道中弥御機嫌能大坂內被成御着、

預御心得り、誠恐惶謹言、 度淡路守より申進候、右之段旁爲可申上如此御座り趣宜

元禄十四年六月十八日

神宮寺 外

純 正記 判

町田彌次右衞門

伊集院三右衞門

慶存い、且又

費札致拜見り、如來命先日素於時方卿宅、久、得貴意大

近衞殿始の御見舞り處、首尾能珎重之事

傳左 衛門 将 門

宇

宿

坂御出舩之由承い、

海路無別條御歸國御左右待存り、

時方卿御取持仕いる、御滿足之由御慇懃之至い、

大

重の可得御意り、恐惶謹言、

元禄十四年六月廿一日朱兆年

平松入道(時里)

松平薩摩守樣(島津綱貞)

御報

参御与力衆中

鳴 主計様

近

1024

全上

依之目錄之通進上之仕片、將又於御當地一門中相替儀無 可被遊御出舩目出度奉存り、此段爲可申上差上使申り

尊意安可被思召り、

猶奉期後喜時候、

誠惶

誠

と得御意大慶存り、於近衞殿及諸事首尾好目出度存り、 貴札致拜見候、如來意去十三日於平松宰相亭、久、緩、

關白殿始御喜悦被遊外御事御座外、其節御取持申外義被(是衞基屬) 入御念り、 被示聞い旨過分之至存り、 從是以書狀可申入

恐敬白 御座り間、

元禄十四年六月廿一日

松平修理大夫

進上 中將樣

全上

1023 全上

— 312 —

全上 全上

之處、 元禄十四年六月廿一日 却の御報罷成り、 猶期後音之時り、 恐惶謹言、

石井少納言

松平薩摩守樣 御報

全上 尚、追、御祝義等相調可申と目出度存み、以上、

1025

소

存外、 却の御報罷成り、海陸無滯追付御下着之事と祝入り、猶 持申い義被入御念被示聞之趣致欣悦い、 得御意大慶存り、於近衞殿及段、首尾好御滿悦之段御尤 貴翰致拜見候、如來意去十三日於平松宰相亭久ゝ寬ゝと 關白殿始各御喜悦被遊り御事御座り、其節御取(蓋) 自是及可申入義

元禄十四年六月廿一日 松平薩摩守樣

御報

期後慶之時4、恐惶謹言、

石井宮内卿

全上

1027

全上

猶

愚息時春御傳筆之趣申聞候、

入御念忝存み、

始

御参會り樣珎重存り、尚期後喜時り、恐惶謹言、 御慇懃之御禮忝存り、已來御雙方御繁榮被成りあ、 御退出りの、重疊目出度存り、其節御取持等申入り段、 且又近衞殿に始の御見舞被成り處、萬端無殘所御首尾好 り、抑去十三日於平松宰相亭久、寛然と得御意欣悦存り、 愈御堅康:あ大坂ロ御下、其後御出舩之由令承知珎重存 被入御念り御書面之趣令披閱り、 如御命暑氣酷い得共、

元禄十四年六月廿一日

交野三位

松平薩摩守樣

御勇健御歸國之御左右待入り、 大慶存り、何之風情無之處、重疊預御禮欣悦存候、 熟之御禮被仰下忝存4、 事首尾能目出度存候、 貴翰致拜見候、如來命去十三日近衞殿に被成御伺候、 あ得貴意大慶存候由、自拙官相心得可申進之旨申り、 御取持申事及無御座り之處、 拙宅口及御光駕久、緩、得御意 恐惶謹言、 舩中 御慇 萬

全上 全上

元禄十四年六月廿一日 朱カキ

平松宰相

圖出來申り付、 一筆致啓上り、

貴様可爲御堅固珎重存り、然太當領清繪

時方

松平薩摩守樣

貴報

正文在文庫

1028

綱貴公御譜中

い間、今度及岡田新右衞門申付持参爲仕い、不相變御差 圖有之り樣願存り、右之趣繪圖御役人中ロ被仰付被下り 惣繪圖出來仕りこ付、前丶其御地繪圖御役人中ロ得御意 筆致啓上り、各樣弥可爲御堅固珎重奉存り、然素當領

ハ、可忝り、委細新右衞門口上:申含り、恐惶謹言、 元禄十四年六月廿四日 九津見吉左衞門

戸 村

恐惶謹言、

出京御目錄之通被掛貴意忝奉存り、

爲御禮如斯御座

筆啓上仕り、然素先頃御國元ロ之御暇被

仰出、

就御

種子嶋藏人樣

人へ御中

喜 嶋

1入安房樣

津 津 助

丞様

元禄十四年六月廿六日

松平紀伊守

松平薩摩守樣

参人く御中

1030 全上

全上

嶋津主計樣 人・御中

元禄十四年六月廿四日 九津見吉左衞門

口上:可申述候、恐惶謹言、

凌御座いハ、、御指圖被下い様賴入存い、委細新右衞門

村 惣右衞門

戸

門持參申付り、其許繪圖御役人中にも被仰渡、相違之儀 前、差遣得御意候間、今度及岡田新右衞 -314 -

全上 全上

1031

綱貴公御譜中 正文在文庫

公方樣御機嫌之御樣躰以使者被相伺之卟、 御札令披見阝、就甚暑之節

遂披露り、 恐、謹言、 4間可御心安4、

隨の目錄之通被獻之り、

各申談首尾好 益御勇健御事

元禄十四年六月廿六日

松平薩摩守殿

小笠原佐渡守

綱貴公御譜中

1033

今度御國繪圖御改:付、豐後國正保年中之古御繪圖ヲ以 正文在文庫

之際繪圖如此爲取替無相違所如件、 遂吟味、違變之所新御繪圖相改之候、

依之日向國境雙方

元禄十四年辛巳六月

稲葉能登守内

新 藏回

同

高木佐左衞門回

中川因幡守内 同

井上彦右衛門回

半

藏 面

本城源四郎殿松平薩摩守様御内 (綱 貴)

く謹言、 御心易み、

元禄十四年六月廿七日朱かき

松平右京大夫

1034

公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之り、

益御勇健御事り

間 恐

隨の目錄通被獻之り、紙面之趣得其意り、

御札令披見片、就暑氣之節

藤野休左衛門殿

之際繪圖如此爲取替無相違所如件

遂吟味、

違變之所新御繪圖相改之候、

依之豐後國境雙方

今度御國繪圖御改:付、

扣正文在文庫 綱貴公御譜中

柳

澤 出

-保 明守 判

松平薩摩守殿

— 315 —

日向國正保年中之古御繪圖を以

全 全上

花ケ嶋町之儀、(宮崎)

繪圖面村形之内:花ケ嶋町と相記、

肩

下繪圖相調進し可申り、

1035

全上

全

地面:無相違境涯繪圖相調り趣如件御座り、 今度國繪圖被 仰渡りこ付、御料と肥後國ロ境り分相糺、 依之此節指

御繪圖:村高相記り事、先達の懸御目り下繪圖之通:、

宇野磯右衞門側山木與惣左衞門内

勝 部 源 五. 郎田

元禄十四年辛已六月

出申り、

以上、

紙この相記、 意存り、乍然枝郷等之儀:付、今一應得御意不申りて 何ゑ村形之上:張紙:相記、早ゝ進シ可申之由、得其 ハ、下繪圖難相調存みこ付、 伹 新下繪圖相調、村高も張紙:の書記、進シり樣: 御留置可被下外、 と被思召りハ、、 懸御目申り、 此寫繪圖御戻シ可被下り、追る 此通このも不苦被思召り 先達の被遣御寫繪圖:付

地面:無相違境涯繪圖相調い趣如件御座い、依之此節指 今度國繪圖被 仰渡り、付、御料と肥後國に境り分相糺、

元禄十四年辛巳六月

出申り、以上、

藤野休左衛門 **慰**松平薩摩守内

本

城

源

四

郎便

元禄十四年辛巳六月

綱貴公御譜中

正文在文庫

1037

高木佐左**衛**門殿 稲葉能登守様御内

田

藏殿

岩 手

新 藏殿 井上彦右衛門殿中川因幡守様御内

勝 部

源五 郎匣

宇野磯右衞門@ 山木與惣左衞門內

-316-

仕、 사 И の御座い得ハ、 と相究りハヽ、花ケ嶋之郷高ハ、親村は相加書記申り ケ嶋に高分りい七ケ村之内、花ケ嶋に近キ村を親村こ **蒸角花ケ嶋町之儀ハ新村:相極、** 肩書:相記可申由被仰聞い得共、 年、郷帳:花ケ嶋町と別格:有之り、 郷帳と御繪圖面と相違仕い段如何奉存 先達のも得御意 村高も郷帳之通 其上枝村

郷帳と御繪圖相違仕りのも不苦儀:御座りハ、、 如何樣共御指圖次第:相極可申り

書記りてハ如何可有御座り哉

船庵本 高も相記

り様

こと

御書

付被

下い

、 申達り得ハ、兩村之内相考、 くい違い段如何こ存り、 相替い得共、 前寛永九申年ゟ壹ケ村:相成申り、 曜村之儀、先年ハ貳ケ村こて御座り得共、 御古繪圖之通:仕置りあハ、當時郷帳と 此段素去比源五郎罷越外時分(勝)部) 一村ヲ親村こいたし、 弥其通:相極可然奉 地面等ハ古來・不 七拾年已 村

那珂郡南方村之内上南方村、

書:何村之内と高付なし:書出可然由、肩書之儀ハ花

右五ケ所枝郷之儀ハ當時郷帳こも出不申、地面等も古 兒湯郡穗北村之内南方村,

外御領内も右之類御書出不被成事こりハヽ、此方ゟも :付、枝郷と書出不申りても、何之障儀も無御座り間 來:替事無之、内證:の支配方違い迄之儀:て御座り

書出し申間敷み、

穗北村之内、 故、 書出い間、 畑江村ハ境涯繪圖:不相見りの不叶枝村 本繪圖:可書出由被仰下り、

郡違之事、佐土原地下人と此方地下人と出合、今少吟郡違之事、信韓郡 其元ゟ被遣り御寫繪圖:相記懸御目申り

出合様子承合い處、 味之上可申遣由被仰下いこ付、 弥郡違之儀先達の得御意い通相違 其段所之者共へ申付、

無之由申り、

N 村居違之事、 何分思召寄之程被仰聞可被下り 御繪圖持參仕い節、 可被仰聞之由被仰下

聞可被下外 、書付このも入申事こ御座りハ、、文言等御指圖被仰 左り

郷帳難讀之村名こハ墨この片假名ヲ付り様こと、

去比

同郡瓜生野村之内大瀨町村 同郡池内村之内江平村、 宮崎郡大田村之内古城村、

存收

-317-

案文在文庫

御札令拜見り、甚暑之節り得共、各樣弥御無爲御勤之由

綱貴公御譜中

1039

重奉存み、 正文在文庫

禮爲可申上呈愚札み、 恐惶謹言

元禄十四年六月廿九日 紫** 松

薩摩守様

参人く御中

自>是致>陸、七月三日到=著薩州脇元二、同十日入三廳城二、(阿久根)

經:長州赤間關,、著:舩筑前國蘆屋,、

乃馳||島津主水久輔於東武|、是爲奉ュ謝||歸國之忝|也、

綱貴公御譜中

筆啓上仕候、甚暑之節御座り得共、愈御堅達之御事珎 昨日光御使者殊更御獻上御殘之泡盛一壺

辛一器被下之、誠被入御念り御儀、 忝仕合奉存り、

右御

1040

全御譜中

· 塩

安藤駿河守

同二十日開」舩、

同月十五日、綱貴發:|伏見:|下:|大坂|、同十八日駕\舩、

1041 綱貴公御譜中

正文在文庫

爲申之由候、委曲新右衞門殿可被相達い間不能詳り、 則繪圖役人共は申渡致吟味い處宜御座い付、 意い樣可申付之い、 新右衞門殿を以、被差越之り間、 珎重存り、然素御領分惣繪圖致出来りこ付、 御紙面之趣令承知御念入之御事り、 不相替繪圖役人共得御 繪圖請取置 此節 恐 \mathbf{H}

惶

哉

元禄十四年

道法之儀太先達の懸御目い帳面之通この能可有御座り

圖被仰聞可被下り

迄も付い様こと被仰聞い上ハ、不殘付可申い哉、

被仰聞り、

難讀之村と有之りてハ、何共難計り、

清濁

御指

元禄十四年巳七月二日

(喜 (種子) (本子) (

戸 村 惣右衛門様

九津見吉左衞門樣

各樣弥御堅固之旨珎重奉存外、

然老此方

1042

筆致啓上り、 仝上

全上

元禄十四年七月六日

神宮寺 外 純正割 仕儀無御座り、併頃日之儀素存不申り由申候、此等趣爲

右之趣相尋申り處、式部少輔・主税方に右之品

頂戴爲

言

こも不承り、雖然爲念主税役人和田吉左衞門と申者召寄、

申上旨、奉得其意吟味仕い處、右式頂戴仕い儀、

我、共

可申上如斯御座候趣、

宜預御心得候、

誠恐惶謹言、

町田彌次右衞門

伊集院三右衞門 宿 他 左 衛門

字

鳴 主計樣 參御與力衆中

1043

綱貴公御譜巾

筆致啓上り、 正文在文庫

貴樣弥御堅固御座い由珎重存い、

然去此

首尾好相濟忝存外、 圖役人衆無相違御請取致大慶い、 方領分清繪圖出來、 委細壹岐守方へ可申遣り、 先頃岡田新右衞門差越申り 早竟其元樣御懇意故! 且又御口 御繪 繪圖役人衆無相違御請取致大慶り、 領分清繪圖出來、 先頃岡田新右衛門差越申4處、 早竟各樣御懇意故, 其元御

音物、 右衞門逗留仕り内、 首尾好相濟忝奉存み、委細壹岐守方は可申遣み、(三龍明數) 彼是過分至極存候、 乍每度色< 御馳走被仰付、 右御禮旁如斯御座り、

殊更預御 恐惶謹

且亦新

後、 N

筆致啓上候、

然老先日被仰下片嶋津式部少輔同氏主税方に分知以(炎灣) (交灣) 御判物又素知行之御書出シ等致頂戴り哉、否之儀可

貴殿様弥御勇健可被成御座と、

珎重奉存

元禄十四年七月九日

九津見吉左衞門

嶋 津 助 丞樣

戸

村

惣右衞門 惣右衞門

喜 入安 房樣

種子嶋藏人樣 八く御中

-319 -

全御譜中 正文在文庫

1044

全上

全上

頃被訪閑居、殊目録通被贈與、芳情之至彼是難盡短筆者 翰令啓り、 聊爲述謝如此り、 返、先日雖來臨候不能熟話、于今殘念之事的也、 此節定の無事可爲歸國珎重思給り、 猶期後慶不詳り、 謹言、 然素先

薩摩中將殿(島津網費) (近衞基凞 (花押

No.3

元禄十四年七月十日朱允を

綱貴公御譜中 正文在文庫

1046

御屆預御使者、 筆啓上仕り、 被入御念儀御座り、 然素今度御暇被 仰出之、御出京之節爲 且亦御目錄之通被掛

御意辱奉存り、 元禄十四年七月十三日 爲御禮如是御座外、

松平紀伊守

恐惶謹言、

松平薩摩守樣 参人く御中

去ル九日之御札相達致拜見候、如仰殘暑之節御座り得共、

案文在文庫

1047 綱貴公御譜中

筆啓上仕候、 先以海陸益御機嫌能可被遊御歸國目出度

御樽一荷進上之仕り、 奉存り、右之御祝儀爲可申上差上輕使申り、仍御肴二種

Ŋ

恐惶謹言、

元禄十四年七月九日

九津見吉左衞門

嶋津主計様

戸

村

惣右衞門 惣右衞門

誠惶誠恐敬白、

人~御中

上之趣、具新右衞門爲申聞承知仕り、

右御禮旁如斯御座

る無恙罷在り之間、尊慮安可被思召り、猶奉期後喜時候 於當御地一門中別條無御座、

松平修理大夫

元禄十四年七月十日

進上

中將樣

-320

誠惶誠恐敬白' 元禄十四年八月朔日 ****

存申候、 御歡爲可申上如斯御座り、

正文在文庫 綱貴公御譜中

筆啓上仕候、然素嶋津左京奥、先月廿二日平産目出度(確久) 猶奉期後喜之時候!

松平修理大夫

等御座りハ、、無御心置可被仰聞候、以上、 併御心易得御意致大慶り、入御念其御地は用事ゑり 尚、當春以來光、折、當地に御越御苦勞千萬存り、 於當地及相應之御用 N 示聞懇情之至彼是悦入り、 清翰披閲、雖殘暑之節弥平安、殊無恙歸國之由、

謹言、

元禄十四年八月一日朱为半

元禄十四年 七月十三日

ハ、、可申進之旨是又忝存り、

薩摩中將殿

No3

川上八郎左衞門(久・淸)

村

田

[平右衞門

1050

岡田新右衞門樣

御報

綱貴公御諸中

正文在文庫

爲八朔之御祝儀、 獻之り、 元禄十四年八月三日 首尾能遂披露候、 以使者御太刀一腰・御馬代黄金十兩被 恐く謹言、 稻 葉 丹

秋 正通判

小笠原佐渡守 元 但 喬馬 朝守

進上 中將樣

弥御堅勝御勤被成り由珎重奉存り、先比素其領分之御繪

存り、依之被仰聞御紙面之趣致承知、御慇懃之至存り、

御持參被成、

首尾能相濟御滿悦之由、至我、及御同意

將又嶋津主計方へ御傳筆之段申聞り處こ、爲入御念儀忝

由申り、

猶期後音之時み、

恐惶、

— 321 —

1049

全御譜中

正文在文庫

(近衞基際 (花押

且此邊各《無事り、

尚期後音 早速被

全御譜中

扣正文在文庫

綱貴公御譜中

正文在文庫

今度御國繪圖御改:付、正保年中之御繪圖を以遂吟味、 如是相改、國境雙方際繪圖爲取替無相違處如件、

元緑十四辛已年八月十一日

細川越中守内 (編利)

熊谷早之丞即

平井喜右衛門回

松平薩摩守樣御内(島津綱貴) 本城源四郎殿

藤野休左衞門殿

今度御國繪圖御改:付、正保年中之御繪圖を以遂吟味、

1051

松平薩摩守殿 呵 部 豐後 正武判

土

屋

上相 摸 守

如是相改、

國境雙方際繪圖爲取替無相違處如件、

松平薩摩守内

藤野休左衛門即

本城

源四

郎即

元禄十四辛巳年八月十一日

細川越中守様御内

平井喜右衛門殿

熊谷早之丞殿

1053

全

全上

今度御國繪圖御改:付、正保年中之御繪圖を以遂吟味、 如是相改、國境變方際繪圖爲取替無相違處如件、

松平薩摩守内

藤野休左衞門即

本城 源四 郎郎

元禄十四辛巳年八月十一日

細川越中守様御内 平井喜右衛門殿

熊谷早之丞殿

- 322 -

二十八日久輔登 先是七月十日、

營、

献二上練芭蕉布百端・干鯛一箱

綱貴馳ニ嶋津主水久輔於東都二、同年八月

1056

全御譜中

1055

明十五日例月之御禮無之卟間、 正文在文庫 吉貴公御譜中

1054

元禄十四年八月十四日

秋元 但馬守

不及登

城外、

以上、

小笠原佐渡守

土

屋 相

摸守

守

阿部豐 後

松平修理大夫殿(島津吉貫)

綱貴公御譜中

正文在文庫

歸國御禮之使者、明廿八日五時

御城戶可差出り、且亦使者自分之御禮及可申上り、以上、

元禄十四年八月廿七日

土 相摸(土屋政直)

松平薩摩守殿

留守居

1057 綱貴公御譜中

正文在文庫

亀姫君近衞大納言殿へ御縁組之事、首尾能被(稱亞勢)(家人) 良久不申通り、先以御勇康:御在城之由珎重存り、今度

依之爲祝詞內《以愚札令申以、猶期後喜節以也、

蓮光院致演説令存知之處、可爲大慶段察入、目出度存4、

仰出之旨、

元禄十四年九月十八日 薩摩中將殿(島津綱貴)

1058

綱貴公御譜中

正文在文庫

無之、亦未舩中之者不殘置樣:御領內堅可被仰付り、若 遭難風陸近乘來片煮、如例番舩等被附置、 筆啓上仕り、 吴國舩近日歸帆申付外、 於浦、飛乘之者 日和次第出舩

可被仰付り、爲其如此御座り、恐惶謹言、

鯣一箱・昆布一箱・樽二荷・、奉ュ謝!!賜賜ュ告歸ュ州之辱!(ママ) 久輔亦從先規獻二上時服三・御太刀・銀馬代二、奉と

謁手

也

將軍家二、

且以:1時服三・羽織一:賜三于久輔!、

-- 323 --

<u>全</u>上 全上

御札令披見り、

元禄十四年九月三日 朱7*

丹羽遠江守 長守判

近藤備中守

人
る
御
中

全上

全上

1060

松平薩摩守殿

御札令披見り、

公方様益御機嫌能被成御座恐悦旨尤り、將又今度被下御

着付ゐ、爲御禮以使者如目録被獻之��、右之趣遂披露候 其上御馬并白銀・時服拜領之難有之由得其意り、國許到 公方樣益御機嫌能被成御座恐悦旨尤片、將又今度被御暇(トロルカ)

御前に被召出、入念り段御喜色之御事り、恐く謹言、

處

元禄十四年九月四日

元禄十四年 九月四日

恐、謹言、

松平右京大夫

就國許到着爲御禮以使者如目錄被獻之片、紙面之趣承屆 暇、其上御馬并白銀・時服拜領之、難有之由得其意り、

柳澤 出

松平薩摩守殿

保明明明

1061

全上

稻 葉 丹 後 守

秋

元

但

香期 有明判

筆致啓上候、爲重陽之御祝儀御目録之通被懸御意忝奉 全上

土

屋

相

政直判

阿 部豐

正武判

小笠原佐渡守

存り、爲御禮如此御座り、

恐惶謹言、

元禄十四年九月四日

稻葉丹後守

松平薩摩守様

之段令祝着い、恐惶不宣

1062

全上

爲重陽之祝儀、 小袖五到來欣覺候、 委曲小笠原佐渡守可(長 軍)

元禄十四年九月七日朱がき

述好也、

薩摩

中將殿

墨綱 印吉

1065 爲今年之嘉事、芳札殊目錄之表被相贈之、入念之段忻然

之至り、 猶期後喜之時み、

恐、不宣、

元禄十四年 九月十日

侍從吉貴御判

回復 中城王子

1066

全上

1063

吉貴公御譜中

入念以之段令怡悦以、猶期後喜之時以、

恐惶不宣、

元禄十四年九月十日 謹上

侍從吉貴御判

爲肇年之佳祥被差渡使翰、殊被準恒例目録之表贈給之、

4、爲數目錄之表被相翰之、入念人之段令祝着件、、</ 來札令披見片、 先頃妹近衞大納言殿縁組首尾好被 恐 **〈**

仰出

不宣、

元錄十四年 九月十日

侍從吉貴御判

回復 中城王子

正文在文庫

1067

綱貴公御譜中

御札令披見み、

公方樣御機嫌之御樣躰以使者被相伺之り、

益御勇健御事

入念 仰出

琉球國司

4 儀相達、爲祝儀使者以澤岻親方目錄之表贈給之、 芳翰令披見い、

先頃妹近衞大納言殿縁組首尾好被(家 久)

1C64

全上

-325

謹上 琉球國司

元禄十四年九月十日

侍從吉貴御判

中將樣被下御書、謹あ致拜見卟、先以弥御機嫌能被成御^(編貫) 全上

全上

全上 全上

可御心安外、 御札令披見り、 公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之片、 隨の御肴一種被獻之り、

恐、謹言、

元禄十四年九月十三日朱沙

松平右京大夫

澤 出 保明 保明守

柳

松平薩摩守殿

1068

い間可御心安り、隨の御肴一種被獻之り、各申談首尾好

座珎重奉存り、然素私女致平産女子出生仕り段達

爲御祝詞御目錄之通拜受仕、誠被爲入御念之段、

極奉存候、將亦松壽院方に御書面之趣申聞い處、

遂披露り、恐々謹言、

元禄十四年九月十二日朱沙。

阿部豐後守

松平薩摩守殿

露り、賴入存り、恐ゝ謹言、 右之御請爲可申上御自分迄如斯御座り、 存候、拙者前より可然様御禮申上り様こと申事御座り、

以御序宜預御披

元禄十四年 九月十三日 朱於書

嶋津淡路守

嶋津助之允殿(忠守)

1070 綱貴公御譜中

紙面趣得其意り、

益御勇健御事い間、

如承意 正文在文庫

種被懸芳慮、 公方樣倍御機嫌能被成御座恐悦御同意り、然素其地之一 御懇情之段過當之至存り、其表弥御無爲之

旨珎重之事候、 恐く謹言、

元禄十四年九月十六日 松平薩摩守殿

御報

水戸宰相

- 326

過分至 難有奉

御聞、

委曲被爲入御念以御

1071

綱貴公御譜中

正文在文庫

追く思存之趣、 事、附彼僧之口上り、

併不可過賢

凌御座い間、

追の自是可奉伺之り、

此旨宜預御披達り、

賴入存り、

恐く謹言、

慮い也、

然光蓮光院事長、在洛之故、 依好便呈一簡片、 弥可爲平安令遙察候、當所無吴儀り、 要用相達不堪怡悦之至り

此節歸山之間猶屬口上,條、

不能多端也、謹言、

菊月十八鳥

薩摩中將殿

No.4

(花押

全上

1072

全上

從

座り之由珎重奉存り、 中將樣被成下御書謹の致拜見り、先以倍御機嫌能被成御 才村之者共、歸參之儀被仰付৸處、 如被仰下い先達の申上い私領内三 承引難致由御座候、

是非歸參候樣こと被仰付りあれ、 先被召置、 以後時宜次第歸參片樣:及可被仰付片、 他領に立退い様子こ御 御領内何方に成共 何之

1073

全御譜中

爲當年之佳祥被差渡使翰、殊準恒例目錄通餼給令欣悦外、

猶期后喜之時り、恐惶不宣、

元禄十四年九月廿七日朱がき 琉球國司 中將綱貴御判

蓬上

1074

仝御譜中

之至存 4、恐惶不宣 間 芳札令披見り、其地弥平均之旨珎重事り、 元禄十四年九月廿七日 可安芳意り、將又從大清拜領之巻物三巻贈給、 中綱 綱貴 判 我等を無恙り

紙上之趣奉得其意、御懇慮之程別の忝次第奉存り、弥其 通被仰付り様、 則御請申上度奉存り得共、 今少申上度儀

N 鸭津淡路守

元禄十四年 九月廿三日

嶋津助之丞殿

厚情

-327 -

綱貴公御譜中

惶不宣、

元禄十四年 九月廿七日

中將綱貴御判

謹上

琉球國司

回報

元禄十四年 九月廿七日 中將綱貴御判

回復 中城王子

芳札令披見り、 あ、爲祝儀目錄之表被相饋之、令欣悦り、恐ゃ不宣、 龜姫方近衞大納言殿に縁組被 仰出い付

元禄十四年九月廿七日 中將綱貴御判

回復 中城王子

全上

來簡殊虎房丸出生之爲祝儀、 目錄之通被相贈、 欣然之至

り、恐ゃ不宣、

九月廿七日 中將綱貴御判

回復 中城王子

綱 負公七男、元禄十二年已卯 三月廿日誕生、幼名虎房丸後權七・久東ト稱ス、島

全上

爲今年慶事、芳翰殊被準佳例別錄之表被相贈之、忻悦不

斜外、 猶期後喜之時り、恐ゃ不宣、

1077

- 328 -

爲祝詞使者澤岻親方被差渡、目錄通贈給忻然之至り、恐 芳翰令披見り、龜姫方近衞大納言殿に縁組被仰出り付あ、 1078 全上

1079

1076

全 上

猶期後喜之時4、恐、不宣

元禄十四年 九月廿七日

中將綱貴御判

回復

中將王子

爲去年始之嘉儀、芳翰殊目錄之通被相餼之、欣然之至り、

津勘解由久當之云子、年十五才早世也、考照ニ供ス

1080

綱貴公御譜中

來翰令披見吖、

龜姫方近衞大納言殿口縁邊被 仰出い付

全上

1081

元禄十四年九月廿七日 中將綱貴御判

あ、爲嘉儀目錄之通到來之、令怡悦み、恐、不宣、

回復 佐敷王子

猶期後喜之時り、恐ゃ不宣、 爲去年始之嘉儀、芳翰殊目錄之通被相饋之、欣然之至り、 <u>소</u>上

元禄十四年九月廿七日 中將綱貴御判株が*

回復 佐敷王子

練蕉布十端 中將様に

芳札令披見い、年始之爲御祝儀、

進上之り段、首尾能達

貴聽り、

恐く謹言、

元禄十四年九月廿七日

肝 付 主 殿

種子嶋 藏人

喜入 安房

嶋津助之丞 嶋津助之丞

1034 綱貴公御譜中

壶 芳札令披見り、 龜姫樣御緣中被

仰出い、爲御祝儀練蕉布三端・燒酎一

貴聞い、恐、謹言、

中將樣に進上之い段、首尾好達

元禄十四年九月廿七日

肝付主 败

1083 全上

中將樣口御進上之段首尾能遂 御札致披見り、爲年始之御祝儀、練蕉布十端・焼酎

元録十四年 九月廿七日

肝付主殿

披露り、恐惶謹言、

二纛

種子嶋藏人

喜入安房

嶋津助之丞 鳴津助之丞

恩納按司

— 329 →

田場親方

貴翰致拜見候、 綱貴公御譜中 正文在文庫

吉貴公御譜中

正文在文庫

明廿八日例月之御禮無之��間、不及登 元禄十四年九月廿七日

秋元但馬守(喬知) 稻 に葉丹後守 (正 生)

小笠原佐渡守(長 重) 一屋相摸守(政 意)

阿 土 部豐後守(正成)

松平修理大夫殿(島津吉貴)

1085

鳩津助之丞 忠守判

喜 入 安 房 久亮判

種子嶋藏人 種子嶋藏人

田場親方

意忝次第り、

恐惶謹言、

元禄十四年十月二日

土屋相換守 政直判

松平薩摩守樣

御報

1087

城候、以上、

全上 全上

元禄十四年十月二日

御座り、恐惶謹言、

殿に御目錄之通被差進之り、遂披露り處、從私宜申述旨寫)

戸田長門守

松平薩摩守樣

綱貴公御譜巾

1088 御狀令披見り、

龜姫樣御緣中被仰出り、 爲御祝儀、練蕉布二端・燒酎

- 330 -

事り、爲御禮被差越使者旨致承知り、隨の目錄通被懸御 尾克御暇、道中御堅固御歸國難有思召由、得其意珎重御 公方樣益御機嫌能被成御座、恐悦旨尤存り、然素今度首

正文在文庫 綱貴公御譜中 1089

吉貴公御譜中

御狀令披見り、 上之旨遂披露দ處、

爲年首之御祝儀、

匠作様は練蕉布三端進(言質)

御喜悦之御事み、

恐~謹言、

元禄十四年十月三日

嶋津助之丞

田場親方

元禄十四年十月三日 田場親方

島津助之丞 忠守判

壺進上之段遂披露い處、

御喜悦之御事り、

恐、謹言、

1091

大藏久明譜中

同年十月十四日

綱貴公命十男而準二男、

元禄十四年十月十一日任家老職(

1092

綱貴公御譜中

妙谷寺門外廻り並木大木之儀素、(鹿児島)

龍伯樣妙谷寺御建立之節爲被召立置由、 **い趣有之、達** 貴聞い處、並木之儀素手懸不申樣こと可 妙谷寺鑑司申出

記置也、

申渡之旨

御意い間、

奉得其意向後伐以儀無之樣:可被

巳十月十六日

御國遺座印

取次

中原爲兵衛

Ш

奉 ·行所

寺社奉行所

即一右之通被仰渡片間、 被得其意妙谷寺へ可被申渡り、

元禄十四年巳十月十八日

寺社奉行所倒

嶋津淡路守 惟久判

1093

以上、

元録十四年十月六日

序之節宜御執成賴入存候、

恐、謹言、

承知仕、忝次第奉存り、右之御禮各迄雖申上り、

次人柄之儀奉伺之候處、

嶋津織部殿は被仰付候御意之趣(タム)

筆致啓達外、然素拙者用事等其御地口申上候節、

御取

嶋津助之允殿

- 331 -

福昌寺

1094

已上、

監司

右之通被仰渡外間、被得其意、向後不伐樣:可被續渡外、

已拾月廿日

妙谷寺

監司

福昌寺

ンイ

可御心安り、隨の御肴一種被獻之り、紙面趣得其意り、

公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之り、益御勇健御事り間、

御札令披見り、

正文在文庫 綱貴公御譜中

恐く謹言、

元禄十四年十一月三日 #3+

1095

正文在文庫 綱貴公御譜中

松平右京大夫

柳澤出 保明 保明 明守

松平薩摩守殿

1097

<u>소</u>上

全上

貴札致拜見り、

公方樣益御機嫌能被成御座、恐悦思召旨尤御事外、猶以

御樣躰爲御伺、

各迄以御使札被仰達之由、被入御念御紙

音之時候、恐惶謹言、

面趣令承知り、隨め御肴一種被懸御意忝奉存り、猶期後

- 332 -

1096

如前、被仰付、早、當津に可被差遣い、右之段從御

附置外間、日和次第警固御差添可被送遣之旨得其意奉存

去十日御領内阿久根と申浦ロ致漂着り付、如例番舩等被

去十三日之尊札拜見仕り、然素來朝之寧波出唐舩一艘、(中國新江)

丹羽遠江守長守判

近藤備中守

元禄十四年十月十八日

家來衆養委細被申聞承屆外、

恐惶謹言、

元禄十四年十一月十八日

稻

葉 丹 後 守

府由被

仰出み、

可被存其趣片、 及

恐ヾ謹言、

儀以使者被相伺之候、

高聞い處、

來年四月中可致參 將又參勤時分之

得尤こり、

恐、謹言、

公方樣益御機嫌能被成御座恐悦旨尤い、

御札令披見り、

正文在文庫 綱貴公御譜中

1100

焉此時久嘉矣、

1099

北郷久嘉譜中

元緑十四年十一月十五日、 久嘉之室平産、

貴公久嘉之第、 以品物賜久嘉之室、時新納市正久珍供奉 因茲渡御

頼母久記譜中

1098

元緑十四年辛巳十一月十四日

準□兄久明家例I而爲□宗家四男家□矣、

松平薩摩守樣 御報 大守綱貴公以二久記家一、

土

屋

相

政 道 判

呵

部

豐

正後守

小笠原佐渡守

秋 元 但 馬 守

秋元但馬守 秋元但馬守

元禄十四年十一月四日

書

綱

元緑十四年十二月三日除ゝ前髪、 畤 大守綱貴公賜ゝ御

1102

正文在島津周防久儔 猶、修理大夫へ可被申談り、

以上、

第:前髪被取可宜り、 之い間、 筆令啓り、其元無吴之由珎重存り、於此方も相替儀無 可心安叶、 其方前髪取之儀尤こ存い間、吉日次 右之旨ハ修理太夫殿申越條、其心

十二月三日

薩摩守

(花綱 (花綱) No.2

— 333 **—**

周防久 儒譜中 松平薩摩守殿

1101

嶋津又八郎殿 7

在包紙

薩摩守

抄

御宿所

元禄十四年十二月十二日 朱かき

秋元但馬守

松平薩摩守殿

嶋津又八郎殿(久 第)

1105

全上

全上

御札令披見り、就寒中

可御心安外、 公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之い、益御勇健之御事い間 隨の御羽織五并御肴一種被獻之り、紙面之

趣得其意い、 恐く謹言、

元禄十四年十二月十三日

恐~謹言、

松平右京大夫

松平美濃守(柳沢出羽守保明改)

松平薩摩守殿

元禄十四年十二月十三日

小笠原佐渡守

— 334 —

正文在文庫 綱貴公御譜中

御札令披見片、

御肴一種被獻之片、各申談首尾能遂披露片、 公方様益御機嫌能被成御座恐悦旨尤り、隨の蜜柑二箱并

松平薩摩守殿

1104

綱貴公御譜中

い間、

可御心安叶、

随の御羽織五并御肴一種被獻之候、

御札令披見候、

就寒中

正文在文庫

公方樣御機嫌之御樣躰以使者被相伺い、

益御安全之御事

事御座り、

隨の御肴一種被懸貴意忝奉存み、

恐惶謹言、

貴翰致拜見り、寒氣之節り得共、

弥御堅固之旨珎重之御

各申談首尾好遂披露片、恐、謹言、

元禄十四年十二月十日 朱かを

土屋相換守

1106

正文在文庫 綱貴公御語中

松平薩摩守殿

1107

全上 全

御札令披見り、

御肴一種被獻之候、各申談首尾好遂披露り、 公方樣益御機嫌能被成御座恐悦旨尤り、隨の蜜柑二箱并 元禄十四年十二月十四日

恐、謹言、

秋元但馬守

松平薩摩守殿

松平右京大夫

恐~違言、

隨の蜜柑二箱并

1110

全

正文在文庫

1109 **仝御譜中**

猶以先頃重陽之爲御祝儀、目録之通進上仕り處、 此御書吉貴公御譜中:在リ

被

十月十八日之尊書蓮の拜見仕り、弥御勇健被成御座珎重 仰下り趣被爲入御念り御儀奉存り、以上、

奉存外、然素嶋津淡路守此節出生之娘名附之儀(惟 冬) に被申上い得共、私在府仕儀御座い間、 被頼越い様こと 貴公樣

名附可申片、名之字之儀光、陽和院樣に御相談可申上旨(光久夫人) 被仰下り趣、奉得其意り、右之段陽和院様に申上り處、 被成御差圖候之間、差合無之名相考、 從淡路守申來次第

淡路守より頃日申來り付あ、延引仕り、誠惶誠恐敬白、 名相附申、重あ其首尾可申上り、右之尊答早、可申上處、 御遠慮被思召り得共、御相談可被成旨被仰下り條、近日

中將樣

元禄十四年十二月十五日

松平修理大夫

全上

松

平 美

吉保判

貴札致拜見候、 弥御堅固珎重奉存み、 將又被獻 4 御殘、

335 -

松平薩摩守樣

綱貴公御譜中

1108

正文在文庫

御札令披見り、

元禄十四年十二月十五日****

公方樣益御機嫌能被成御座恐悦旨尤片、

御肴一種被獻之み、 紙面之趣得其意り、

全上

全 上

貴札致拜見り、 公方樣益御勇健被成御座、先頃拙宅被爲

被遊 還御、 難有仕合奉存り、 因茲爲御歡預示忝次第御 成、 御機嫌能

御報

継豊公御譜中

初忠休 鍋三郎丸 又三郎 大隅守 從四位下侍從

左近衞少將 從四位上左近衞中將

〇元禄十四年辛巳十二月二十二日誕;生於武州高輪第;、

嫡母以::忠休:爲,子、實母同::于滿姫.、

○家臣島津中務久輝勤□蟇目鳴弦之役Ⅰ、

綱貴公御譜中

正文在文庫

福州出唐舩一艘致漂着外付、(中國福建) 去十二日之尊札拜見仕り、 御領内久志浦ロ今月八日之晩(川辺郡) 如例番舩等被附置り、舩具

可被送遣之旨致承知り、 少、及破損い間、修補被仰付、 前、之通被仰付、早、當津以可 警固衆御差添、 日和次第

惶謹言.

被差遣い、

恐

十二月廿五日

丹羽遠江守 長守判 大嶋伊勢守(長崎奉行)

御札令披見吖、

全上 全上

1114

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃増上寺へ被爲 成り儀

-336

1113

松平美濃守

御目録通被懸御意忝次第御座り、

恐惶謹言、

元録十四年十二月十六日

松平薩摩守樣 御報

元禄十四年十二月十六日朱かき

1112

恐惶謹言、

松平美濃守

松平薩摩守樣

座り、

松平薩摩守樣 貴報

八郎儀今日首尾好元服相濟、

御同然大慶存申り、

右之段

筆啓上仕候、弥御勇健可被成御座珎重奉存り、

然素()

爲可申上如斯御座片、猶奉期後喜之時片、誠惶誠恐敬白、

1116

全

全上

元禄十四年十二月廿六日 松平薩摩守殿

被承之、恐悦旨尤侯。紙面之趣各申談及

高聞候、恐く謹言、

秋元但馬守

按

リ、前年七月栄地五千石ヲ給フ、此年十五才ニ当レリ、参考ニ供ス、吉貴公御譜 此御書中又八郎トアルハ、 吉貴公ノ 御舎弟周防久陳ニテ、 旧花岡邑主ノ 元祖ナ

御札令披見り、

1115

全上

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃増上寺被爲 成り儀被

承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意り、恐々謹言、 元禄十四年十二月廿六日 松平右京大夫

松平美濃守

松平薩摩守殿

1117

全

全上 筆啓上仕候、弥御勇健可被成御座、珎重之御儀奉存候、

敬白、 然光私儀今日首尾好元服仕候、此旨爲可申上如斯御座候、 隨の目録之通進上之仕候、猶奉期後喜之時候、誠惶誠恐 嶋津又八郎 鬼英判

元禄十四年十二月廿六日 #カ#

中將樣

松平修理大夫

元禄十四年十二月廿六日 朱カキ

全

— 337 —

1118 全

1119 過當之至存り、猶期後音り、恐惶謹言、 衞門督拜任、難有仕合御察可被下り、被入御念預御祝詞 貴札致拜見り、弥御勇健之旨珎重存候、然素宮内卿義右(行豊) 全 元禄十四年十二月廿六日 松平薩摩守樣 御報 石井少納言 行康

全上 此御書吉貴公御譜中 "在リ

名付申り、此段爲可申上如斯御座り、猶奉期後音之時り、 頃申上外通、陽和院樣御相談之上、今月十八日おますと(光久夫人) 筆啓上仕り、嶋津淡路守此節出生之女子名附之儀、先

元禄十四年十二月廿六日

誠惶誠恐敬白、

進上 中將樣

全上

全

貴翰令拜見候、

如仰石井宮内卿殿右衛門督

松平修理大夫

薩摩

元禄十四年十二月廿九日

墨綱印吉

中將殿

敷許大慶存り、早、預御祝詞辱存り、 平松侍從 恐惶謹言、

元禄十四年十二月廿七日

松平薩摩守樣

綱貴公御譜中

1121

爲歲暮之祝儀、小袖五重到來欣覺候、委曲稻葉丹後守可 正文在文庫

述外也、

— 338 —

正文在文庫 全御譜中

1122 改年之慶賀、猶更不可有際限り、其方無吴越年、於一門 綱貴公御譜中 錄 追 吉 綱 舊 貴 貴 記 此御書吉貴公御譜中:無之 公 公 雜 元禄十五年 録 至 自 巻三十 正 月 月

芳意い、爲祝儀目錄之通進入之い、猶期永日い、恐ヽ、 中別條有間敷と珎重存り、我等事無恙致超歳り間、 可易

元禄十五年正月二日 朱カキ 松平修理大夫殿 御宿所

登

城仕首尾好御禮申上、

御盃頂戴御時服拜領仕、

難有

仕合奉存り、年首之御祝儀爲可申上、御肴兩種・御樽一

樣益御勇健可被成御超歲、珎重奉存り、私事如例年今日

新年之御慶賀、重疊目出度申上り、其表無相替儀

貴公

1124

此御書綱貴公御譜中・ハ無之

吉貴公御譜中

正文在文庫

元禄十五年 正月二日

荷進上之仕り、猶奉期永日り、

誠惶誠恐敬白、

一筆奉啓上候、

鍋三郎樣御儀、去月六日始の御稻荷は爲被遊御物詣之由、(** ♥) 奉承知恐悦奉存候、此等之御祝儀爲可申上如斯御座候、

元禄十五年正月二日

誠惶誠恐謹言、

嶋津兵庫

進上 太守樣

御実弟ニテ旧加治木邑主也

||株豊公前年十二月廿二日御誕生、御幼名鍋三郎丸ナリ、 兵庫久住ハ綱貴公ノ

展考

進上 (島津編貨)

松平修理大夫

綱貴公御譜中

改年之御吉慶、 猶更不可有休期御座4,

前關白樣益御勇健可被成御超歲、 詞爲可申上、 御太刀一腰・御馬代黄金十兩致進上之り、 珎重御儀奉存み、 御祝

此旨宜預披達り、恐く、 (ママ) 元録十五年正月三日 ***

進藤筑後守殿(長)房)

1126

全上

旨宜預披達り、恐く、

爲可申上、

御太刀一腰・

御馬代黄金十兩致進上之り、 珎重御儀奉存み、

此

右府樣益御勇健可被成御超歲、(近衞家熙)

改年之御吉慶、

猶更不可有休期御座り、

元禄十五年 正月三日

全上

改年之御吉慶、

猶更不可有休期御座り、

大納言樣益御勇健可被成御超歲、(近衞%久)

珎重御儀奉存み、

御祝

等之御祝儀、

以與那原親方申上候、依之目錄之表進上之

或

今大路兵部大輔殿(光 好)

1129

吉貴公御譜中 正文在文庫

年始之御吉慶珎重多幸、 [御平康益御機嫌能被成御重歲候之由、 猶更不可有休期御座候、 恐悦奉存候、 先以貴

此

此旨宜預披達外、

恐、、

詞爲可申上、

御太刀一

腰

٠

御馬代黄金十兩致進上之り、

元禄十五年正月三日

進藤刑部大輔殿

1128

御札致拜見り、 綱貴公御譜中 弥御堅固之旨珎重存り、 然素先頃御約束

之袂百合草三本致進覽之い處こ、無吴儀相屆

預示之段、 御慇懃之至御座り、 恐惶 御所之御花壇に御獻上い由、於私ゑ本望存い、

右爲御禮

御祝詞

元禄十五年正月十日

石井宰相樣

御報

仕候、 元禄十五年正月十一日朱カキ 進上 侍從樣

1130

全上

得

尊意候、誠惶誠恐敬白、

元禄十五年正月十一日

中城王子

進上

侍從樣

通奉進上之候、聊奉表御賀儀計御座り、猶萬悦幾久可奉

御祝儀爲可申上、奉呈一翰片、

仍雖輕少之至り、

目錄之 此等之

改年之御吉祥珎重多幸、猶更不可有際限御座候、

猶奉期後音之時候、 誠惶誠恐敬白、

琉球國司

進上

侍從樣

1132

綱貴公御譜中

爲年頭之御祝儀、 獻之,、首尾好遂披露,、 正文在文庫

以使者御太刀一腰·御馬代黄金十兩被

元禄十五年正月十一日

稻

恐、謹言、

葉丹 正通判

秋元但 一 喬 朝 明

小笠原佐渡守

土屋相 政直判

部 豐 一後 正武判

30]

松平薩摩守殿

目錄之通素 此等之御祝

1131

改年之御嘉瑞珎重、猶更不可有休期御座候、

詞爲可申上、奉呈愚簡候、仍雖輕微之至候、

1133 全上 全上

猶萬悦幾久可奉得

華翰落手、如來教青陽之賀義不可有盡期以、先以迭無恙

越年歡欣同前以、 仍目錄之通惠脫之、誠丁寧之趣幾久令

-341 -

尊意候、

誠惶誠恐敬白'

元禄十五年正月十一日

進上之候、聊奉補御嘉儀迄御座候、

佐敷王子

1134 全上

全上

當地同前的、仍目錄之通被投與之、深切之趣欣然之至的、 爲曆甫之嘉儀芳墨披閱、愈無吴事超歲之由、珎重思給り、

尚期永春り、 謹言、

元禄十五年孟陽十六鳥

(近衞家凞) No.4

(花押

薩摩中將殿

1135

全上 全上

1137

在組方古帳

鹿兒嶋組中之人數不殘與頭召連罷登儀こい處、 火事以後、組分ケを以罷登外筋ニ令以被仰付儀ニ外、#正月十一日田兄八兵衞矢火 被仰付儀こり之處、至頃日年長り人素令懈怠、 儀并多人數集り場所、 爲鍛錬諸士不撰老若罷上り樣 申が上の年 年若面

元禄十五年上春十六鳥 薩摩中將殿

日外、

謹言、

(近衞家久)

(花押

No.6

之與頭何れも可被罷登り、

其與之人數追立罷登儀こり

與之與頭漸壹人宛被罷登節沒有之由以、

向後去一與

地無恙り、

仍如目錄過兩懇篤之事怡悦不淺片、

萬慶期永

爲青陽之佳辭華翰令落手候、

愈平安御越曆珎重:片、

此

(近衞基熙) 謹言、 Na3

元禄十五年初春仲旬

薩摩中將殿

1136

祝納り、

猶期永日り條不能繁詞り、

全御譜中

-342 -

火事場 其外衣

元禄十五年正月十六日

土屋相摸樣

人~

意奉存み、

右之御請爲可申上如此御座り、

ロ馬上之者差遣申間敷由、

段、被仰渡、

御書付之趣得其

服・音信・贈答・料理等之儀、且又火之元之儀、

筆致啓上り、今度地震・火事ニ付、作事之儀、

御關狩之儀、

御家御代、有來御作法、

且組中之人數行

得考、月番之與頭及尤可被罷登り、無據御用於有之考、 其譯御家老中ロ可被申出置之事

罷登り、云ミ、雑書中ニアリ

喜入

安

房久亮

外城串目下知騎馬之人、乘馬御棧鋪邊:召置、 人數引

立り節歩行爲稽古出立この罷在事こり、

雖然萬端爲物

馴被仰付事こり、依時宜素、馬上この駈廻り、 知儀ゑ可有之い間、 乘馬御棧敷前:不立置、 向後其身 可加下

跡ゟ牽せ可申之事、

小頭之內、兼役:役所之勤仕り人及有之り、御狩之儀 諸役人之儀、前代ゟ役所不明様:申合可罷登之旨申渡 罷上り様こ、連、相心得可被申渡之事、 ハ纔一日之勤こり間、 近年太諸役人罷上い儀被差止置い得共、此節ゟ諸 役所之支無之筋:申合、 御狩こ

役人罷登い樣被仰付い間、 差當御用無之人者、其役所

御意い間、 申聞せ、 右之條々、此節組頭中に申渡、 向後無怠相守り樣可相達之旨 與中之人數に御狩前以

可被奉得其意片、以上、

不明樣申合可罷登之事、

元禄十五年午正月十二日

四番・六番と登り前ニ而今晩よりいつれも 此月十四日吉野御関狩有之、当年ハ三番・ 児上 式 部久重

1138

(補註、

姓・名乗ハ後記ナリ)

嶋津

大

藏久明

胸津

助之丞忠守

新納

市

正久珍

綱貴公御譜中

正文在文庫

同前り、 深切之至最令祝着り、 堀川新造經營、依前殿下移徙、被投賀札且如目錄惠賜之、 餘期後音い、 謹言、 其邊愈勇健之由目出思給り、爰許

元禄十五年孟陽念二

(花押

No.4

薩摩中將殿

1133 全上

尚期後音り、 淺令滿足り、 依被大殿移徙被伸祝詞、 謹言、 愈安全之由珎重之御事り、此表無吴變り、 且目錄之通贈與之、懇意之趣不

(花押 <u>№</u>6

元禄十五年孟春念二

- 343 -

薩摩中將殿

綱貴公御譜中

如芳翰舊冬大納言殿參府御禮相濟৸付、入御念৸段欣然(德川光貞) 正文在文庫

之至存り、恐く謹言、

松平薩摩守殿

御返報

1141

全御譜中

正文在文庫

元禄十五年正月廿三日###

紀伊中納言

1143

正文在文庫 全御譜中

從御家來衆養委細被申聞致承知り、恐惶謹言、 石浦と申所は、朝鮮國之舩一艘漂着仕り由、依之預貴簡 去廿一日之尊書拜見仕候、今月六日御領内屋久嶋之内碁

元禄十五年正月廿八日

被申越り趣令承知り、紙面之通各口及申談り、恐ゝ謹言、 御札令披見り、薩摩國ロ流人之儀先頃相達り付あ、委細

元禄十五年正月廿六日

稻葉丹後守

松平薩摩守殿

大嶋伊勢守(長崎奉行) 義也判

丹羽遠江守 丹羽遠江守 長守判

松平薩摩守樣 貴報

吉貴公御譜中

1144

間御窺申上候私去年出生之娘名之儀、從

達候、賴入存り、恐ゝ謹言、

元禄十五年正月廿六日 朱カキ

嶋津淡路守

嶋津大藏殿

之御禮爲可申上、御自分迄如斯御座り、以御序宜預御披 修理大夫樣先頃おますと被下之、誠以忝次第奉存り、右

— 344

1142

綱貴公御譜中

中將樣弥御機嫌能可被成御座、

筆致啓達り、

珎重御儀奉存り、然素此

此御書綱貴公御譜中ニハ無之

正文在文庫

風 | 盡燒亡、乃高輪之亭罹 | 火災 | 、因修理大夫吉貴暫入 |

綱貴公御譜中

元禄十五年壬午二月十一日自:|江府四谷|出火、受:西北

吉貴公御譜中 正文在文庫

存り、我等事を無恙令越年り、被入念示給殊目錄之通被 爲改年之嘉儀芳札令披見��、其方愈無吴超歲之由、

珎重

1148

綱貴公御部中

相贈之、欣悦之至り、 元禄十五年 二月三日 猶期後喜之時以、 薩摩守 恐、謹言、

綱貴御判

松平修理大夫殿

回章

1149

綱貴公御譜巾

目出度奉存り、於御當地一門中相替儀無御座り

間、

尊意安可被思食片、

隨の御目錄之通被下置之、

幾久

忝次第奉存み、

猶奉期後喜之時候、

誠惶誠恐敬白、

歳い由、

爲改年之御祝儀、

尊書謹の拜見仕候、益御勇健被遊

御超

芝亭:、其後移::于櫻田屋敷:、

1145

·進 上

中將樣

正月晦日

松平修理大夫

1147 樣御狀之趣被入御念৸儀、御滿悦被思召৸、右御禮計之

舊臘當地御屋鋪迄、就歲暮之御祝儀被仰入り、從 正文在文庫

中將

右大臣殿仰如斯り也、恐惶謹言、

儀御座り故、不及御書り、此旨自私方各迄可申述之由、所

元禄十四年二月十二日

喜入安房殿

嶋津勘解由殿

今大路兵部大輔 (光 好)

之、航::彼國:而監::諸般:、同十七年之夏任限充而歸::于 吉惣兵衞・八木九郎兵衞・岩切治左衞門・高崎權之助副より 同年之春使- 高崎四郎右衞門能盈補: 琉球國在番奉行 永

産州に、

御札令披見り、 正文在文庫 如承青陽之慶賀珎重片、

先以

全上

全上

如御札陽春之御慶、 不可有休期以、 其許御無吴珎重り、

全御譜中

正文在文庫

旨尤い、隨の御樽肴被獻之い、紙面之趣得其意候、 公方樣益御機嫌能被成御座、年始之御規式可相濟と恐悦 御札令披見り、如承青陽之慶賀珎重り、先以

元禄十五年二月十五日 **** 松平右京大夫 松平右京大夫 恐

謹言、

松平美濃守

松平薩摩守殿

1150

1152 北郷家伊豆忠置譜中

元禄十五年壬午二月二十一日忠置爲>賀二家督1奉>請二

太守綱貴公于麑府舘1、飾ニ舞臺」有ニ御能1、獻上御太刀

腰・御刀一腰が鷺・御馬一疋、

1153

綱貴公御譜中

筆致啓上り、

御参詣、御機嫌好還御之旨、 公方樣益御勇健被成御座、去月廿四日增上寺 恐悦之御儀奉存り、

御佛殿に 此段爲

元禄十五年二月廿五日朱カキ(ママ)

可申上捧飛札り、恐惶、

大久保加賀守様(忠 朝)

阿部豐後守樣

薩摩中將殿

御報

元禄十五年二月十七日

露候、恐ょ謹言、

元禄十五年二月十四日

阿部豐後守正武判

松平薩摩守殿

旨尤候、隨の以使者御樽肴被獻之り、各申談首尾好遂披 公方樣益御機嫌能被成御座、年始之御規式可相濟と恐悦

賣

我等無恙越年之事り、入御念り段欣然之至存り、

恐く謹

- 346

尾張宰相

吉通判

阿

部 屋

豐 相

一後守 ! 摸守

土

小笠原佐渡守

1155

吉貴公御譜中

正文在文庫

1154

吉貴公御譜中 土. 屋

戸

田

仁相 摸守樣 山城守樣

人。

正文在文庫

猶使者属口上い也、 爲堅固り、此邊無恙り、折節調合之薫物二香合可被試り、 任嘉例城中に改年之御祝儀令申入り序、啓一翰り、弥可

元禄十五年仲春念五 松平修理大夫殿

(近衞基凞)

Na3

1156

正文在文庫 綱貴公御譜巾

筆致啓達り、然素先月十一日江府四谷筋より出火、折

奉存り、此等之段爲可申上、 修理大夫樣皆、樣愈御機嫌能被成御座之旨、此段目出度 御自分迄如斯御座み、

以御

雖然奉始

節風烈高輪并品川御屋鋪致類燒り由承知仕、驚奉存り、

序宜預御披達り、賴入存り、 恐く謹言、

元禄十五年 三月朔日 嶋津大藏殿

嶋津淡路守 惟久判

正文在文庫

1157

古貴公御譜中

明朔日例月之御禮無之い間、不及登

城候、以上、

元禄十五年二月廿九日

稻

丹後

守

秋

元 葉

但馬守

段被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣各申談及言上り、 公方樣益御機嫌能被成御座、年始之御規式首尾好相濟り 御狀令披見り、

謹言、

元禄十五年三月四日

阿部豐後守正武判

- 347 -

松平修理大夫殿

松平修理大夫殿

吉貴公御譜中

正文在文庫

一位樣御敍位付**ゐ、** (^{桂昌院)} 申談首尾能遂披露り、 爲御祝儀、 恐、謹言、 兩種御樽代被獻之片、

元禄十五年三月十一日朱カキ

正通宵

松平修理大夫殿 稻葉丹後守

ď

1160

正文在文庫

陽和院樣其外皆《無別條片由、 芳札令披見り、去月十一日從四谷邊出火之處、 あ高輪屋敷及類焼い由、不意之**儀同前存い、**

幸之事り、依之示給趣、

雖然

北風烈り

各

被入念儀存み、 恐~謹言、

元禄十五年三月十三日

薩摩守 綱貴御判

松平修理大夫殿

回章

元禄十五年壬午二月十一日火出;江府四谷;、乃受;北風;

一族島津内匠久重、

家老

1161 吉貴公御譜中

災 其餘焰移牧伯之家屋及市鄽盡燒失、 是故古貴暫入二芝宅」、其後移二於櫻田第二、 吉貴高輪之第亦罹

1162

芳札令披見り、 正文在文庫 去月十一日從四谷邊出火之處、 此御書綱貴公御譜中二八無之

348 --

州藤枝驛」、乃綱貴交三替于是地二而同月二十一日參府也、 交替之事 | 免ニ許之 | 、是故吉貴四月十三日發 | 江戸 | 至| | 駿

1159

綱貴公御譜中

同年三月十日爲::參覲:發,國、

貫・平田九郎右衞門純音從ゝ駕、同月十二日乘三舩于京泊宮入安房久亮、番頭肝付帶刀兼柄、用人野村太左衞門廣

津1、同十四日開2舩、四月十三日著11舩大坂1、同十五日

駕||川舩||至||伏見|、翌十六日發||伏見|、取||道於中山道

至:濃州大垣」、奔ゝ駕而經:過驛路二、是年春修理大夫吉

貴高輪之第罹::火災:未>能::造營:、依>之綱貴訴::于中途

あ高輪屋敷及類燒之由、不意之儀同前存み、 雖然

北風烈り 陽和

存外、 付あ、 爲御見舞櫻田屋敷は被下置御使者、寔以忝次第奉 御禮爲可申上如此御座以、此旨宜預洩達以、恐、、

筆致啓上り、 綱貴公御譜中 1163

吉貴公御譜中

正文在文庫

元禄十五年三月十四日

明十五日例月之御禮無之い間、 不及登 稻葉 丹後 城候、以上、 守

秋元 小笠原佐渡守 但 馬

土屋 相 換守

呵 部 豐 後

松平修理大夫殿

先頃其御地出火之節、私下屋敷類燒仕り

1167 綱貴公御譜中

1165 全上

院樣其外皆《無別條》的由、 念儀存り、恐く謹言、

幸之事り、依之示給趣、

元禄十五年三月十五日 朱为キ

戸田長門守殿(忠))

元禄十五年三月十三日

綱貴御判

松平修理大夫殿

回章

付あ、爲御見舞櫻田屋敷ロ被下置御使者、寔以忝次第奉 筆致啓上り、先頃其御地出火之節、 私下屋敷類燒仕

元禄十五年三月十五日朱カキ

存外、

御禮爲可申上如此御座り、此旨宜預洩達り、恐~、

万里小路大進御房

1166 綱貴公御譜中

筆致啓上り、薩摩之嶋は科人四人流罪被仰付旨、去月

朔日家來之者ロ以御書付被仰渡趣、得其意畏奉存り、此

段爲可申上捧飛札り、恐惶

元禄十五年三月十八日

土屋相摸守樣

全

全

敷及類燒、不意之儀御座り、依之爲御見舞預示、被入御 御札致拜見り、去月十一日江府出火、同姓修理大夫居屋

念之段忝存り、恐惶、

元禄十五年三月廿六日 朱ガキ 猶以杉山八藏い音物遣之り付め、 御慇懃儀存み、以上、 爲御禮別紙御札之

松平越中守様 御報

1170

1168

綱貴公御譜中

御札令披見り、

參詣之儀被承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意候、 公方樣益御機嫌能被成御座、正月廿日東叡山

謹言、

元禄十五年三月廿六日

松平美濃守

松平右京大夫

松平薩摩守殿

綱貴公御譜中

正文在文庫

御札令披見り、

之、恐悦旨尤候、紙面之趣各申談及言上り、 公方樣益御機嫌好被成御座、先頃山王

御社參之儀被承 恐く謹言、

元禄十五年三月廿七日

り、恐く 謹言、 參詣之儀被承之、

元禄十五年三月廿六日朱兆*

稻葉丹後守

松平薩摩守殿(編 質)

公方樣益御機嫌能被成御座、正月廿日東叡山

御堂

恐悦旨尤み、

紙面之趣各申談及

高聞 御 御札令披見片、

正文在文庫

松平薩摩守殿

稻葉丹後守 昭蓮

全

1171

全上

御札令披見り、

— 350 —

恐、 御

御堂

元禄十五年三月廿七日 松平薩摩守殿 此御書吉貴公御譜中二在リ 松

松平右京大夫 平美 吉保判

之、恐悦旨尤作、

紙面之趣得其意り、

恐く謹言、

公方樣益御機嫌能被脫御座、

先頃山王

御社參之儀被承

綱貴公御譜中

1172

と存儀り、 猶、順風無之付あ煮、 例年より太多勤及可及延引哉

筆令啓り、鍋三郎出生付る、

箸揃之祝可有之節、江府

申付差越り、 度之儀、舩路順風無之相滯り間、 に於参着者其節祝儀を表可相達と兼あ令了簡候得共、此 爲祝儀目録之表進之り、委細口上申含り、 税所甚右衞門從中途使

猶期後喜時ル、 元禄十五年 三月廿八日 朱かき 恐、謹言、

> 薩摩守 綱貴御判

松平修理大夫殿 御宿所

(補註、九五五号文書ト同一ニンテ、当文書ノ年紀正ンカラン)

1173 全御譜中

之處、何角于今及延引り、 筆令啓り、其方儀舊冬前髪被取之り、祝儀早、可相達 此節稅所甚右衞門使申付差越

り、塩鶴一羽・樽代三百疋爲祝儀進之り、猶期後喜時り

恐、、

尚、此節順風無之、

舩路相滯、

参勤例年より可及延

元禄十五年三月廿八日 引存儀り、 以上、

嶋津又八郎殿 (久陳·忠英) 御宿所

右御案文

愚考スルニ又八郎久陳君ハ貞享四年御生ナレハ、此年十六歳ニ當レリ、綱貴公 御三卯ニテ後周防ト称・旧花岡邑主ノ元祖ナリ、左ノ如ン、参照ニ供ス

綱貴公御譜中

又八郎

丹吉貴公御女也

正文在文庫

1174

御札令披見り、

公方樣益御機嫌能被成御座、正月廿四日增上寺

御參詣、 翌廿五日護持院被爲 成以儀被承之、 恐悦旨尤

— 351 —

御佛殿

1175 綱貴公御譜中

元禄十五年三月廿九日朱カキ

N

兩通紙面之趣各申談及

高聞い、

恐く謹言、

元禄十五年四月三日朱兆半

松平陸奥守樣(伊泽綱村)

稻葉丹後守

松平薩摩守殿

正文在文庫

御參詣、翌廿五日護持院被爲 公方樣益御機嫌能被成御座、正月廿四日增上寺 御札令披見り、

元禄十五年三月廿九日

N

兩通紙面趣得其意り、

恐、邁言,

成り儀被承之、恐悦旨尤

松平右京大夫

松 姃 吉保判- 美 濃 守

松平薩摩守殿

1178

筆致啓上り、

公方樣 三丸樣益御機嫌能被成御座、去月九日(桂屬) 位御昇進之由承知仕、 恐悦奉存外、 御祝儀爲可申上差 三丸樣

一位様に麦右之通目錄之表進上仕り間、(私言院) 公方様ロ御肴二種・御樽代千疋獻上之仕り、

可然樣御差圖奉

上使者い、依之

元禄十五年四月三日

入如此御座り、

御縁組、

御願之通被仰出之由、 恐惶

目出度存み、

御歡爲可申

賴外、

恐惶、

筆致啓達り、 綱貴公御譜中

御同姓越前守殿は、久我大納言殿御養女(音)村) (番) 滅)

1177 全上

同年三月九日

大樹綱吉公 御母堂 院也 任二一位1也、依立之獻二

上御肴二種・御樽代金子千匹于

御佛殿

綱吉公、同二種·同千匹于 御母堂1、 而奉 b祝 b之、 因

齊い書達三十元老二、

— 352 —

全上

土屋 稻葉丹後守樣 秋元但馬守樣 呵 小笠原佐渡守樣 部 相 豐

人

換守樣 後 守樣

目出度存り、御悦爲可申入如此御座り、

恐惶、

元禄十五年四月四日

松平大膳大夫樣(毛利吉広)

筆致啓達り、應司左大臣殿御養女に御縁組相濟申之由、 (業際)

全御譜中

1179

公方樣 三丸樣益御機嫌能被成御座、 筆致啓上り、

差上使者り、依之 公方様に御肴二種・御樽代千疋獻上之仕り 一位御昇進之由承知仕、恐悦奉存り、 御祝儀爲可申上、

御座り、 一位様に表右之通目錄之表進上仕り、差上使者り間如此(韓屬院) 恐惶、

元禄十五年四月三日

松平右京大夫樣 松平美濃守樣

1181 吉貴公御譜中

正文在文庫

奈百姫樣被成御誕生候之由承知之仕、千秋萬歲目出度奉^(綱貴女) **謹奉呈一翰侯、去歲芝御前樣に**

去月九日

三丸樣

元禄十五年卯月三日朱タキ

之時候、誠惶誠恐敬白'

存候、依之爲御祝詞、

別錄之表進上之仕候、猶奉期來喜

琉球國司

進上 侍從樣

欽奉呈一翰侯、去歲 芝御前様に

1182

猶奉期後喜之時候、誠惶誠恐敬白、 儀春存片、此等之御祝儀爲可申上、目錄之表奉進上之外、 奈百姫樣被成御誕生候之由奉承知之、千秋萬歲目出度御

尚貞判

-353-

元禄十五年卯月三日 朱** 吉貴公御譜中 進上

侍從樣

1163

御肴一種被獻之り、首尾好遂披露候、 恐、謹言、

長重判

全上

筆致啓上り、

札片間、 機嫌能

此段爲可申上呈飛

御参詣御

元禄十五年四月六日 恐惶、

松平美濃守樣

綱貴公御譜中 此御書古貴公御譜中ニモ在リ

正文在文庫

猶、新納市正事、中途に之使被申付被差越之由卟得(タンタシ) 日和惡大坂川口出舩難成、 先立の此地迄輕使こ

1186

御参詣御

正文在文庫

元禄十五年四月四日 #カキ

綱貴公御譜中

筆致啓上り、

公方樣益御勇健被成御座、去月廿一日聖堂に

元禄十五年四月六日

阿部 豐 後

松平修理大夫殿

小笠原佐渡守

機嫌能還御旨承知仕、恐悦奉存り、此段爲可申上捧飛札

恐惶、

土 屋

相

分守様

摸守樣

— 354 —

小笠原佐渡守樣

秋 元 但

一馬守樣

稻 葉丹後守樣

1185

公方樣益御勇健被成御座、去月廿一日聖堂に 還御旨承知仕、恐悦奉存り、

如此御座片、

松平右京大夫樣

人、

の申越い間、委細之儀太不令承知い得共、右之趣相

朔日土屋相摸守殿上使この御暇被仰出、拜領物有之由珎 筆令啓り、 然素先頃其方御暇之儀相願い處、首尾好去

達儀り、

已上

に可致着津と存儀り、近内得芳意可相達り得共、祝儀旁 我等事無別條、今日備後之內白石迄令通舩り、追付大坂 重存り、頃日:太江府發足:の道中無吴可爲旅行存り、

如斯ル、 元禄十五年四月十日 恐、謹言、

薩摩守

綱貴判

御宿所

松平修理大夫殿

綱貴公御譜中

筆致啓上り、

公方樣益御機嫌能被成御座、去月廿八日 位樣御昇進、御祝儀之御能就被 仰付外、

夫に及見物被 仰付之旨承知仕、 難有仕合奉存み、 御禮

同姓修理大

爲可申上如此御座片、恐惶、 元禄十五年四月十一日

阿部豐後守樣

1188 全

筆致啓上り、

公方樣益御機嫌能被成御座、去月廿八日

爲可申上呈飛札以間、如此御座り、 夫に及見物被 位樣御昇進、 仰付之旨承知仕、 御祝儀之御能就被 難有仕合奉存み、 恐惶、 仰付い、同姓修理大

御禮

元禄十五年四月十一日

松平美濃守樣

松平右京大夫樣

曲得其意申り、此段爲可申上如此御座り、恐惶、 全 筆致啓達り、

被仰渡御書付之趣委

1189

元禄十五年四月十二日 ###

土屋相摸守樣

秋元但馬守樣 小笠原佐渡守樣 葉丹後守樣

稻

全上.

稻葉丹後守樣 人、

正文在文庫

御札令披見り、

4 儀被承、 公方樣益御機嫌能被成御座、先頃松平美濃守亭被爲 恐悦旨尤候、紙面之趣各申談及 上聞り、

成 恐

用人相良主左衞門長規・堀四郎右衞門與昌等扈從、乃取

元禄十五年四月十二日 #7.* 松平薩摩守殿

く謹言、

小笠原佐渡守

1192

吉貴公御譜中

松平薩摩守殿

所從先蹤也、因同月十三日發」江府、家老島津中務久輝、 白銀五百枚・時服五十二、登 同年四月朔日以土屋相摸守政直賜||告於吉貴|、 且拜||領

→營時賜::御馬一疋一、是又

松平右京大夫

松平美濃守 煮、思召寄を
表被仰聞、

御懇意之段、新納市正申聞、委

1193 綱貴公御譜巾

夫御暇願之通被 筆令啓達り、 弥御無吴之旨珎重存み、 仰出、 難有仕合奉存み、

然素同姓修理大 右願之儀付る

356 -

正文在文庫

御札令披見り、

公方樣益御機嫌能被成御座、

先頃美濃守亭被爲

成り儀

將軍家 | 奉 ハ 謝 || 吉貴歸 ハ 國之恩遇 | 、正武亦獻 || 上御太刀・

八日正武登

銀馬代·時服三1、且以11時服三1賜11于正武1、

舩豐州大裏二、從>是取>陸經二九州之驛二、同月二十二日 朔日下᠈大坂、同四日乘舩、而同五日開᠈舩、六月朔日著11 藤枝驛;暫謁;;于恩顔1、同月二十八日到;;著伏見1、五月 道於東海道、是行也依:綱貴之訴:而蒙:|恩兒|交:|替駿州

入||魔府|、即日使|||鎌田出雲正武||赴+江府||、七月二十

▶營獻□先例之幣物1、而奉▶謁□于

元禄十五年四月十二日

被承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意り、恐く謹言、

全上

筆致啓上り、

元禄十五年四月十三日 恐惶、

申上捧使札み、

且又御時服・御馬拜領之仕、

難有仕合奉存み、

御禮爲可

仰付、

理大夫國元は御暇之儀奉願い處、去朔日願之通被

公方樣益御機嫌能被成御座旨、

恐悦奉存り、

然素同姓修

得共、 申外、 掛御目可得御意い、恐惶、 殿に遲着之段、宜樣被仰達い儀賴存い、 光難成譯を御座り、其段素御察可被成り、 **多勤多延引罷成り、先頃高輪屋敷類燒付ある、早參勤 餘寒このゑり哉、 夫迄素及延引候故、先如此御座り、 元禄十五年四月十三日朱カキ 殊外用事多取込申い間、 今晩明日之間:太大坂は可致參着と存り、 小笠原彦大夫様 (長 住) 日和悪通舩難成、今日漸播州室迄參着 他筆この申達り、 且又當年之儀素海上 以自筆可申達り 小笠原佐渡守 例年お 委細素

1196

御札令披見り 全御譜中 正文在文庫

1195

筆致啓上り、 全上

申上呈使札い間、 且又御時服・御馬拜領之仕、難有仕合奉存り、 理大夫國元ロ御暇之儀奉願い處、去朔日願之通被 公方樣益御機嫌能被成御座旨、恐悦奉存り、然素同姓修 如此御座り、 恐惶 御禮爲可 仰付、

松平右京大夫樣 松平美濃守樣 元禄十五年四月十三日

阿 部 豐後守樣

細承知忝存り、近キ内江府に参着之節御禮可申達り得共、

土 屋 相 摸 守様

小笠原佐渡守樣

葉 丹後 守樣 人、

稻 秋

元

但

馬

守樣

— 357 —

全

全上

御札令披見り、

元禄十五年四月十四

恐く謹言:

成り儀被承之、恐悦旨尤候、 公方樣益御機嫌能被成御座、

紙面之趣各申談及言上り、 先頃松平右京大夫亭被爲

小笠原佐渡守

松平薩摩守殿

元禄十五年四月十四日

松平右京大夫

儀被承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意候、恐ゝ謹言、 公方樣益御機嫌能被成御座、先頃右京大夫亭被爲

成候

松平美濃守

松平薩摩守殿

いへくい、めて度かしく、

うくつのほと察し奉りり、追付さんふ仕りかた (~申上

ほせ下され、御ねん入せらる御事にそんし奉りり、御き 八日御移遊はしりよし、これにより此ほとこまくしとお

られいよし、うけ給りとゝけい通り、おほせ聞せら 尚ゝおかめのかたよりも、こゝ元ちやくの悦ひ申聞(繪()()

れ下されべく外、おなを事もたま地へめしつれられ(綱貴四女) いよし、御ていねいの御事かたしけなくそんし奉り

り、仰せ下されり通りしまつ内匠事此せつ召つれ申

り、おつつけちやく仕りかたく、申上りへくり、めて

たくかしく

元禄十五年四月十五日

しん上 (光久継室・平松氏)

1199 全御譜中

芳札令披見り、 我等儀海上無恙大坂に令着り、 正文在文庫 此御書古貴公御譜中"在」

爲祝儀目

- 358 —

りり、さて又たま地屋しきへふしん出來りハ丶、三月廿(田 町) して御もく禄の通りくたしをかれ、忝しけなくそんし奉(縁が)

1198

綱貴公御譜中

能御さなされいよし、めて度そんし奉りい、わたくし事 三月朔日の御せうそこはい見仕りい、いよく〜御きけん

舩中つゝかなく此十三日大坂へさん着仕りり、御悦ひと

1200 N 下水 元禄十五年四月十五日朱カメキ 同御譜中

人從國元江戸ロ差越申り、

筆致啓達り、私家來桂徹巖と申者、妻子召列女上下五 御關所罷通い御手形御出可被

爲御斷如此御座り、 委細光京都は差置り家來伊集院主水證文差出可申(分明) 恐惶、

松平紀伊守樣(留守居)(信庫) 人、

1202

全上

全上

公方樣益御機嫌能被成御座、 御札令披見り、

元禄十五年四月十九日

成候儀被承、恐悦旨尤り、紙面趣得其意り、恐く謹言、 松平右京大夫

先頃日光御門跡被爲

平 美 吉保判

松

正文在文庫

1203

全御譜中

御札令披見り、

公方樣益御機嫌能被成御座、

恐悦旨尤い、將又今度

一位樣御敍位之儀被承、目出度被存之由、紙面趣承屆外、(程昌院) 公方樣益御機嫌能被成御座、恐悦旨尤候、將又今度 御札令披見り、

正文在文庫 綱貴公御譜中

恐

恐、謹言、

元禄十五年四月十五日

薩摩守

綱貴御判

松平修理大夫殿

回章

錄之通被相饋之、

欣然之至り、

追付於中途可得芳意片、

く蓮言、

松平右京大夫

元禄十五年四月十九日

平 美

松

松平薩摩守殿

松平薩摩守殿

吉貴公御譜中 正文在文庫

欽奉呈愚簡候、 中將樣去年

進上之仕候、聊奉補御嘉儀迄御座候、 誠惶誠恐敬白、

佐敷王子

將軍家 1也、

尚益判

萬歲目出度奉存り、依之乍恐御祝儀爲可申上、目錄之通

元禄十五年卯月廿五日

進上

侍從樣

綱貴公御譜中

正文在文庫

1205

猶以家來兩人 御目見被 仰付い間、 召連可被罷出

> Ŋ 以上、

付難有由、

紙面之趣得其意候、

恐、謹言、

同氏修理大夫拜見被

仰

元禄十五年四月廿一日

松平右京大夫

松平薩摩守殿

松

平

美

吉保判

一位樣御敍位御祝儀御能之節、

明廿八日五半時登 城參勤之御禮可被申上片、

秋 稻

元

馬守

元禄十五年四月廿七日

阿部豐後守 小笠原佐渡守

松平薩摩守殿

1206 **仝御譜**中

同年四月二十三日以二 上使小笠原佐渡守長好 | 勞; | 參覲

之事、同二十八日綱貴登 ν營取!!謁於

重、家老喜入久亮從;;先規;奉>謁:汗 大樹綱吉公|奉レ謝レ之、幣物獻品同□前蹤1、一族島津久

1207 忠朗一流系図

内匠久連譜中

元禄十五年 綱貴公參覲爲」一族扈從、

同年四月二十八

日從 大將軍綱吉公一、獻…上御太刀・馬代・時服一、 レ公登 レ柳營奉 レ拜!

以上、

葉丹後守 但

可申入如此御座り、

以上、

1210

綱貴公御譜中

正文在文庫

1208

北郷久嘉譜中

謁 元禄十五年壬午五月三日奉 綱貴公命久嘉到京都、

奉拜

卿 献上御太刀一腰・銀馬代佐御望銘銘進い 近衞前關白基凞卿・ 右大臣家凞卿・ 此時所賜久嘉之 大納言家久

同日奉謁中院内府通茂卿云、、

品物錄別記矣、

同年五月二十七日久嘉歸麑府矣、

綱貴公御譜中 正文在文庫

1209

後守可述的也、 爲端午之祝儀、 帷子單物數十到來、 **歡覺候、委曲稻葉丹**(正

元禄十五年五月三日 墨綱印吉

薩摩

中將殿

被獻候御屛風一 雙、 於御内證首尾好披露相濟外、 此段爲

1211 吉貴公御譜中

御狀令披見り、 正文在文庫

恐く謹言、

元禄十五年 五月十日

秋元但馬守

松平修理大夫殿

1212

全上

公方樣益御機嫌能被成御座、 御狀令披見り、

去月廿日東叡山

御堂

御

謹言、 參詣之儀被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣得其意り、

元禄十五年五月十日

松平右京大夫

小笠原佐渡守

松平薩摩守樣

元禄十五年五月十日

— 361 —

恐く

參詣之儀被承之、恐悦旨尤り、紙面之趣各申談及言上り、

公方樣益御機嫌能被成御座、

去月廿日東叡山

御堂

御

正文在文庫

松 平 美

松平修理大夫殿

吉貴公御譜中 此御書綱貴公御譜中ニハ無之

筆啓上仕候、 弥御機嫌能可被成御座、目出度奉存り、

然素爲端午之御祝儀御目録之通被下置之、幾久忝次第奉

存外、右之御禮爲可申上如斯御座外、猶奉期後喜之時候、

誠惶誠恐敬白、

元禄十五年五月十三日

中將樣

松平修理大夫

1215 **薩摩中將より飯隈山別當御札しん上、ちうせち外を、ふ**(キー※) たゝひふるきにかへりまいらせり御禮として、わうこん 正文在文庫

めてたくいわゐおほしめしいかし、よく〳〵御札進上り しろくおほえさせおはしましい、いよく~あひかハらす 五十兩・さあや十巻けん上り、ひろう申てりへは、おも

りて申されへくり、めてかしく、

やうにと、つたへられりやう申せとてり、此よし御心え

1214

綱貴公御譜中

H

:州飯隈山者役優婆塞徒也、 世爲 = 薩隅二州及日州諸縣(嘯w鄰・大崎)

つほねさま

まいらせい

御い 、まの

五十八五十八

1216

於繼::先蹤:而

近衞基凞公二、公以三追遠之志 | 幸容||其言 | 執||奏之二、補斥

律師以二是事・奉ゝ訴三十

敕願寺之名;今無□爲↘實之支證Ⅰ、於↘是別當蓮光院陽慶本↗▽▽

郡本山總務職 | 矣、雖 > 有 : 是山往古

綱貴公御譜中

基凞公亦以」書論二十綱貴一、見二十左一、

拜!|謝之1、依>之賜:女房奉書1、

敕願之道場上、

因綱貴獻:1上黄金五十兩・紗綾十巻 産

猿渡家先祖被給藤原姓、

綱貴公御譜中

累葉永茂子孫繁昌之事、 於家門所被祝也、 以休譜代相續珎重被思召候、 且又此度以

1217

綱貴公御譜中

正文在文庫

態令啓一翰候、 公、系譜等現然誠神妙之至片數、弥以可爲子孫繁榮珎重 兼、承外猿渡喜右衞門事爲藤氏累代令奉(詹安)

於家門悦思給吖、

薩摩中將殿

(花押 No.3 子細被載奉書之條不能多端候、

猶期後慶計り、

元禄十五年五月十八日

天氣快然更被出女房奉書、誠以敕願寺之光華珎重之至り、

巻物等所令執奏

飯隈山別當御札進上之事、再與之間、爲御禮被獻黃金

宜相達之旨

殿下御内意候、仍執達如件、

殿下御書被仰入、大守之條定の可被承知子細候、

右之趣

正文在文庫

1219

元禄十五年五月十八日

刑部大輔長之

猿渡喜右衞門殿

綱貴公御譜中 此御書ハ吉貴公御譜『有之

正文在文庫

去月廿一日致參府、同廿八日首尾好御禮申上小、 舩中ゑ無滯、追付鹿兒嶋へ可爲参着と珎重存り、 芳札令披見り、其方事無吴去月廿八日伏見へ着之由、 我等事 仍参府

於

後喜之時け、恐く謹言、

之爲祝儀使被差越、

目録之表饋給之、欣然之至り、

五月廿二日

薩摩守 綱貴御判

回報

松平修理大夫殿

古今序 巻

弥

右者

-363 -

薩摩中將殿

猶巨細可在面謁り、 謹言、

元禄十五年五月十八日

(花押

No.3

1220

北郷家伊豆忠置譜中

後伏見院宸筆也、 御筆 | 跋讚 | 書焉 | 、元禄十五年壬午夏伊集院主水 前近衞關白前久公下二向于薩州一日

藤刑部大輔容:近衞右大臣家凞公之高覽:、(長之) 久明在↘洛、忠置依↘久明乞修||復干表紙|、越久明使進 家凞公

奏||聞嶋津伊豆所」藏重寳之由|備||

今上皇帝之叡覽」、(東山天皇) 敕宣一、未述其旨也、 時 且自命:[修幅師] 裝表美盡矣、 叡感益甚承二鴻寶無類之由

證文左寫」之、

右古今假名序之詞者

後伏見院之御筆也、尤可謂至寳者乎、

准三宮書 (近衞前久) (北押

此是

贅翰墨於跋、 正安帝宸筆一 未爲賞之豈論質疑乎、恰如有春花之**濃香、** 巻嶋津忠置所藏之鴻寳也、 昔時東求院關白

新加装表而寄予重需爲證書、以不堪、拜閱備

聖覽、 叡感益甚、 可謂徐翁之幸珠玉之玲瓏者乎、

以可珎

元禄壬午歲晚夏日

重之、

謹不可忽之矣、

右丞相 (花押 No.4

> 1221 綱貴公御譜中

從二參府之流例 | 獻 | 上御馬二匹 | 、

1222 正文在文庫

御馬二疋被獻之片、首尾能遂披露片、

恐、謹言、

元禄十五年 六月五日

其

政直判

松平薩摩守殿

土屋相摸守

Na8

1223 綱貴公御譜中

正文在文庫

及返翰叶、 依曽祖母卒去、弔書之趣芳志之至、頃日就除服出頭り、 謹言

元禄十五年 晚夏初八

(近衞家久) (花押

No6

薩摩中將殿

綱貴公御譜中 此書吉貴公御譜中 "在リ

1224

正文在文庫

芳札令披見り、 其方弥無吴之旨珎重存り、 我等事先頃致

因賜!!奉書於綱貴!、

元禄十五年六月十二日

土屋相摸守

1225

1226

吉貴公御譜中

正文在文庫

御狀令披見り、

公方樣益御機嫌能被成御座、

先比松平加賀守亭被爲(前田綱紀)

成

仓上

端午之 <u>숙</u>

御内書可相渡、

恐、謹言、

元録十五年六月九日 朱カキ 松平修理大夫殿

薩摩守

回章

1227 全上

公方樣益卻機嫌能被成御座、 御狀令披見い、

元禄十五年六月十二日

松平右京大夫

松平美濃守

4、儀被承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意り、 恐、謹言、

先頃松平加賀守亭被爲

成

松平修理大夫殿

1228

古貴公御譜中

御狀令披見い、就土用中 正文在文庫

遂披露り、恐く謹言、

い間可御心安い、 隨の御肴一種被獻之い、 公方樣御機嫌之御樣躰、以使者被相窺り、

各申談首尾好 益御勇健御事

4人 像被承之、恐悦旨尤候、紙面之趣各申談及

上聞候、恐、謹言、

元禄十五年六月十五日 松平修理大夫殿

秋元但馬守

- 365 -

薩摩守

綱貴御判

示給被入念儀欣然之至り、恐ゝ謹言、

元禄十五年 六月九日

松平修理大夫殿

参府、追付被下

上使御禮迄首尾好相濟い付あ、

爲祝詞

松平修理大夫殿

吉貴公御譜中

御狀令披見り、

正文在文庫

御参詣之儀被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣各申談及 公方樣益御機嫌能被成御座、去月八日 東叡山

御堂

1232

正文在島津周防久儀

教訓之條

由久當 | 賜 | 教訓狀 | 、

高

爲一國之守護、爲一郡之主云、、

た二編员公御諸中全文アリ暑ス

元禄十五年六月廿二日

聞い、

恐~謹言、

土屋相摸守

1230

御札令披見り

松平修理大夫殿

1233

綱貴公御譜中

教訓之條く

爲一國之守護、爲一郡之主、行國政撫育士民事、不知

文武之道雜成、文武素車之兩輪、鳥之兩翼、不可欠一

事

恐

御堂

御 ξ

參詣之儀被承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意り、 公方樣益御機嫌能被成御座、先月八日東叡山

元禄十五年六月廿二日

松平右京大夫

玩物則喪志是聖人之格言也、况於專遊興の好勝負事、 固事、

佚樂の 耽酒色 乎、 此等之 事曽の 不可爲之 事

忠孝愛敬素人性之自然、順之則榮、逆之則亡、

愼以可

順其性事、

雖一日空不可過、 少壯あ不學、

老大の雖悔、

不可有其

大守綱貴公以二島津勘解

益事、

1231

周防久傷譜中

元禄十五年壬午六月二十五日

松平修理大夫殿

松平美

吉保判

— 366 **—**

招、先祖を恥しむるの基也、武門にをひて不珎事といへ

實能可思之事、一能聞諫則必爲良將、三略:有之將能受諫能採言云~、

教之の歸正道、是君師之道也、如此則何陥侫奸之謀哉、將、然素先能辨近臣之邪正の正直之者賞之、邪曲之者一以臣知其君、以友察其人、故不知臣下之善惡則之曰暗

能、心懸肝要事

け、 才之所爲也、 遠き周世にてハ、周公旦聖德を以成王を補佐して天下を より守護代をも可被勤事なれは、國人之所瞻仰節彼南山 邊こ置て讀之、 治め、近く我家にては日新齋賢德を以て陸奥守貴久を翼 可均敷、邪心之才力を以ハ中、不及事也、其例を言に、 のつから政道補佐之任、其方を差置誰か可有之哉、躰に ては諸士之崇敬第一也、 二男也、 其方今年十六歲、已去年元服して益成長、特我等爲:素 右此條數素少して詞雖短、 却の忠言逆耳、良藥苦口、能、得心して可有信用、 嶋津之正統中興之主となしませる、是等は皆聖德賢 修理大夫爲こ素差次之弟、家中一門之中こおひ されハ並、之心懸にてハ、却あ諸人之笑を 可味之、あしく心得、事新敷様:引請て 然素修理大夫治世之節:素、お 其義

素則

廣遠

也、

平生

是を

身

送る事有へからす、それ我嶋津之元祖豐後守忠久太光陰如箭、時不待人可勤學太今年生也、相構て徒に日をかける時は車の一輪を折、鳥の一翼をおれるにひとし、和歌彈琴ハ風流之事、皆以左文右武之業にしてひとつも能軍法を學習、或手跡なともつたなからす書嗜、賦詩詠能軍法を學習、或手跡なともで親夕讀四書・五經の通其義、弓馬武藝之儀素勿論、とも、朝夕讀四書・五經の通其義、弓馬武藝之儀素勿論、

來到于我等、今二十代相繼で三州を領、且又代、之先祖、京師り、以仁義士民を撫給ひしか、其積善之餘慶五百年の、先陣之大將に命せられ、無事故逆賊を討亡して領國節、先陣之大將に命せられ、無事故逆賊を討亡して領國 が、先陣之大將に命せられ、無事故逆賊を討亡して領國 が、先陣之大將に命せられ、無事故逆賊を討亡して鳴津武の東鑑に載て昭晣たり、文治二年之春八歳にして鳴津

學ひ、九州を討隨て太守と仰れ給、是文武之德を兼備し今和歌集之奥儀を傳、青蓮院尊朝親王に附て入木之道ををひては修理大夫義久、近衞閼白前久公を師範として古

志を武將之家といふに決して文武に不暗し故也、近代に

て能旗下之將士を指揮し給ひしゆへならすや、義久之舎

院、是又文武之徳にして賢志の所致也、中納言家久初又大敵を討亡し給ひし、就中朝鮮國之大捷吴國まても無其弟兵庫頭義弘、初は守護代として政道を補佐し、幾度か

綱貴公御譜中

朝公之長庶子日本第一武將之後胤、嶋津之家聲を穢すま や、軍中にも文を忘れ給ハぬ御心さし、偏是元祖忠久頼 下に燈を挑、照高院如雪親王之御手跡を習學給ひしとか 義弘に力を戮せ在陣之中、或逢風景素詠和歌、 八郎忠恒と申せし時、秀吉公之命に依て朝鮮にわたり、 或帷幕之

將之器なるへし、敢不可有油斷、 能、決定して愛親敬兄之義を忘さる、則是忠孝之道中武 道に身を投て勤學し給ひし證據也、其方事此記置條數之 旨を專に相守、文武之道を學ひ令名を後代に可殘、 仍教訓之狀如件 志を

元禄十五年六月廿五日 綱貴

嶋津又八郎殿

元祖+リ、此年十六才ノ御少年ナリ、前々年采地五干石御給与アリン事モ見へ 按ルニ此又八郎ハ吉貴公ノ御舎弟ニテ、 後周防久陳ト改称セラレ 旧花岡邑主ノ

大學久敦 母古貴公御女

又八郎

周防久章

正文在文庫

端午之

御内書可相渡候之間、

明日五半時

御城は家來一人可被差出之り、以上、

元禄十五年六月廿六日

稻葉丹後守

松平薩摩守殿

十萬騎寄來し時に、義弘と一擧に切崩討取給敵三萬八千

しきの心さしゆへ、朝鮮國泗川之新塞におひて、明兵二

七百餘、吴國・本朝無雙之大勝利を得給事も、偏文武之

綱貴公御譜中

1235

正文在文庫

尚《匂袋素

女院御所御手合之この幸拜領申い間、 と存りの進上申り、以上、 御慰こも成い哉

疇昔造酒之丞被致同道りあ、三人之衆被參、始あ逢申、 筆令啓上り、酷暑難堪候、弥御勇健之旨珎重こり、然太

大悦仕り、則衣紋取りる見せ被申候、稽古情被出りと相(種) 香二・菓子一折以書中申入候印迄:令進獻之、 見え、取形存之外能いの御重寳成儀と別の悦い、此薫衣 猶期後慶

之時り、 恐惶謹言

元禄十五年七月一日

山科三位

-368 -

たつしやこ居申り、ふしんもことの外いそかれ申り

まゝ、後ノ八月にハ出來り半との事こて御座りまゝ、

しつけ御着の御左右御さい半とまちいりい、こゝ元 國元へ御着御休そくの事こてりいんとめてたく、お て御座り、いよく、機けんよく今ほとはするくくと 返く一土用も明まいらせい得とも、いまたあつさに

こても、あつさにもさのミいたミゖハて、われく

正文在文庫 吉貴公御譜中

松平薩摩守殿

正文在文庫 綱貴公御譜中

被獻之候、首尾好遂披露卟、 恐、謹言、

琉球布十巻・砂糖濱天門冬一器・泡盛酒二壺并御肴

三種

おミつ・鍋三郎殿よりも局使にてさかな下され、ことし(言賞長女)(継 豊)

ハ御兄弟こて一入めてたく滿足いたし、いよく、はんし

きくしく幾としも相替らすといわる入悦まいらせり、 御祝なされ、たるさかな下され、めてたく打よりりて、に

元禄十五年七月六日

正武判

阿部豐後守

松平薩摩守殿

り、かしく、

よくりて、かやうのめてたさ御さなく悦申り事こて御さ つさこて
いへと
も、
兄弟なから
少もさわり
もなく
きけん やうの事とにきく、敷いわゐ入まいらせり、殊之外のあ

元禄十五年

松平しゆ理大夫殿 やう和院

1238

御狀令披見い、就土用中 全上

尾好遂披露り、恐々謹言、 儀い間、可御心安い、隨の御肴一種被獻之い、各申談首

公方樣御機嫌之御樣躰、以使者被相伺之外、益御安全御

元禄十五年七月十日

阿部豐後守

御禮のため一筆申入り、いつものことく此九日:生身玉 御心安おほしめし給り、めてたくかしく

369 -

全上

就土用中

元禄十五年七月十二日

松平修理大夫殿

薩摩守

松平修理大夫殿

綱貴公御譜中

1241

恐く謹言、

松平右京大夫

扣

扣正文在文庫

大隅國鶴木村より日向國五十町分村に出ル道、境より(部城) 日向國往還筋并城下より國境城下城下は之道程之覺

日向國細嶋乘舩場迄、

貮拾八里拾三町、

拾三町ハ 大隅境日向國一里山より國境迄、

此境:字無御座り、

演百六里、

百八拾里ハ 海上、

右飫肥城下より

可御心安り、紙面之趣得其意り、 公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之4、 益御勇健御儀4間 御狀令披見み、

元禄十五年七月十一日

松平

美 濃守

吉保判

松平修理大夫殿

正文在文庫

1240

綱貴公御譜中

猶、去十日、其方與方に生見玉之祝儀振廻:參卟之

筆令啓り、其方事海陸無吴儀、此比太鹿兄嶋に到着り 何角之馳走この緩、と祝申儀り、 以上、

爲祝儀一種· 然素爲端午・七夕之嘉詞目錄之表饋給之、且又生見玉之 兩樽被相贈、欣然之至い、猶期後喜之時的

半と珎重存り、於爰許後一門中無別條り間、可易芳慮り、

恐、謹言、

-370 -

御宿所

内

日向國那珂郡飫肥伊東大和守城下より攝州大坂川口迄(禄・歩)

貳拾六里ハ

乘舩場細嶋迄之陸路

松平薩摩守内		が城下より攝州大坂川口迄、	一同國臼杵郡延岡三浦壹岐守城下より攝州大坂川口迄、
	元禄十五壬午年七月		同國延岡城下は拾四里、
	右之通御座候、以上、		右高鍋城下より
嶋津炎路守	美濃路	場迄之陸路、	百八拾三里八 海上、七里八 同郡美、津乘舩場迄之陸路、
	10.1年至		内 百九拾里、
三浦壹岐守	東海道	⁷ 城下より攝州大坂川口迄、	一同國兒湯郡高鍋秋月長門守城下より攝州大坂川口迄、
	美濃路	拾八里、	同延岡城下に
秋月長門守		三里、	同國高鍋城下に
	中仙道		右佐土原城下より
伊東大和守			百八拾里ハ海上、
	東海道	之陸路、	拾三里ハ 乗舩場細島迄之陸路、
	一江戸ロ之往還筋、		内
萬石以上之居所無御座り、	國に之往還筋、萬石以上		百九拾三里、
今度之御繪圖之面相違無御座り、	右道程之儀、今度之御繪		迄、
	百六拾里ハー海上、	嶋津淡路守 城下より 攝州大坂 川口(権) 久)	一同國那珂郡佐土原 嶋津淡路(雅
迄、	壹里ハ同郡東海乘舩場迄、	二拾壹里、	同延岡城下に
	内	拾七里、	同高鍋城下に(児優郡)
	百六拾壹里、	拾四里、	同國佐土原城下に

本 藤野休左衞門@ · 城 《源四郎》

扣正文在文庫

扣

迄

貮百七拾六里、

薩摩國鹿兒嶋郡鹿兒嶋松平薩摩守城より攝州大坂川口

薩摩國城下より道程之覺

薩摩國吉ノ村より大隅國脇元村に出ル道境、芝之本よ (鹿児島) (姶良郡) 大隅國往還筋國境迄道程之覺

り大隅國鶴木村より日向國五十町分村に出ル道境迄日

向國細嶋乘舩場に之海道

拾貳里三拾壹町、

右城下より琉球國之内大嶋ふかいか浦湊迄、

拾五里ハ

高城郡京泊乘舩場迄之陸路、

東百六拾 壹里ハ

海上、

百四拾成里

海上、

内

八町ハ 薩摩境大隅國壹里山より國境芝之本迄、

貳拾三町ハ 日向境大隅國壹里山より國境迄、

此境字無御座り、

萬石以上之居所、此外往還筋無御座り、

以上、

元禄十五壬午年七月

右道程之儀、今度之御繪圖之面相違無御座り、

城下并

江戸に之往還筋

ロ之往還筋、萬石以上之居所無御座り、 右道程之儀、今度御繪圖之面相違無御座候、

此外他國

松平薩摩守内

右三筋この御座候、

以上、

元禄十五壬午年七月

松平薩摩守内

美濃路 中仙道 東海道

藤野休左衞門邸

本城 源 Щ 郎●

1243

扣正文在文庫 扣

- 372 -

中將樣

御前に被召出入念り段、 元禄十五年八月二日

1245

吉貴公御譜中 正文在文庫

御狀令披見り、

許到着、爲御禮以使者目錄之通被獻之片、遂披露片處 下御暇、其上御馬并時服拜領之、 難有由得其意み、 就國

稻 葉丹 正通判

1247

全上

公方樣益御機嫌好可被成御座と恐悦旨尤り、將又今度被

御喜色之御事み、

恐、謹言、

元禄十五年七月十六日 筆啓上仕候、然素此程爲七夕之御祝儀御目錄之通被下

猶奉期後喜之時候、誠惶誠恐敬白、 置之、幾久忝次第奉存候、右之御禮爲可申上如斯御座外

松平修理大夫殿

阿

部

豐

正後守

土

屋

相

政直判

松平修理大夫

1246

御狀令披見り、 全上

N 許到着、 下御暇、 公方樣益御機嫌能可被成御座と恐悦旨尤い、將又今度被 恐、謹言、 其上御馬并時服拜領之、 爲御禮以使者目錄之通被獻之外、

難有由得其意り、

就國

紙面之趣承屆

元禄十五年 八月二日

松平修理大夫殿

松平右京大夫

吉保判- 美濃守

松 平

元

秋

小笠原佐渡守

2 但馬守

-373 -

正文在文庫

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御譜中"無之

本 城 源

四

藤野休左衛門倒 郎郵

貴札致拜見り、

首尾好御暇難有思召由、得其意存り、海陸御堅固六月廿 公方樣益御機嫌能可被成御座、恐悦旨尤存候、然素今度

元禄十五年八月三日

松平修理大夫樣

土屋相摸守

使者旨承屆り、隨の目錄通被懸御意忝次第り、恐惶謹言、 二日鹿兒嶋に御到着、珎重至御座り、依之爲御禮被差越

御報

1248

全

爲八朔之御祝儀、

以使者御太刀一腰・御馬代黄金十兩被

獻之
い、首尾能遂披露候、 恐、謹言、

稻

元禄十五年八月三日

在葉 丹後 守

秋元 但 一 喬朝 朝

小笹原佐渡守

屋 相 改直判 政直判

土

呵 部 豐 正武判

1249

全上

松平修理大夫殿

好御暇被 公方樣益御機嫌能被成御座、恐悦奉存り、貴樣先頃首尾 御札令拜見候、 仰出、其上品、御拜領難有御仕合之旨、御尤 如仰

惶謹言、

中迄御使者被差上候付、示預之趣被入御念儀忝存候、恐 之御事り、六月廿二日鹿兒嶋に御到着被成り、依之御老

元禄十五年八月三日

松平越前守

松平修理大夫樣

御報

古貴公御譜中

1250

正文在文庫

貴札致拜見り、

鹿兒嶋御着被成外之旨、 被差上御使者り付、御紙面之趣忝次第御座り、恐惶謹言、 般御暇首尾好被 公方樣益御機嫌能被成御座、奉恐悦り、然素貴樣御儀今 仰出、其上品、御拜領、 珎重之御事存み、 依之御老中迄 海陸御堅固到

定所に、

元禄十五年八月七日 朱丸*

松平隱岐守

而受レ之、

松平修理大夫樣

御報

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御譜中:在之

1251

正文在文庫

許首尾能相濟大慶存り、依之示給趣、入念儀存り、 芳札令披見り、 其方歸國之爲御禮鎌田出雲被差上之、爰(正武)

恐、

謹言、

元禄十五年八月十一日 松平修理大夫殿

薩摩守

綱貴御判

松平薩摩守殿

土屋

摸守

小笠原佐渡守

阳

部 豐 相

後 守 秋元 稻葉

但 丹後 城り、

馬守

守

回章

1252

綱貴公御譜中

1253

明十五日例月之御禮無之候間、 元禄十五年八月十四日

不及登

以上、

正文在文庫 全御譜中

1254 北郷家伊豆忠置譜中

告三家督之賀儀于 元禄十五年壬午八月十五日忠置参二上于御下屋敷二、 吉貴公二、獻二上干鯛一折・鯣一折

奉レ

昆布一折・御樽二荷・御太刀一腰・御馬代黄金十兩二、

正文在文庫

休左衞門久賢・本城源四郎忠辰等持ゝ之而獻ニ納於幕府評

時御勘定頭久貝因幡守、大御目附安藤筑後守列座(正之)

御狀令披見り

— 375 —

也、同年八月十二日以:I薩隅日繪圖六枚·中山國繪圖六枚

及中山國聚成之繪圖一、至二十是歲元禄十五年一終二其功1

先、是元禄十年之夏綱貴奉三

台命1 而畫11 於薩隅日三州

總計地圖十二枚一留守居赤松甚右衞門則茂、繪圖役人藤野

1255

吉貴公御譜中

吉貴公御譜中 正文在文庫

被下御暇、 公方樣益御機嫌能可被成御座と、恐悦旨尤い、將又今度 其上御馬并時服拜領難有之由、得其意い、 就

謹言、

國元到着、

爲御禮被差越使者以、

紙面之趣承屆外、

恐、

元禄十五年八月十八日

松平右京大夫

澤 出 保羽 明守

柳

松平修理大夫殿

吉貴公御譜中『在リ

1256

綱貴公御譜中 正文在文庫

付屆之儀付の者、家老中可申越之旨申付り間、 筆令啓り、先頃 品宮御方薨去、笑止之儀存り、(基熙室) 可被得其 京都

意り、右之趣爲可申如斯り、恐く謹言、

元禄十五年閏八月六日

薩摩守

綱貴御判

松平修理大夫殿

御宿所

1259

御狀令披見り、

元禄十五年閏八月十六日***

御札令拜見候、如仰拙者儀奥詰首尾能御免被成、 合奉存り、被入御念預示忝存候、 恐惶謹言、 松平越中守 難有仕

元禄十五年閏八月十四日

定重判

松平修理大夫樣 御報

1258 全上

御狀令披見り、

御儀い間、 公方樣御機嫌之御樣躰、 可御心易片、 以使者被相伺之外、 隨の御肴一種被獻之り、各申談 益御安全之

首尾好遂披露り、 元禄十五年 間八月十五日 恐、謹言、

松平修理大夫殿

小笠原佐渡守

恐ヾ謹言、 可御心易り、隨め御肴一種被獻之り、紙面之趣得其意り、 公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之片、益御安泰之御儀片間、

全上

至存り、 爲年首之祝詞被差渡使翰、 猶期後喜之時み、 恐惶不宣 殊准佳例數品饋給之、

松平修理大夫殿

爲曆甫之嘉儀、芳簡殊如恒例別録之表被相饋之、 過量之

猶期後喜之時い、 恐く不宣、

回復

1263

全上

芳翰令披見い、 恙令在府い間、

其地弥平安之旨、珎重之事り、

我等儀無

可易芳意い、然素堆朱手付重一組・銅之

恐惶不宣

犀一・紕紗綾五端贈給之、懇情之至存り、

元禄十五年閏八月十六日

中將

綱貴御判

琉球國司

回報

欣然之至り、

猶期

1264 綱貴公御譜中

通被相贈之、令祝着り、 恐惶不宣 芳札令披閱い、去歲女子出生之儀相聞得、

爲祝詞目録之

元禄十五年閏八月十六日

中將綱貴御判

謹上 琉球國司

欣然之

御系図三元禄十四年辛己五月廿日女子奈百姫御燕生、後島津藤次郎久智室トア ル、参考ニ供ス

- 377 -

松平 美

中城王子

爲改年之慶事、來札殊別楮之通到來、

後喜之時り、恐く不宣、

元禄十五年閏八月十六日

中將綱貴御判

回復

佐敷王子

全

1261

閨八月十六日 中將綱貴御判

至存り、

綱貴公御譜中

1260

吉保判

元禄十五年閏八月十六日

中將綱貴御判

謹上

琉球國司

全御譜中

別録之表到來、被入念儀存り、恐惶不宣、 芳墨令披見り、渡唐増銀之願有之付る、被差越使者、殊

元禄十五年閏八月十六日

謹上 琉球國司

中將綱貴御判

全上

如來簡去年女子出生り付め、爲祝儀目録之通被相饋之、

欣然之至存り、恐く不宣、

元禄十五年 閏八月十六日 株分半 中將綱貴御判

回復 佐敷王子

1267

全上

之至り、恐々不宣、

元禄十五年 閏八月十六日 株が*

如芳札去年女子出生り付る、

爲祝儀目録之通到來、

欣然

1266

1268

元禄十五年壬午閏八月十八日誕生、 於賽 町田郷九郎久儔室

行格女、

延享二年乙丑十月十二日卒、法名榮山玄壽、

1269

吉貴公御譜中

爲當年之喜儀、芳翰殊別楮之表饋給之、過量之至令欣悦

ル、猶期後喜之時ル、恐へ不宣、 元禄十五年閏八月廿一日朱兆十

侍從吉貴御判

回復

中城王子

正文在文庫

1270

吉貴公御譜中

筆致啓達候、

— 378 —

中城王子 中將綱貴御判

回報

綱貴公御子

母二階堂源右衞門

悦り、

猶期後喜時い、

恐く謹言

匠作樣倍御機嫌能可被成御座、珎重奉存卟、然素私拜借(青t) 金拾ケ年符こあ、 此間返上仕り、 然處近年佐土原作毛損

亡御座りる、 所帶方別の續兼り、 依之當午年より卯年迄

今度嶋津勘解由殿・喜入安房殿迄奉願 4 處、 (久 奮) (久患) 返上之儀被差延、 辰年より丑年迄拾ケ年:差上申度由

中將樣より御懇之以御意申上候筋被仰出之外、(編賞) 誠以忝次

第奉存り、右之御禮爲可申上、以使札如斯御座り、

以御

序宜預御披達候、賴入存候、 恐、謹言、

元禄十五年閏八月廿五日 朱が* 嶋津中務殿

嶋津淡路守

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御譜中ニアリ

1271

生并箸揃之爲嘉詞、先頃以税所甚右衞門祝儀進之 4處 芳札令披見り、 正文在文庫 其方愈無恙之由珎重存り、 然素鍋三郎誕(羅 豐)

元禄十五年閏八月廿八日 薩摩守 爲謝禮被差越伊集院長右衞門、殊目録之表贈給之、令怡

松平修理大夫殿

回章

全上 全上 此御書モ吉貴公御譜中ニアリ

1272

芳簡令披見り、其方弥無吴之旨珎重存り、 禮別札兩通之趣慇懃之事৸、以上、 然素我等參府

尚以七夕・八朔之爲祝儀、目錄之通進之り處、

爲謝

被入念儀存り、恐ゝ謹言、 之節被祝りの如例年料理被申付令怡悦り、

依之示給之段

元禄十五年閏八月廿八日朱为末 **羅摩守**

松平修理大夫殿

回章

- 379 -

吉貴公御譜中

是歲壬午二月十一日高輪第燒亡、因起三土木工」、

日者漸

宅」、是故平松中納言時量卿為以、書報、之、

正文在文庫

1274

电 氏薩摩守殿被入御念早速奇麗出來、(編 質) 度い、於江戸御一家方御無吴之由い、 久以書中不得貴意り、漸冷氣成り、弥御勇健之事り哉承 從陽和院方申來、於愚老恐悦存り、其段御推察可被 近頃移申いの喜悦之 然太陽和院宅御同

録 追 吉 綱 舊 貴 貴 記 公 公 雜 至 自 元禄十五年九月 録 司 十六年二月 巻三十

1275

綱貴公御譜中

筆令啓達候、 正文在文庫 弥御無爲い哉承度存み、

隨の領所之鮭二

尺令進覽之り、 猶期後音之時ル、 恐、謹言、

元禄十五年九月二日

水戸宰相

松平薩摩守殿 人
る
御中

正文在文庫

1276

綱貴公御譜中

呈 可有助力之由、懇篤之程感悦不淺、謝義不能紙筆り、仍 姫入輿之節、當時居所狹少之間、 雖向冷氣外弥平安之由珎、重、、此邊無難り、 簡外也、 謹言、 加修補添近隣之地事等 然去至亀(網費女、

(近衞家熙) (花押 No.4

元禄十五年 菊月初六

成件、 爱元無別條罷有い、 猶期後信み、 恐、謹言、

(禄) 九月朔日元録十五年九月朔日 松平修理大夫樣

嘯月 (平松時星)

- 380 -

소 上

御狀令披見り、

公方樣御機嫌之御樣躰、

以使者被相伺之り、益御勇健之 隨の御肴一種被獻之い、各申談

1278

吉貴公御譜中 正文在文庫

元禄十五年 九月七日

薩摩中將殿

墨綱印吉

述り也

爲重陽之祝儀、

小袖五到來、

歡覺候、

委曲阿部豐後守可

正文在文庫

1280

吉貴公御譜中

此御書綱貴公御譜中・ハ無之

一筆啓上仕候、爲重陽之御祝儀御目録之通被下置、幾久

拜受仕忝次第奉存り、右之御禮爲可申上如斯御座り、

正文在文庫

元禄十五年九月廿一日

松平修理大夫

奉期後喜之時候、誠惶誠恐敬白、

首尾好遂披露り、恐ゝ謹言、 御事以間、可御心安以、

元禄十五年九月十一日

阿部豐後守

松平修理大夫殿

進上 中將樣

吉貴公御譜中 此御書モ綱貴公御譜中にハ無之

正文在文庫

1281

御狀令披見り、

薩摩中將殿

公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之り、益御勇健之御事り間

可御心安外、 適の御肴一種被獻之り、紙面通得其意り、

恐、謹言、

1277

綱貴公御譜中

松平右京大夫

元禄十五年 九月十二日 朱カキ

柳 澤 出

松平修理大夫殿

保明 保明 明守

- 381 -

一筆令啓り、其方儀海上無吴其地に到着、珎重存り、猶

爰許一門中無恙り間、可易芳慮り、隨あ爲祝儀目録之通

進之り、猶期後喜之時り、 元禄十五年 九月廿五日 恐く謹言、

薩摩守

綱貴御判

御宿所

松平修理大夫殿

1282

吉貴公御譜中

爲今年之嘉儀被差渡使翰、殊被任恒例目錄之通贈給之、 入念 4 段令 欣悦 4 、 猶期後喜之時 4 、 恐惶不宣、

元禄十五年 九月廿五日

侍從吉貴御判

蓬上

1283

全上

琉球國司

之、入念り趣令祝着り、恐惶不宣、

元禄十五年 九月廿五日

侍從吉貴御判

芳翰令披見卟、去歲於奈百誕生之爲祝詞、

別錄之表贈給

回復

佐敷王子

侍從吉貴御判

1286 全上

上之い段遂披露い處、 御狀令披見い、 爲年甫之御祝詞 御喜悦之御事り、恐く謹言、 匠作様に練蕉布三端進 1284

全上

琉球國司

餼之、欣然之至り、恐、不宣、 芳札令披見り、去歲於奈百出生之爲祝儀、

元禄十五年九月廿五日

侍從吉貴御判

回復 中城王子

全上

爲今年之嘉事、芳札殊目錄之通被相贈之、令恰悦片、猶

期後喜之時り、恐ゃ不宣、

元禄十五年 九月廿五日

1285

別錄之表被相

新納 市正

川 上 式 部

元禄十五年 九月廿五日 朱5.4

1287

爲今年之嘉事、芳札殊目錄之通被相贈之、令怡悦外、

幸地親方

嶋津助之丞

嶋

津

海 中 務 外輝判

嶋 津

猶

幸地親方

1289 **仝御譜中**

中將樣に練蕉布十端・燒酎一壺進上之り付あ、右之段首 御札致披見片、爲年首之御祝儀

尾能達 貴聞り、恐ゝ蓮言、

元禄十五年九月廿五日

種子嶋藏人

川 上 式 部

新納 市正

嶋津助之丞 忠守判

嶋津 中務

嶋 津 大 藏 、

恩納按司

— 383 —

元禄十五年九月廿五日

種子嶋藏人 種子嶋藏人

く謹言、

貴聞い、恐

綱貴公御譜中

芳札令披見 h、爲年首之御祝儀、

中將樣口練蕉布十端進上之り段、首尾能及

1288

元禄十五年九月廿五日

期後喜之時り、恐々不宣、

侍從吉貴御判

回復 中城王子

仝御譜中

後喜時り、恐く不宣、 爲改年之慶事來札、殊目錄之通到來、欣然之至り、

元禄十五年九月廿六日

中將綱貴御判

回復 佐敷王子

綱貴公御譜中

1291

正文在文庫

御佳例於 翰奉啓上候、倍御機嫌能可被爲成御座、 石清水八幡宮寳前護摩供等之修法抽精誠、 奉恐悦候、 任 御

札巻數指上申候、猶奉期後喜之時候、恐惶謹言、本。、

元禄十五年九月吉日 拝進

榮鎭判

1293

北郷家伊豆忠置譜中

公上、白: 太守綱貴公:、蒙>恩免使:|家臣北郷次兵衞久

元禄十五年十月 忠置欲ト以ニ 使者 エ 奉ュ謝サ

右大臣家凞

高」上洛謝」之、

薩摩中將樣

1292

綱貴公御譜中

正文在文庫

南被戍被下、首尾能御座りあ至拙者共大慶仕り、右 猶以此方領内繪圖之儀:付あ、萬端被爲入御念御指

1294

綱貴公御譜中

芝第及取添田町兩所之屋鋪盡燒亡、 元禄十五年壬午十月十八日夜戌刻自11江府芝市廳1失火、 是故綱貴暫移;居高

奉存り、以上、

式付る、

自然御用等之儀も御座りハ、、可被仰下之

猶期

納申候由承知仕、乍憚目出度奉存り、右之御歡爲可申上 然素其元様より御調進被遊り國御繪圖、於江戸首尾能相 一筆致啓上り、貴殿樣弥御勇健可被成御座、珎重奉存り、

元禄十五年十月朔日

如斯御座い趣、宜預御心得い、

誠恐惶謹言、

神宮寺外記

宇宿傳左衞門

主計樣 参御与力衆中

嶋

十八日之曉火事出來、折節風烈芝御屋敷御類燒被遊、驚

珎重奉存み、

然素昨

1297

全

修理大夫樣弥御機嫌能可被成御座、

筆致啓達り、

元禄十五年十月十八日 松平修理大夫樣 人・御中

1296

1295

吉貴公御譜中

否一、綱貴謹而奉」謝二恩篤之忝一、

大將軍綱吉公使: 齋藤治左衞門 | 來:| 芝亭 | 尋:| 火後之安(衤 常)

輪之館」、 昱十九日

正文在文庫

今詳開三于後二、

元禄十五年壬午十月十八日夜江府大火、綱貴芝第罹ゝ災、

筆致啓達り、今十八日夜薩摩守殿從御門前出火、 御屋

旨爲可申述如斯御座り、恐惶謹言、 鋪致類燒御笑止存り、併何ゑ御無事御立退珎重存り、此

松平越中守

1298 綱貴公御譜中

正文在文庫

淺り、弥勇健之由欣然り、爰許無吴事り、猶期後音不能 被問安否芳翰、 且目録之通被惠寄之、誠懇情之趣滿足不

多毫り、謹言、

元禄十五年初冬廿三烏朱がき

(近衞基熙

(北押

No.3

薩摩中將殿

正文在文庫

1299

綱貴公御譜中

去十八日夜自表御門前火發いる、芝・田町等不殘御類火 追あ申、 貴樣全御無吴之段令承知目出度存り、以上、 奉存り、雖然

等之段旁爲可申上、御自分迄如斯御座片、 中將樣皆樣御勇健被成御座、此段目出度御儀奉存り、

以御序宜預御

此

披達り、賴入存り、恐ゝ謹言、

嶋津淡路守

元禄十五年十月十九日 朱**

嶋津中將殿(務カ)

— 385 —

全御譜中

芳緘披覽其地無吴事珎重、、、此表同前4、仍被訊安否、 正文在文庫

元禄十五年孟冬廿三

(近衞家院)

目録之通被投與之、欣然之至り、餘事不能詳り、謹言、

薩摩中將殿

1301

綱貴公御譜中

正文在文庫

1303

正文在文庫 綱貴公御譜中

被差出候、以上、

重陽之 御内書可相渡候間、

元禄十五年十月廿六日

1304

吉貴公御譜中

(近衞家久) №6

元禄十五年小春廿三

被尋安否目録之通恩賜、怡悦不淺り、尚期後音り、謹言、 華翰令披閱片、愈平安之由珎重思給片、此地無恙り、仍

薩摩中將殿

之由令承知、絕言語り、乍去奥方・御息方等無恙御退散

りの高輪に御移り由、乍此上珎重存り、恐惶謹言、

元禄十五年十月廿五日

交野三位

時香

松平薩摩守樣

1302

全御譜中

筆啓上仕り、雖寒氣節御座り弥御勇健可被成御座、珎 正文在文庫

將又私儀無吴罷在り間、 重之御儀奉存り、寒中御機嫌爲可奉伺之、如是御座り、 尊意安可被思食い、猶奉期後音

時候、誠惶誠恐敬白、 元禄十五年十月廿五日

中將樣

松平修理大夫

明日五半時 御城に家來可

阿部豐後守

松平薩摩守殿

御狀令披見吖、 正文在文庫 **疋**鹿毛御、

1305

全上

御狀令披見り、

儀被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣得其意い、 公方樣益御機嫌能被成御座、先頃小石川御殿被爲

元禄十五年十月廿六日

松平右京大夫

恐、謹言、

松 平 一 夫 濃 守

松平修理大夫殿

1306

北郷家伊豆忠置譜中

1309 全上

全上

吉貴公于麑府館」、獻上御太刀一腰・御刀一腰 兼・御馬

元禄十五年壬午十一月二十二日忠置爲ゝ賀ニ家督ュ奉ゝ請・

穩 外義 不安 心 り、 因 茲 一種 令 進 覽 り、 當 所 無 吴 儀 り、 餘 今度其邊類火之由、併各、御安寧之旨此上之珎重、尚平 元禄十五年十月廿六日

松平修理大夫殿

謹言、

儀被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣各申談及言上り、 公方樣益御機嫌能被成御座、先頃小石川御殿被爲

恐、 成り

態啓一簡い、

火後弥平安り哉、

難澁之程令遙察り、

隨る

1307

綱貴公御譜中 正文在文庫

土屋相換守

元禄十五年 仲冬朔

(近衞基熙)

如目錄乍菲薄令贈之以、於笑納素可爲本懷以也、

(花押 No.3

薩摩中將殿

1308 綱貴公御譜中

正文在文庫

り哉、隨め茶一壺不取合贈進之り、 今度依急火居宅回禄之由相聞、可爲窮屈令察候、弥安康 聊補空書耳候、 猶期

後信い也、

謹言、

元禄十五年仲冬朔

(近衞家熙)

No.4

薩摩中將殿

成り

1311

全上

全上

期後音い條、

不能多端片也、

謹言、

元禄十五年 仲冬朔

(近衞家久)

知仕珎重こり、爲之見廻如此り、 亦其御地:近邊ゟ失火卟、 類火之義素無是非外、家內下、迄後無別條外由承 時分柄向寒氣り、弥勇健り哉承度り、且 空屋敷モ焼り由、 恐惶謹言、 御難義被察

松平薩摩守殿

1313

吉貴公御譜中

嚮日 甲府中納言綱豐卿之家屬 戸田長門守,因有、報章、(忠利) 品宮夢御之女子、網豊廟之旅中也、 是故以」弔書達三于

于左二、

府殿に令洩達い處、被入御念外段自私可申演之旨御座外、 貴札致拜見り、 甲

御座り、

誠惶誠恐敬白'

別條無御座由承知仕、

目出度奉存り、

此段爲可申上如是 雖然貴公樣其外御

御屋敷御類燒之旨苦、敷御事御座り、

筆啓上仕4、去月十八日晚芝同朋屋敷從裹屋敷出火、

1312

筆啓上仕候、

正文在文庫

綱貴公御譜中

中將樣

松平修理大夫

-- 388

元禄十五年十一月六日

進上

N<u>o.</u>6

正文在文庫

示

朋

(花押

No9

元禄十五年十一月三日

入外、

翰令啓達り、

綱貴公御譜中

薩摩中將殿

苦、敷奉存み、 此段爲可申上如斯御座り、 先頃其御地火事御屋鋪類燒之由承知仕、

元禄十五年十一月六日朱カキ

稻葉能登守 知通判

恐惶謹言、

薩摩守樣 参人、御中

松

1314 正文在文庫

品宮御方薨去付被仰聞り御紙面之趣、

松平修理大夫殿

1315

吉貴公御譜中 正文在文庫

元禄十五年十一月七日

恐惶謹言、

松平修理大夫樣

戸田長門守

土

元禄十五年十一月十日

分之儀、以使者被相伺之候、及

高聞い處、來年五月中

數差上之作、

御前宜御披露可被下候、恐惶謹言、

元禄十五年十一月十一日

蓮金院 ノレス

薩州中將樣

御用人御衆中

御祈禱、於愛染堂十座十萬遍之秘法致執行之りる、

相調申り、當月朔日愛染明王奉安置堂内ロ、

太守樣為

御巻

爲下りこ付、七月中旬之比ゟ普譜相始、先月末大樣修補 於大坂當寺愛染堂其外大破之處、致修補৸樣:と銀子被 太守様益御機嫌宜被爲成御座珎重之至奉存り、隨る當秋

公方樣益御機嫌能可被成御座と恐悦旨尤り、將又參勤時

御狀令披見り、

可致參府由被仰出り、可被存其趣り、恐ゝ謹言、

稻葉丹後守

元 但 高期 高明判

秋

小笠原佐渡守 屋 相 政直判

豐

呵

一後 正武判

1317

全上 正文在文庫

方迄差上之い間

大坂御屋敷迄以使僧十萬遍之秘法執行仕、

御巻數御用人

迄申達候、恐惶謹言、 御前宜被仰達可被下外、

修補委細之儀素伊地知五兵衞殿

1316

綱貴公御諮中 正文在文庫

大坂御屋鋪迄、以使僧奉呈一翰侯、

— 389 —

綱貴公御譜中

元禄十五年十一月十一日

蓮金院 ノレス

喜入安房樣

今歲二月十一日高輪之亭燒亡、因經二營之一、 擇三吉日良 徙三移

辰 | 而陽和院介雄中 · 知性院光久 · 御亀 中将網貴女、後嫁

于高輪新造宅」、

吉貴公御譜中

1319 御狀令披見い、

承、恐悦旨尤候、 公方樣益御機嫌能被成御座、先頃增上寺被爲 紙面之通各申談及言上り、恐、謹言、 成り儀被

元錄十五年十一月十二日 松平修理大夫殿

阿部豐後守

元禄十五年十一月十三日 ***

松平右京大夫

平 - 美 濃 守

松

松平修理大夫殿

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御譜中"有之

1321

正文在文庫

尚以重陽之祝儀目録之通進之り、爲謝禮別紙之趣、

芳札令披見り、其方弥無吴之旨珎重存り、 是又入念儀り、以上、 我等儀ゑ無恙

院殿・於亀儀及同前移従相濟り、爲祝儀示給入念儀存り、 い間可安芳意い、然素陽和院樣高輪屋敷に御移徙、

恐、謹言、

元禄十五年十一月十三日 ***

薩摩守

松平修理大夫殿

全 此御書吉貴公御譜中ニアリ

1322

筆啓上仕候、 此節おせい名被成 (編責な、町田氏室) 御付い

之儀存候、右之旨爲可申上如斯御座片、

誠惶誠恐敬白、 由承知仕、

一段

-390

1320

全上

御狀令披見り、 公方樣益御機嫌能被成御座、

承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意候、恐、謹言、

先頃増上寺被爲

成い儀被

江戸從嶋津勘解由殿、拙者家來は被申聞置旨ゑ有之外、

1324

全上

從

全上 元禄十五年十一月十五日 進上 中將樣

此御書吉貴公御譜中"無之

1323

仕
い
、
猶
期
來
陽
諸
慶
可
申
上
候
、 歳暮之御祝儀爲可申上如斯御座り、隨あ目錄之通進上之 誠惶誠恐敬白、

筆啓上仕候、弥御勇健可被成御座、珎重之御儀奉存外、

松平修理大夫

元禄十五年十一月十五日 朱ガキ

進上

中將樣

中將樣被成下御書、謹の致拜見い、然素中川因幡守殿屋(次 逓)

段、被爲入御念り御儀一、得其意奉存り、右之儀付の於 通之書狀素彦大夫殿被致一覽、宜樣賴入以由可申越之旨、 指南之通書狀相認、小笠原彦大夫殿方に差越可申卟、 (長 性) 敷と此方屋敷替之儀付あ、委細之御書面奉得其意り、 御 兩

正文在文庫 吉貴公御譜中

1325

御狀令披見り、

り儀被承之、恐悦旨尤候、紙面之趣各申談及言上り、 公方樣益御機嫌能被成御座、先頃本庄安藝守亭被爲(寶/像)

く 謹言、

元禄十五年十一月十六日

阿部豐後守

松平修理大夫殿

1326 御狀令披見り、

元録十五年十一月十六日

松平右京大夫

い儀被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣得其意い、恐、謹言、 公方樣益御機嫌能被成御座、先頃本庄安藝守亭被爲 成

御座り、 电 定の頃日:老爱元ロゑ爲申越儀も可有之と被爲 未此儀不申越り、右之御請爲可申上、御自分迄如斯 以御序宜預御披達片、賴入存片、恐、謹言、 思召り

松平修理大夫

元禄十五年十一月十六日 朱##

嶋津大藏殿

嶋津淡路守

正武判 恐 成

吉貴公御譜中

1328

全上

松平美濃守

松平修理大夫殿

正文在文庫

追申、再答令略一紙り也、

平安之由珎重り、此元無恙り、穴賢くく、

爲先頃之還答教墨逐一丁寧之趣令滿足り、

(近衞家熙)

(花押 No.4

元禄十五年 仲冬念一

薩摩侍從殿

1329

案文在文庫 綱貴公御譜中

い、於其儀統圖役人より相渡可申申達 渡可申以間、來月十一日、十二日比御請取之人可被差越 先頃於江府被致調進り御領分御繪圖之扣、此節於當地相 筆令啓達り、各樣弥御無爲可爲御勤、珎重存り、然素

如此御座片、恐惶、 元禄十五年午十一月廿三日

雖寒氣之節滋

久珍 久重

久輝

小坂六郎左衞門樣

小田彦左衞門樣 隈江五郎左衞門樣 (昌 興)

人、

(近衞家久)

(花押

No.10

1330

案文在文庫

欣幸り、此邊無吴儀り、穴賢、、、

元禄十五年冬半念一

薩摩侍從殿

爲先頃之還答數通芳札一、慇懃之趣滿怡り、

愈安寧之由

追の再答令略一紙り也、

調進

以其御領御繪圖之

和、於御當

地可相渡

い間、

來月

十 筆令申以、各可爲御無吴珎重存以、然去先頃於江戸御 十五日比請取之人可被差越り、於其儀素繪圖方役

四日、

綱貴公御譜中

案文在文庫

筆致啓上り、弥御堅固可被成御勤仕、珎重奉存り、然

人より可相渡り、此旨爲可申達如此り、 元禄十五年午十一月廿三日 株 *** 久重

恐、、

久輝

神宮寺外。記殿伊集院三右衛門殿 宇宿傳左衞門殿

1332

座り、

元禄十五年午十一月廿三日

久輝

久輝 久珍 久重 い、右之段申達い様こと薩摩守申付如此御座り、恐惶。 比御手傳衆被差越度4、於其儀素繪圖役人より相渡可申 節於當地御手傳衆に相渡可申り間、來月十三日、十四日 *先頃於江戸調進仕以日州御支配所御繪圖之扣相調、此

元禄十五年午十一月廿三日

1333

<u>全</u>

筆令啓達片、各樣弥可爲御無吴珎重存片、然素先頃於

米良半右衞門樣 (陳 章) 片岡權兵衛樣 菊池源左衞門樣 万江長右衞門樣 竹村惣左衞門様 参人、

-393 -

全 筆令啓達り、各樣弥可爲御無吴珎重存り、然然先頃於

其儀素繪圖方役人より相渡可申り、此旨爲可申達如此御 可申り間、來月六日、七日比御請取之人可被差越り、於

江戸被致調進4日州椎葉山御繪圖之扣、此節於當地相渡

久珍

久明

全上

い間、 *結圖役人より相渡可申り、此旨爲可申達如此御座り 江戸被致調進外御領内御繪圖之扣、此節於當地相渡可申 來月九日、十日比御請取之人可被差越外、 於其儀

元禄十五年午十一月廿三日

戸村惣右衞門樣愛忠

久明 久輝 久珍

九津見吉左衞門樣

久珍

久輝

久明

伊東權左衞 崎 大 膳樣 門樣

川

松岡八郎右衞門樣(信件) 山田次郎左衞門樣(宗武)

1335 綱貴公御譜中

先頃於江戸御調被差上4日州椎葉山御繪圖之扣、於其御 **貴翰致拜見り、各樣弥御堅固御座り由珎重奉存り、然素** 正文在文庫

守御賴被申入置外、被成御調達忝次第御座外、於江戸遠 江守方に及可申遣り、恐惶謹言、

御繪圖御役人より御渡可被成由、得其意存み、兼の遠江御繪圖御役人より御渡可被成由、得其意存外、兼の遠江

地御渡可被成り間、來月六日、七日比請取之者差遣り去、

米良半右衞門

菊池源左衞門

元禄十五年十一月廿七日 朱为*

嶋津大藏樣

爲可申達如此御座り、

恐惶

得調い付る、

此節御相給之御方に相渡申い、其御領之儀素繪圖面廣不

年內去致延引來春相渡可申り、

右之御案内

國御繪圖先頃於江戸調進相濟り、右之扣繪圖銘々書寫、 筆令啓達り、各樣弥可爲御無吴と珎重存り、然素日向

-394 -

元禄十五年午十一月廿三日朱兆*

元禄十五年十一月廿七日

松岡八郎右衞門

全御譜中 正文在文庫

恐惶謹言、

入御念之御儀忝奉存り、

御差圖之通請取之者進可申り、

川上式部樣 新納市正樣

嶋津中務樣

貴答

* 先頃致死去い間、 追啓万江長右衞門、 書載不仕り、 頃日江戸は罷越り、 片岡權兵衞儀

> 嶋津中務樣 嶋津大藏樣

> > 伊東

權

左.

右衛 称門 料

山田次郎左衞門

川上式部樣 新納市正樣

貴報

十一月廿七日

1337

尊札致拜見い、 正文在文庫

差越可申い、左い光繪圖方御役人ゟ御渡可被成由被仰聞 節於其御地御渡可被成片間、來月九日、十日比請取之者

Ŋ

元禄十五年十一月廿八日 株計

越外、恐惶謹言、

神 宮 寺

純 外 正記 判

宇宿傳 左衛門 全御譜中

い、然素先比於江府相納申い當領內繪圖之扣御渡可被成 候間、來月十四、五日之比請取之者差上可申之旨被仰下 御書面之趣委細奉得其意外、 各樣弥御勇健被成 御座之旨、 此段淡路守方江及可申 珎重奉存

貴札致拜見い、各樣弥御堅固被成御座い由、目出度奉存 い、然素先比於江戸御調被差上此方領分繪圖之扣、此

Ļ

猶、川崎大膳義江戸は罷越い之故、

加判不仕り、

以

伊集院三右衞門

— 395 **—**

全上

仰付、 致承知、

來春此方に及御渡可被成由、 則壹岐守は爲申聞り、

> 被入御念御紙面之趣 右之扣繪圖銘、寫被

恐惶謹言、

貴札致拜見り、各樣弥御堅固御座り由珎重奉存り、

然去

日向國御繪圖先頃御調進相濟り由、

Ш 式部樣 嶋 嶋

中務樣 市正樣

大藏樣

新

貴報人く御中

申外間、 可被成御渡り間、來月十一日、十二日比請取り者其御地 然素於江府御詞被遊外長門守領分繪圖之扣、御役人中ゟ(繭ク) 貴札拜見仕り、各樣弥御堅固被成御座之旨、珎重奉存り、 は差越可申由被仰下、奉得其意り、御差圖之日限差越可 元禄十五年十一月廿九日 可然樣被仰付可被下外、 奉賴り、 小田彦 左衞門 恐惶謹言、

隈江五郎左衞門

小坂六郎左衞門

1340

正文在文庫

戸村

元禄十五年十二月二日

九津見吉左衞門

惣 左右衛 門

嶋津大藏様

嶋津中務様

新納市正樣

川上式部樣 御報

然素日州椎葉山御繪圖之扣御渡可被成外間、來ル六日、 七日比請取之者可差進由、 筆致啓上候、寒氣之節各樣弥御堅固之由、珎重奉存り、 先頃被仰下り、 兼の遠江守繪

川上式部様 新納市正樣 嶋津中務樣 嶋津大藏様

1339

正文在文庫

猶以繪圖御渡之節、

御左右可被成之由、是亦致承知

以上、

年如件御座候、以上、

御扣之寫、此節於鹿兒鳴御渡被成、

慥相請取申り、

依之椎葉山之繪圖御扣之寫壹枚、變地其外被相改り目錄

1341

正文在文庫

吟味之上、清御繪圖御調江戸御評定所沒頃日被相納り由 遊候こ付、日杵郡内御料椎葉山素遠江守ね御預之地この 御座り故、下繪圖相調先年以使者鹿兒嶋ゖ差出り處、 今度諸國繪圖御改:付、 日向國繪圖從薩摩守樣御調進被

其如此御座り、 元禄十五年十二月四日 恐惶謹言、 其許御繪圖御役人中御渡被下り様:被仰渡可被下り、

圖役申付置い新宮市左衞門と申者、

當病:付此者進み、

米良半右衞門

菊池源 武信判 武信判

川上式部様 新納市正様 嶋津中務様 **嶋津大藏様**

参人 こ御中

1342

元錄十五壬午年十二月六日

相良遠江守内 米良權左衞門邸

松平薩摩守樣御内

本城源四郎殿(忠 展) 藤野休左衞門殿(久)賢)

綱貴公御譜中

筆致啓上い、 正文在文庫

甚寒之節御座り得共、

各樣愈御堅固可被

衞門と申者差越申い間、 者進い様先達の被仰下、入御念忝奉存い、依之松浦助右 之扣、來九日、十日比於其御地御渡可被成以間、 成御勤、珎重奉存り、然光於江戸御調被差上り當領繪圖 存外、委細素彼者口上申含り、 繪圖方從御役人中御渡可被下奉 恐惶謹言、 請取之

元禄十五年十二月七日

御

伊東久 松岡八郎右衞門 左

山田次郎左衞門 祐周判

— 397 —

筆啓上仕り、

雖寒氣甚り各樣弥御堅勝被成御座之由、

正文在文庫 綱貴公御譜中

> 伊東 權 左 右 猫 秋 判

> > 嶋津中務樣

嶋津中務様 嶋津大藏樣

新納市正樣

川上式部樣

人
る
御
中

川上式部様 新納市正樣

参人〜御中

1344

綱貴公御譜中 正文在文庫

江戸御評定所は頃日被相納い由、依之大和守領分繪圖御 年以使者鹿兒嶋ロ差出い處、御吟味之上清御繪圖御調? 遊りこ付、那珂・宮崎郡之内大和守領内下繪圖相調、 今度諸國繪圖御改:付、日向國繪圖從薩摩守樣御調進被

先

御扣之寫、此節於鹿嶋御渡被成慥請取申4、爲後年如件! 扣之寫壹枚、鄉帳御扣之寫壹冊、 變地其外被相改以目録

元禄十五壬午年十二月九日

樣被仰付可被下片、奉賴片、

恐惶謹言、

小田彦左

知貞判

元禄十五年十二月七日

其御地に可遣由被仰下り、今度惠利清八指越申り、 從御役人中御渡可被成片間、請取片者今月十一、二日比 珎重奉存り、然素於武被遊御調り長門守領分繪圖之扣、 (ñ與カ)

可然

伊東大和守内

隈江五郎左衞門

小坂六郎左衞門

嶋津大藏様

松浦助右衛門剛

松平薩摩守樣御内

本 ·城源

四郎殿

藤野休左衞門殿

越い付の、惠利清八殿被差越被仰聞趣入御念儀存り、依

然
去長門守樣御領御繪圖之扣相渡可申之旨先達る申

之御繪圖役人共に申付、其御領御繪圖等相渡被請取之い、

1345

綱貴公御譜中

今度諸國繪圖御改:付、 正文在文庫

日向國繪圖從

薩摩守樣御調進

委曲清八殿可爲演説以間不能詳以、

元禄十五年午十二月十二日 朱为*

久重

被遊こ付、長門守領内下繪圖相調、

前年以使者鹿兒嶋

'n

久輝

久珍

久明

日被相納り由、依之長門守領分繪圖御扣之寫三枚、 指出い處、 御吟味之上清御繪圖御調、江戸御評定所は頃

鹿兒嶋御渡被成慥請取申り、爲後年如件、

御扣之寫壹冊、變地其外被相改り目録御扣之寫、

此節於 郷帳

小田彦左衛門樣 隈江五郎左衞門樣 小坂六郎左衞門樣

元禄十五壬午年十二月十一日

秋月長門守内(種 政)

惠利清八面

松平薩摩守樣御内

藤野休左衞門殿 城源四郎殿

1347

全御譜中

正文在文庫

含叶、恐惶謹言、

衞門致参上
い間、

宜樣御指南被遊可被下り、

委曲口上申

間、

請取之者差上可申由被仰下り、

因茲今度春成與五左

然 先頃御家老中より淡路守領内繪圖之扣御渡可被遊り 筆致啓上り、貴殿樣弥御勇健可被成御座、珎重奉存り、

元禄十五年十二月十二日

宮 寺

神 純外 正記

伊集院三右衞門

-399 -

1346

案文在文庫

如仰寒氣之節り得共、各樣御無吴珎重存

御札令拜見い、

正文在文庫

宇宿 傳左

肝

付 主 一殿樣

参人く御中

主計樣

嶋

参御與力衆中

1349

吉貴公御譜巾

正文在文庫

御事い間可御心易い、隨の御肴一種被獻之候、各申談首 公方樣御機嫌之御樣躰、以使者被相伺之片、益御安全之 御狀令披見い、就寒中

元禄十五年十二月十三日

稻葉丹後守

松平修理大夫殿

伊集院三右衞門

1350 全上

御心安り、隨の御肴一種被獻之り、紙面之趣得其意り 公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之り、 御狀令披見候、寒中付る

益御安全御事い間可

恐、謹言、

元禄十五年十二月十四日

松平右京大夫

松 在平美濃守

先頃被仰下い、因茲今度春成與五左衞門差上申い、 然光於江戸御調進り淡路守領內繪圖之扣御渡可被遊由、

宜樣

尾能遂披露り、恐々謹言、

御指南被遊可被下り、委曲口上申含り、恐惶謹言、

元禄十五年十二月十二日

神

宮

· 寺 外 純正判

宇宿 傳 左 衞 門

-- 400 --

筆致啓上り、各樣弥御勇健可被成御座、珎重奉存り、

嶋 大 藏樣

嶋 中 務樣

嶋 助之允樣

Ш 新 定 正樣 部樣

種子

藏人樣

意り、

恐く謹言、

1353

全上

御狀令披見り、

摩守居宅類火付る 公方様益御機嫌能可被成御座と恐悦旨尤り、 上使被遣之難有之由、紙面之趣得其 將又同氏薩

1352

正文在文庫

御狀令披見り、

氏薩摩守居宅類火付る 公方樣益御機嫌能可被成御座と恐悦旨尤候、將又先頃同 上使被遣之、難有之由得其意以

元禄十五年十二月十四

松平修理大夫殿

紙面之趣各一覽之事片、

恐、謹言、

稻葉丹後守

1355 綱貴公御譜中

此御暫吉貴公御譜中"在リ

正文在文庫

爲上使齋藤次左衞門殿被下置、忝仕合奉存外、右之爲祝 無別條い間、可易芳慮い、然老先頃屋敷類燒付あ、 芳札令披見り、其方弥無吴之由珎重存り、 於爰元何れる

儀稅所治左衞門被差越、被入念之段欣然之至り、恐、謹

1351 今歲十月十八日芝第罹:火災1、

吉貴公御譜中

松平修理大夫殿

元禄十五年十二月十四日

松

松平右京大夫 松平右京大夫 平 - 美 濃 守

松平修理大夫殿

綱貴公御譜中

1354

也、吉貴在」國而聞」之呈二使書一而奉」謝」之乃賜二奉書一、

大樹綱吉公以: 齋藤治左衞門 1、

忝尋□綱貴之火後安否

翌十九日

此御書吉貴公御譜中三在リ

正文在文庫

及類燒不意之事り、然共何れる無別條り間、可易芳慮り、 去月六日之芳札令披見4、如來意先比爰元出火、芝屋敷

依之示給趣、被入念儀存り、恐、謹言、

元禄十五年十二月十四

薩摩守

綱貴御判

松平修理大夫殿 回章

聚 日

-- 401 --

是書中誤而以レ治作レ次也

元禄十五年十二月十四日

薩摩守

候付、

見湯・那珂郡之内淡路守領内下繪圖相調、

前年以

松平修理大夫殿 回章

吉貴公御譜中

1356

筆致啓達候、

中將樣皆樣愈御機嫌能被成御座、 修理大夫樣倍御勇健可被成御座、 殊芝御屋敷御作事御造 珎重奉存み、當御地

以御序宜預御披達候、賴入存り、 恐、謹言、

元禄十五年十二月十五日 朱光*

嶋津淡路守

は申付、

其御領繪圖之扣等與五左衞門方は爲相渡之り、

嶋津中務殿

御身分迄如斯御座4、(自力)

案文在文庫

本城 藤野休左衞門殿 源 四 郎殿

恐~、 元禄十五年十二月十五日 ****

久重 久時

久珍

1358

あ申越、 御狀令披見り、然素淡路殿御領繪圖之扣可相渡之旨先達 春成贝五左衛門方被差越外之付、 御繪圖役人共

忠守

— 402 —

壹枚、鄉帳御扣之寫壹冊、變地其外被相改候目錄御扣之 評定所は頃日被相納候由、依之淡路守頜分繪圖御扣之寫 使者鹿兄嶋ロ差上候處、御吟味之上清御繪圖御調江戸御

此節於鹿兒鳴御渡被成、慥請取申候、爲後年如件、

元禄十五壬午年十二月十五日

嶋津淡路守内

春成與五左衞門印

正文在文庫

儀奉存り、右之御祝儀爲可申上、 畢、今十五日就吉辰御移徙首尾能相濟候、誠以目出度御

1357

今度諸國繪圖御改付、

日向國繪圖從薩摩守樣御調進被遊

正文在文庫 綱貴公御諸中

正文在文庫 全御譜中 1359

案文在文庫

久明

聞之趣忝令存り、恐惶謹言、

元禄十五年十二月十五日朱沙*

松平讚岐守

松平薩摩守樣

貴報

貴札令拜見外、先頃水戸中將殿前髪被執之昇進付**、** (音至)

被仰

久輝

宇宿傳左衛門殿

伊集院三右衛門殿

記殿

神 宮 寺 外

衛門殿被差越り、依之被示聞趣得其意り、今日御繪圖 其御許御領分繪圖之扣、此節被相渡り:付、春成與五左 御札令拜見り、先以各弥無別條御勤之由珎重存り、然素

郷帳等役人中より相渡り、年來之御用首尾好相濟大悦御 同意外、 餘素與五左衞門殿可被相達り、恐惶

宇宿傳左衛 門樣 元禄十五年十二月十五日朱兆

嶋津(大年)

伊集院三右衞門樣

宮 寺 外

記樣

尚、鴨二羽贈給遠堺入御念儀忝存り、以上、

1361 **仝御譜中**

新宅既成也、同年十二月十五日綱貴移二徙于芝之邸二、 先>是十月十八日芝之第之第燒失、乃擇;;吉日;經;營之;、

1362

全御譜中

正文在文庫

猶、松浦助右衞門差越り節、段、被入御念り被仰付(▽マ)

之由、委細申聞別る忝奉存り、以上、

筆致啓上り、寒氣節御座り得共、各樣弥御堅固被成御

座之由、环重奉存り、然光頃日松浦助右衛門差越申り處、 寫御繪圖御役人方ゟ御渡被成、段〻被入御念忝奉存み、 今度被差上外御繪圖之內、大和守領分繪圖并御帳面等御

則江戸表大和守方は可申聞い、此段爲可得御意如斯御座 恐惶謹言、

- 403 -

川上式部樣

人《御中

新納市正樣

嶋津中務樣 嶋津大藏様

正文在文庫 吉貴公御譜中

就吉辰

奉存り、

披達り、

元錄十五年十二月十六日

松岡八郎右衞門

嶋津中務殿

伊東久 左衞門

山田次郎左衞門

祐秋判

しよこ進し申りてもなをつゐてなから申入り、おか

伊東權左

1364

吉貴公御譜中

正文在文庫 ちかく一のとしの暮めてたさ御しう義ハ御ふた所一

めの方よりも同前:御悦とも申入り様ことの事:御

さり、猶めてたく、めてかしく、

御よろとひのため一筆申入り、おく方ふしん出來申りて

此十八日:奥かた・おミつ・鍋三郎殿するくへと御移り、

めてたさ悦まいらせり、ひさくなりやこ御出きうくつ

其元にても御まんそくの事と、めてたくそんしゅ、かし 成事にてりこ、いつれもきけんよくわたましの事こて、

筆致啓達候、然為高輪御屋鋪御作事御造畢、今十八日

御前樣御移徙首尾能相濟申候、誠以目出度御儀

修理大夫樣御滿悦可被爲思召乍憚奉察り、右

元禄十五年十二月 松平しゆ理の大夫殿

誰でも申給へ陽和院

元禄十五年十二月十八日朱#* 賴入存候、恐、謹言、 **惟**久判 嶋津淡路守

之御祝詞爲可申上、御自分迄如斯御座片、以御序宜預御

1365 古貴公御譜中 正文在文庫

去十五日移徙之由目出思給り、

仍表

1370

1367

今度居宅造營周備、 正文在文庫

綱貴公御譜中

1366

御狀令披見い、 全上 就寒中

公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之片、益御勇健之御儀片間

可御心安り、隨の御肴一種被獻之り、紙面之趣得其意り、 元禄十五年十二月廿三日 #カ# 松平右京大夫

1369

綱貴公御譜中 正文在文庫

恐~謹言、

柳 澤 出

保明判

松平修理大夫殿

1368 全御譜中

今度居宅經營周備、 正文在文庫 去十五日移徙之由珎重思給り、

仍表

祝詞如目録送之り、 元禄十五年大呂廿二烏朱ガキ 尚期後音片、 謹言、

(近衞家熙) (北押 No.4

薩摩中將殿

令伸賀辭如目録贈進之み、

尚期後音い、

謹言、

(近衞家久)

(花押

Na6

今般居住經營周備、

去十五日移徙之事目出度思給り、

爲

元禄十五年歲晚廿二烏朱カタキ

薩摩中將殿

(近衞基三)

(花押

元禄十五年癸臘念二

祝義如目録贈之り、

猶期後音候、

謹言、

阿部豐後守

尾好遂披露吖、

恐々謹言、

元禄十五年十二月廿二日

松平修理大夫殿

御事い間可御心安り、 公方樣御機嫌之御樣躰、 御狀令披見り、就寒中

隨の御肴一種被獻之り、各申談首

以使者被相伺之外、

益御勇健之

薩摩中將殿

Na3

全御譜中

松平薩摩守樣

いこ付、諸事春成與五左衞門方は御指南被遊、首尾能相 重之御儀奉存り、然素淡路守領内繪圖、郷帳等御渡被遊 濟至拙者共りある大悦仕り、 筆致啓上り、貴殿樣愈御勇健被成御座之旨承知仕、珎 此段淡路守方へ可申越り得

元禄十五年十二月廿二日 朱カキ

神 宮寺 共、先爲御請如斯御座৸趣宜預御心得৸、誠恐惶謹言、

伊集院三右衛門 , 純 紅 正 判

宇宿 傳 左 衞 門

参御與力衆中

嶋

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御譜中:有之

1372

正文在文庫

筆啓上仕候、其御地無御別條貴公樣倍御勇健被成御座 可

易尊慮以、然素嶋津淡路守奥平産、殊男子出生之由、 之旨、珎重御儀奉存り、於此方ゑ相替儀無御座り間、

恐敬白、

同意大慶存候、

御機嫌伺旁爲可申上如此御座り、誠惶誠

元禄十五年十二月廿八日

松平修理大夫

中將樣

爲歲暮之祝儀、小袖五重到來歡覺候、

委曲土屋相摸守可

1373

正文在文庫

1371

正文在文庫 全御譜中

述外也、 元禄十五年十二月廿九日

薩摩中將殿

墨綱印吉

- 406 -

種《被入精肝煎共大慶存り、

爲御禮如此外、

恐惶謹言、

元禄十五年極月廿六日 株21

悦存り、其節京都御屋敷伊集院主水下役之衆中被申付、

去廿四日火事出來、愚宅ロ風筋悪敷氣遣仕り處、火靜大

| 「中松時量

肝付主殿樣

人《御中

種子嶋藏人樣

新

納

川

上式部樣 市正樣 嶋津助之丞樣 嶋津中

務様

1374 市太夫久雄譜中久雄者光久公

府上、繇」繁昱年正月二日登 元禄十六年癸未 綱貴公令下久雄爲二年首之使節1赴4江 レ玉城述三年首之賀儀 一、

1375

綱貴公御譜中

正文在文庫

越遂一覽諸事被入御念之段忝大慶存り、爲御禮如此り、 右之扣一通并變地相改り目録一冊御引渡り付め、此表差 人中迄從家來之者申入外處、舊冬御案內:付使者進外處、 筆令啓達り、 日州椎葉山御繪圖扣之儀、 兼の繪圖御役

元禄十六年正月二日 嶋津大藏様

恐惶謹言、

相良遠江守

1377

吉貴公御譜中 正文在文庫

之被差越使者以、紙面之趣各一覽之事以、恐、謹言、 類燒付る、 公方樣益御機嫌能被成御座恐悦旨尤り、將亦當地芝屋敷 御狀令披見り、 同氏薩摩守願之儀相濟難有之由得其意り、

元禄十六年正月七日 松平修理大夫殿

小笠原佐渡守

(花押

依

No.11

-407 -

1376 吉貴公御譜中

正文在文庫

改年之慶事不可有際限以、其方弥無吴可爲越年珎重存り、 尚以爲歲暮之祝儀目録之表進之り、以上、

通進之外、猶期後喜時外、恐、謹言、

爰元一門中別條無之以間可安芳意以、祝詞之印迄目録之

元録十六年 正月三日 松平修理大夫殿

薩摩守

綱貴(花押

No2

御宿所

吉貴公御譜中

正文在文庫

御狀令披見り、 類燒付ゐ、同氏薩摩守願之儀相濟難有由、紙面之趣得其 公方樣益御機嫌能被成御座恐悦旨尤り、將又當地芝屋敷

意外、 元禄十六年正月七日 恐、謹言、

松平右京大夫

松平美濃守

松平修理大夫殿

1380

正文在文庫 **全御譜中**

御狀令披見り、

之趣得其意り、恐く謹言、

元禄十六年正月七日

當六月中國元四御暇可被下之旨被

仰出之、難有由紙面

公方樣益御機嫌能被成御座恐悦旨尤以、將又同氏薩摩守

松平右京大夫

松平美濃守

松平修理大夫殿

1381

正文在文庫 綱貴公御譜中

公方樣益御機嫌能被爲成御重歲、恐悦至極奉存り、 青陽之御吉兆猶以不可有際限御座り、

日之時り、 元禄十六年正月九日 恐惶謹言、 神前御祈禱奉勤修み、

因茲御札進上之仕い、猶萬喜期永

樣御勇健可被成御超年、珎重之御儀奉存り、然素當社於

貴公

多田院

1379

正文在文庫 全御譜中

御狀令披見い、

當六月中國元ロ御暇可被下之旨被 公方樣益御機嫌能被成御座恐悦旨尤り、將亦同氏薩摩守

仰出之、難有之由得

其意候、紙面之通各一覽之事,以、恐、謹言、

元禄十六年正月七日

小笠原佐渡守

松平修理大夫殿

戸村 惣 右 衞 門

九津見吉左衞門

時外、恐惶謹言、

元禄十六年正月十一日

伴

淺 右 衞 門

如何樣御繪圖御役人中迄以使者可得御意片、猶期後音之 日已後請取人可進旨得其意、被入御念外御事:奉存外、 貴札致拜見り、然太當領繪圖扣出來寄申り付、今月廿五 1383

綱貴公御譜中 正文在文庫

1382

正文在文庫

松平薩摩守樣

御近習御中

之御祝儀等可被御寛然珎重存り、爲御悦如斯り、恐惶謹 舊臘光御造作令首尾御移徙被成以由、目出度存以、改春

元禄十六年正月九日 朱兆* 松平薩摩守樣

交野三位

時香

1384

古貴公御譜中

正文在文庫

爲年頭之御祝儀、以使者御太刀一腰·御馬代黄金十兩被

獻之り、首尾好遂披露り、恐く謹言、

元禄十六年正月十一日

秋元 稻葉丹後守 但 香朝 割 育 明

小笠原佐渡守

土屋相摸守

豐 一後 正武判

阿部

鴝 津 大

嶋 津 中 務樣 藏樣

嶋津助之丞樣 市正樣

新

川

上式 納

部樣

種子嶋藏人樣

松平修理大夫殿

綱貴公御譜中

正文在文庫

青陽之御吉兆猶以不可有際限御座り、

御勇健可被成御越年、珎重之御事奉存り、弥當社於 公方樣益御機嫌能被爲成御重歲恐悦至極奉存り、貴公樣

尚期永日い也、

上春十三鳥

(近衞)

薩摩中將とのへ

前御武運長久之御祈禱奉勤修候、 因茲御札進上之仕り

猶萬喜期永日之時候、恐惶謹言、

元禄十六年正月十二日

多田院 尊光判

松平薩摩守樣

御近習御中

1386

正文在文庫 全御譜中

1388 綱貴公御譜中

正文在文庫

費札致拜見り、

舊冬爰許大地震り得共、

面之趣承知仕み、 一位樣益御機嫌能被成御座目出度思召外旨被入御念御紙(#=\$\$) 恐惶謹言、

元禄十六年正月十五日

松平薩摩守樣

正文在文庫

1389

綱貴公御譜中

い、猶期永春い也、

元禄十六年孟春十三烏

(丘衛基架 (北押

No.3

薩摩中將殿

爰許同前以、仍目錄之通被贈與、

連年懇情之至祝着不少

爲改年之賀義芳墨落手、先以其邊滋勇猛越年珎重思給り、

喜之節み、恐く謹言、 改年之御慶珎重り、 仍昨日素御出欣然之至存り、

猶期後

1387

正文在文庫

爲肇年之賀儀手翰披閱、

愈無事超歲之由珎重思給候、當

地同前こり、仍目錄之通惠賜之、每、懇情之趣令滿足り、

-410-

秋元但馬守

謹言、

薩摩中將殿 御宿所

樣愈御健達之旨珎重奉存り、然素石尾阿波守儀今度當地(氏質)

公方樣益御機嫌克被成御座恐悦至極奉存り、將又御手前

海鼠一箱被懸貴意忝次第奉存り、猶期後音之時候、

は下着、依之御使者被指越い、

爲御見廻琉球八重山鳴然

一封掌握、如來教舊冬當地火災候之處、此□雖程不遠無 ★▽\ミワク)

1390

正文在文庫 綱貴公御譜中

恙大慶如賢察り、早以懇書之趣不淺思給り、餘不能一二

(近衞家院)

元録十六年初春十八烏朱カキ

1393

正文在文庫

元禄十六年正月廿日

別所播磨守

薩摩守樣 尊報

草罷立外以後御書中彼地に相達い付、 月十三日、十四日之比手代之者可差出之由被仰下り、 被入御念い義忝奉存い、旁爲可申述如此御座い、 向:附置い手代之者差越申い間、 重奉存り、然光日向支配所繪圖之扣御渡可被成り間、 去ル十一月廿三日之貴札相達致拜見り、 繪圖扣御渡可被下み、 御報致延引り、 弥御堅固之旨珎 恐惶謹

天紀 極

正文在文庫 綱貴公御譜中

元禄十六年正月十六日 ###

1392

去十一日之尊札拜見仕候、

-411 -

日

薩摩中將殿

1391

全

芳牒披閲、

如示誨舊臘當地火難、

併此邊無恙歡抃外、

御

(近衞家久)

元禄十六年瑞月十八鳥

丁寧之趣令滿足り、謹言、

薩摩中將殿

(花押 Na6

言

正文在文庫

如來書舊臘廿四日之夜當地回禄之節、宅邊無恙欣然此事

Ŋ 元禄十六年初春念一 **懇情之紙面滿足不斜り、穴賢、こ、**

薩摩中將殿

1396

正文在文庫 全御譜中

愚老依移徙新宅り爲嘉儀遠境態預使札、且如目錄被贈與、

無吴事り、餘期後音不能詳り、 誠親昵之模樣祝着不斜り、其許滋勇健之由承悦り、

元禄十六年初陽廿三烏朱カメキ

(近衛基配) (花押

№3

謹言、

薩摩中將殿

1397

正文在文庫 全御譜中

い付、被仰下い御紙面、 十一月十八日田町御屋鋪并御添屋敷類燒之節御見廻申上 尊札拜見仕り、 弥御勇健被成御在國珎重奉存り、 御慇懃御事奉存り、 恐惶謹言、 然素去

息居播磨守

元禄十六年正月廿五日

-412-

松平修理大夫

竹村惣左衞門 | (嘉 躬) | ンレス

大慶仕り、

猶奉期後喜時外、

誠惶誠恐敬白

進上

中將樣

正月廿二日

嶋津中務様

新納市正樣

元禄十六年正月廿一日 朱カキ 嶋津大藏様

川上式部様

御報

(近衛基際)

№3

1395 此御書吉貴公御譜中いを止り

正文在文庫

綱貴公御譜中

筆啓上仕み、

弥御勇健被成御座之旨珎重奉存り、

然去

芝御屋敷御作事御造畢、 幾久目出度奉存み、

代

仕り、

將亦高輪屋敷儀養作事出來、同十八日致移徙片由

御祝儀爲可申上目錄之通進上之 舊臘十五日被遊御移徙以由承知

全御譜中

松平修理大夫殿

回章

1399

古貴公御譜中

元禄十六年仲春二烏朱カタキ

薩摩侍從殿

之所親切之至祝着不斜り、 愚老就移徙新宅外爲嘉義使札并如目錄惠貺之、誠以遼遠 萬般期後音不能多方片、穴賢

1402

綱貴公御譜中

正文在文庫

(近衛基熙)

(花押

<u>№</u>3

守領分扣繪圖御渡之可被成之由、先頃任被仰下卟此度御

筆致啓上り、各様弥可爲御堅固珎重奉存り、

然素壹岐

繪圖方御役人中迄以使者得御意片、可然之樣被仰渡可被

元禄十六年二月十一日

下水、

恐惶謹言、

於此方及無吳事以間可易芳慮以、將又鳴津淡路守室平産、 舊臘廿八日之芳翰令披見り、其方弥無恙之由珎重存り、 男子出生付あ示給旁被入念い趣令怡悦い、 元禄十六年正月廿六日 正文在文庫 全御譜中 此御書吉貴公御譜中ニモ在リ

1398

薩摩守樣

尊報

薩摩守

綱貴御判

恐く謹言、

趣欣悦不少り、餘期後音り、

穴賢くく、

依被大殿移徙被伸賀儀華翰落手、且如目錄贈與之丁寧之

元禄十六年 令月初三

(近衛家久)

No.6

(花押

薩摩侍從殿

伴 淺 沒右 衞 門 悃誠之事不淺令滿足い、尚期後音い、 堀川新造經營依前殿下移徙被投祝冊、 穴賢くく、 且目錄之通惠賜'

元禄十六年如月初三

(近衛家熙 (花押 No.4

薩摩侍從殿

1401

吉貴公御譜中

全御語中 張紙ニテ片書

此度以使者得御意片、可然之樣賴入存片、恐惶謹言、 領分扣繪圖御渡可被成以由、先頃從御家老中被仰下以付、

1406

全上

筆致啓上り、貴樣弥可爲御堅固珎重存り、然素壹岐守

写ヲ以写之と草案ニ有之

元禄十六年二月十一日

伴

嶋津主計様

戸村惣右衛門

九津見吉左衛門 淺右衞門

尚期後音り、

謹言、

元禄十六年令月十二鳥

(花押

No.6

薩摩中將殿

今度前關白被辭退當職之事相聞、被伸祝詞之趣令承悦的、

九津見吉左衞門

戸村惣 右 - 愛忠判

川上式 部樣

1405

正文在文庫 綱貴公御譜中

尚期後音い、謹言、

元禄十六年春半十二鳥

(花押

No.4

薩摩中將殿

今般前關白被辭退當職之事相聞、被伸賀儀之趣令怡悦り、

新

納

市

正樣

嶋津助之丞樣

嶋 嶋

津 津

大 中

藏樣 務樣

種子嶋藏人樣 人
る
御
中

元禄十六年仲春十二鳥

(北押

No3

薩摩中將殿

被贈與之、誠深切之趣祝着不少り、猶期後信り、

謹言、

今度關白辭退之事蒙

製許り、因茲爲嘉義芳翰且如目録

--- 414 ---

1404

正文在又庫 全御譜中

全上

贈與、彼是不堪歡悦之至り事り、 警冬新宅移徙之節聊表賀儀 4處、

期後音い、

謹言、

(近衛家久)

(花押

Na6

謝辭之趣且目録之通被

元禄十六年如月十二鳥

薩摩中將殿

謹言 之通被惠寄之、彼是丁寧之趣滿足不斜り、餘事期後音り、 舊臘其邊移徙之節聊表祝義い之處、被伸謝辭芳翰且目録

元禄十六年仲春十二烏柴カキ

薩摩中將殿

(近衛基熙)

座り故不及御書り、此旨自私方各迄可申述之由所

御狀之趣被入御念い儀御滿悦被思召い、 舊臘當地御屋敷迄就歲暮之御祝儀被仰入り、

右御禮計之儀御 從

中將樣

大納言殿仰如斯阝也、

恐惶謹言、

進藤刑部大輔

(花押 Na3

1411

元禄十六年二月十二日 喜入安房殿

嶋津勘解由殿

吉貴公御譜中

尤候、 公方樣益御機嫌能被成御座、年始御規式可相濟と恐悦旨 御狀令披見り、如承青陽之慶賀珎重り、 正文在文庫

先以

露候、 恐、謹言、

随の以使者御肴一種被獻之り、各申談首尾好遂披

元禄十六年二月十二日朱カンキ

松平修理大夫殿

秋元但馬守

1412

仝御譜中

-415-

1407

全

1410

全

全上

1408

元禄十六年仲春十二鳥

去冬新宅移徙之節聊表祝儀外處、謝辭之趣且如目録惠賜

彼是鄭重之程令感悦片、餘期後信り、謹言、

薩摩中將殿

Na4

(近衛家熙) (花押

綱貴公御譜中 正文在文庫

今度諸國繪圖御改こ付、

日向國繪圖從

薩摩守樣御調進

先年以使 江戸御評

御狀令披見り、如承青陽之慶賀珎重り、先以 旨尤み、 公方樣益御機嫌能被成御座、 元録十六年二月十二日 紙面之趣得其意候、 年始之御規式可相濟と恐悦 恐、謹言、

松平右京大夫

松平美濃守

松平修理大夫殿

綱貴公御譜巾

案文在文庫

岐守樣御領分御繪圖之扣可相渡旨家老共より御案内申遣 御札致拜見り、各樣弥御堅固御務之由珎重存り、

然光壹

い間、此度吉村傳七殿被差越い、依之被示聞趣入御念儀

御繪圖并郷帳等之扣役人共ゟ首尾好相渡り、

委

曲傳七殿相達り故不能詳り、 恐惶、 御座り、

二月十六日

嶋津主計

戸村惣右衛 九津見吉左衞門樣 門樣

淺 右 衞 門樣 御報

伴

此節於庭兒嶋御渡被成慥請取申り、

爲後年如件、

元禄十六炎未年二月十六日

枚、郷帳御扣之寫壹冊、變地其外被相改り目錄御扣之寫

定所に去年被相納り由、

依之壹岐守領分繪圖御扣之寫壹

者鹿兒嶋に指出い處、御吟味之上清繪圖御調、 被遊り付、臼杵郡之内壹岐守領内下繪圖相調、

1415 全御譜中

歲暮之御内書可相渡候間、 正文在文庫

明日五半時

御城は家來可被

吉村傅七角

三浦壹岐守内

松平薩摩守樣御内

差出り、 以上、 1414

— 416 —

本城

源

四

郎殿

藤野休左衞門殿

吉貴公御譜中

元禄十六年二月十七日

土屋相摸守

松平薩摩守殿

1416

就紀伊中將方昇進被 正文在文庫

仰出い預芳翰、

遠境被入御念之段

欣然之至存み、恐く謹言、

元録十六年二月十七日 松平薩摩守殿

水戸中將

御報

菊池源左衞門 武□判 で信)

1418

全上

樣御領分扣繪圖相渡可申以間、 御札令拜見り、各樣弥御堅固之由珎重存り、然素壹岐守 案文在文庫

頃申達い付、此度御請之人被差越い、依之御繪圖役人共

御請取之人可被差越旨先

は申付、其御領御繪圖扣等相渡申り、

委曲御使者可爲演

説い間不能詳り、 元禄十六年未二月十七日朱尹 恐惶、

久時

久重

久珍

忠守 久輝

Ш 新 嶋津助之丞樣 上式部樣

納市正樣

種子嶋藏人樣

戸村惣右衛門樣

-417 -

綱貴公御譜中

1417

正文在文庫

禮、先頃從遠江守以飛札被申入り、依之被仰下り御紙面 貴翰致拜見い、日州椎葉山御繪圖之扣等御渡被成り爲御

之趣被入御念儀奉存り、恐惶謹言、 元禄十六年二月十七日

嶋 津中 務樣

嶋津大 藏樣

久明

正文在文庫

九津見吉左衞門樣

淺 右 衞 門樣

二香合可被試外、猶属使者口上り、穴賢、、、 固い、此邊無恙い、仍御太刀一腰・馬壹疋并調合之薫物 任嘉例城中改年之御祝儀令申入り序啓一翰り、弥可爲堅

元禄十六年仲春念七

(花押 Na3)

薩摩中將殿

綱貴公御譜中

明朔日例月之御禮無之い間、不及登 城い、以上、

稻葉丹後守

秋元但馬守

小笠原佐渡守

土屋相摸守

阿部豐後守

-- 418 --

正文在文庫

1420

元禄十六年二月晦日

松平薩摩守殿

正文在文庫 綱貴公御譜中

元禄十六年三月四日

伴

淺

右

良綿門

申述如斯御座り、

儀前《御心入故首尾好相納、 圖并鄉帳之扣御渡、

筆致啓上い、 弥御堅固之旨珎重存り、 然考 壹岐守領分

扣繪圖御渡可被成付、爲受取吉村傳七郎差越申৸處、 入 御念候御事奉存み、 右本繪圖之

共委細致承知、壹岐守爲申聞い處忝被存い、 恐惶謹言 殊更此度傳七儀種、御馳走 右御禮爲可

(表紙) 録 追 吉 綱 舊 貴 貴 記 公 公 雜 元禄十六年 録 至十二月 巻三十二 三月

1422

綱貴公御譜中 正文在文庫

今度諸國繪圖御改付、 日向國繪圖從薩摩守樣御調進被遊(編 貴)

候付、 之寫三枚、郷帳御扣之寫壹冊、 江戸御評定所に去年被相納い由、 被相調、 扣之寫、此節於鹿兒嶋御渡被成慥請取申り、爲後年如件 御料所宮崎表之下繪圖先年山木與惣左衞門様より 鹿兒嶋は被指出い處、御吟味之上清繪圖御調、 變地其外被相改以目錄御 依之右御料所繪圖御扣

竹村惣左衞門代

元禄十六癸未年三月六日

富澤庄左衞門回

松平薩摩守樣御内 藤野休左衞門殿 本城源四郎殿

九津見吉左衞門

戸村

惣 右

愛忠 割

嶋津主計樣 (5年)

人《御中

-419 -

正文在文庫

重奉存り、然素今度國繪圖之儀こ付あ、 筆致啓上候、 貴殿樣愈御堅固被成御座之由承知仕、 萬端御懇意之御

珎

Ŋ 指南を以繪圖等出來、 先此等之段爲可申上如此御座り趣、 右式則淡路守方へ申越い、尤至拙者共奏珎重奉存(島神雅久) 首尾能相納り申り由この、 宜預御心得候, 兩使罷

誠恐惶謹言!

元禄十六年三月九日

神 宮 寺 純 純 正記 判

町田彌次右衞門

伊集院三右衞門

主計樣 参御與力衆中

嶋

仝御譜中 此御書吉貴公御譜中ニモ在リ

1424

正文在文庫

猶奉期後音時候、 儀爲參勤今日鹿兒嶋發足仕4、此段爲可申上如是御座4. 筆啓上仕候、 弥御勇健可被成御座珎重奉存り、 誠惶誠恐敬白 然老私

元禄十六年三月十一日

中將樣

松平修理大夫

吉貴公御譜中

1425

也 訴」之、因蒙言恩免 | 有言 告責六月中參府之 命 | 也 家老嶋津助之丞忠同年冬芝第亦焼失、依 」之経營未 」終、是故繝貴奉レ 十四日至、伏見、同廿六日發、伏見、五月十日參府、 豐州大裏驛」、同月八日開二舩於大裏「、著二舩長州下關」、 脇元Ⅰ、同二十八日發↘脇元、經□九州之驛Ⅰ四月六日至□ 國天草中軍浦二、雖、然海濤不順而同二十六日歸、舩又至三 守、用人赤松次郎右衞門則春・堀四郎右衞門興昌等扈從 大樹綱吉公1、幣物獻品同三于先規1、家老忠守亦從5先蹤 五日吉貴登 自>是又致>陸經||過中國|而同二十二日著>大坂、 元禄十六年未三月十一日吉貴發」國難以為下例年以,三月,參府之 取>陸而至三薩州脇元一、同月廿三日開>舩著三舩肥前(阿久根) ↘營"以□參覲之事 1奉 >見□ 同一

將軍家 奉レ謁ニ

也

1426 吉貴公御譜巾

公方樣益御機嫌能被成御座、

正月廿日東叡山

御堂御參

之、恐悦旨尤り、紙面之通各申談及言上り、恐く謹言、

1428

御狀令披見り、

正文在文庫

吉貴公御譜中

松平修理大夫殿

1427

全上

公方樣益御機嫌能被成御座、年始御規式相濟候段被承之、 御狀令披見り、

恐悦旨尤り、紙面之趣得其意候、恐ゝ謹言、 (彰) 三月十四日 (彰) 松平右京大夫 松平右京大夫

松平美濃守

松平修理大夫殿

1430 吉貴公御譜中

正文在文庫

御狀令披見叶、

公方樣益御機嫌能被成御座、

公方樣益御機嫌能被成御座、年始御規式相濟外之段被承 御狀令披見り、

恐、謹言、

元禄十六年三月十九日

土屋相摸守

松平修理大夫殿

詣之儀被承之、恐悦旨尤り、

紙面之通各申談及言上り、

正文在文庫

之、恐悦旨尤い、紙面之趣各申談及 高聞い、恐、謹言、

土屋相換守

元禄十六年三月十四日 朱沙*

松平修理大夫殿(吉 貴)

1429 全上

御狀令披見り、

之儀被承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意り、恐、謹言、 公方樣益御機嫌能被成御座、正月廿日東叡山御堂御參詣

松平右京大夫

元禄十六年三月十九日

松平美濃守

先頃山王 御社參之儀被承 **-- 421 --**

全上

土屋相摸守

松平修理大夫殿

元録十六年三月廿二日 松平修理大夫殿

御狀令披見り、

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃山王

御社參之儀被承

之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意候、恐、謹言、 元禄十六年|三月廿二|日#カキ 松平右京大夫

松平美濃守

松平修理大夫殿

1432

1431

1433

御狀令披見り、 公方樣益御機嫌能被成御座、正月廿四日增上寺 全上

元禄十六年三月廿七日

> 謹言、

御参詣之儀被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣得其意い、

御佛殿 恐

松平美濃守

松平右京大夫

松平修理大夫殿

1434

明廿八日例月之御禮無之候間、 綱貴公御譜中 正文在文庫

不及登

城叶、以上、

御佛殿

元禄十六年三月廿七日

秋元但馬守 稻葉丹後守

土屋 小笠原佐渡守(長)重) 屋相摸守

阿部豐後守(正或)

- 422 -

御參詣之儀被承之、恐悦旨尤り、紙面之趣各申談及言上

公方樣益御機嫌能被成御座、正月廿四日増上寺

御狀令披見り、

正文在文庫 吉貴公御譜中

り、恐く謹言、

元禄十六年三月廿七日

土屋相摸守

御狀令披見り、 全 1436

1435

綱貴公御子

松平薩摩守殿

於剛 桂太七郎久音室

元禄十六年癸未三月廿七日誕生于武州芝第、 母江田國

法名廉貞良質

重女、

享保六年辛丑十二月二十二日卒、

古貴公御譜中

先頃護持院被爲 成い儀被

公方樣益御機嫌能被成御座、

御狀令披見り、

正文在文庫

承之、恐悦旨尤候、紙面之趣各申談及 高聞候、 恐く謹

土屋相摸守

松平修理大夫殿

元禄十六年三月廿九日

1439

正文在文庫 吉貴公御譜中

御狀令披見り、

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃松平美濃守亭被爲(賴忠喜保)

成

承之、恐悦旨尤り、 元禄十六年||1月廿九日 紙面之趣得其意り、

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃護持院被爲

松平右京大夫

恐く謹言、

成い儀被

松平修理大夫殿

松平美濃守

1438

綱貴公御譜中

正文在文庫

御香具品、并御肴一種被獻之卟、

首尾能遂披露吖、

恐く

謹言、

元禄十六年四月十日

正武判

阿部豐後守正武

ď

松平薩摩守殿

1440

全

御狀令披見り、

元禄十六年四月十九日

恐く謹言、

い儀被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣各申談及

上聞り、

元禄十六年四月廿二日

阿部豐後守

松平修理大夫殿

阿部豐後守

松平修理大夫殿

1442 全上

御狀令披見り、

儀被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣得其意い、恐く謹言、

元錄十六年四月廿二日

被承之、恐悦旨尤候、紙面之趣得其意り、恐ゝ謹言、

元禄十六年四月十九日

松平右京大夫

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃美濃守亭被爲

成り儀

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃右京大夫亭被爲

成り

松平右京大夫

松平美 濃守

松平修理大夫殿

1443

松平修理大夫殿

松

松平美 濃守

吉貴公御譜中

正文在文庫

公方樣益御機嫌能被成御座、 御狀令披見い、

先頃牧野備後守亭被爲(成 点)

成

高聽候

恐く謹言、

高聞り、

元禄十六年四月廿七日

恐く謹言、

成り儀被承之、恐悦旨尤候、紙面之趣各申談及

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃松平右京大夫亭被爲

御狀令披見り、

正文在文庫 吉貴公御譜中

阿部豐後守

正武判

> 謹言、

元禄十六年四月廿九日

阿部豐後守正武判

松平修理大夫殿

儀被承之、恐悦旨尤い、紙面之趣各申談及

上聞り、

恐

公方樣益御機嫌能被成御座、

先頃日光御門跡被爲

成り

御狀令披見り、

正文在文庫 吉貴公御譜中

1445

1444

全上

り儀被承之、恐悦旨尤候、紙面之趣得其意り、恐<謹言、 公方樣益御機嫌能被成御座、先頃牧野備後守亭被爲 御狀令披見り、

成

元禄十六年四月廿九日

松平右京大夫

儀被承、恐悦旨尤候、紙面之趣得其意り、

恐ҳ謹言、

成り

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃日光御門跡被爲

元録十六年四月廿七日

松平右京大夫

平 吉保判- 美濃守

松

松平修理大夫殿

松平

美

吉保判

1447 吉貴公御譜中

松平修理大夫殿

御狀令披見い、 公方樣益御機嫌能被成御座、先頃護國寺被爲 正文在文庫

元禄十六年五月二日

承之、恐悦旨尤候、紙面之趣各申談及言上り、恐、謹言、

成い儀被

稻葉丹後守

松平修理大夫殿

1448 御狀令披見 4

全上

公方樣益御機嫌能被成御座、 先頃護國寺被爲 成り儀被

松平修理大夫殿

1446

御狀令披見り、 <u>소</u>

-- 425 --

元録十六年五月三日

墨綱印吉

薩摩

中將殿

渡守可述り也、 爲端午之祝儀、 1449

綱貴公御譜中

正文在文庫

帷子單物數十到來欣覺候、

委曲小笠原佐

元禄十六年五月二日 松平修理大夫殿

承之、恐悦旨尤候、紙面之趣得其意り、 松平右京大夫

恐~謹言、

五月七日

稻葉丹後守 正通判

松平修理大夫殿

吉保判- 美濃守

松 平

1451 全上

御狀令披見い、

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃觀音堂

御參詣之儀被

元禄十六年五月七日

承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意候、恐く謹言、

松平右京大夫

松 平 吉保判- 美濃守

松平修理大夫殿

1452

吉貴公御譜中

正文在文庫

御狀令披見い、

1450

古貴公御譜中

正文在文庫

御狀令披見吖、

詣、同廿六日聖堂被爲 通紙面之趣各申談及 公方樣益御機嫌能被成御座、先月廿日東叡山御堂

成以儀被承之、恐悦旨尤以、 恐く謹言,

御參 兩

元禄十六年五月九日

营

承之、恐悦旨尤い、

紙面之趣各申談及

高聞い、

恐く護

御參詣之儀被

公方樣益御機嫌能被成御座、先頃觀音堂

上聞い、

稻葉丹後守 正通判

全上

公方樣益御機嫌能被成御座、去月廿日東叡山御堂 御狀令披見り、

詣、同廿六 日聖堂被爲 通紙面之趣得其意り、恐々謹言、 成片儀被承之、恐悦旨尤候、兩

元禄十六年五月九日

松平右京大夫

松平美濃守

松平修理大夫殿

1455 其方家來嶋津助之丞、明廿八日五半時 (忠 守) 綱貴公御譜中

4、以上、

御參

元禄十六年五月廿七日

秋元但馬

守

稻

葉丹後守

御城に可被差出

小笠原佐渡守

土屋相摸守

松平薩摩守殿

1456

綱貴公御譜中

元禄十六年癸未五月晦日、以二 上使秋元但馬守喬朝二、

賜:|綱貴歸ゝ國之暇 |、恩賜品同:|先規 |、其後登

レ營奉レ

謝」之、辱賜:御馬一匹」、

1457 全上

正文在文庫

土屋

相摸守 一後守

阿部

豐

筆致啓達り、 然素鍋安樣御事、去ル朔日御早世被成之(編賞<)男)

旨承知仕、奉絶言語り、 中將樣御儀被爲聞召、 御機嫌

— 427 —

松平修理大夫殿

松平修理大夫殿

1454

吉貴公御譜中

正文在文庫

明十五日五半時登

城參府之御禮可被申上以、以上、

稻

葉丹後

秋元但

馬 守 守

小笠原佐渡守

元禄十六年五月十四日

以御序宜預御披達り、賴入存り、恐く謹言、 之程奉推察外、右之御悔爲可申上、御自分迄如斯御座外、 元禄十六年六月六日朱为半 喜入安房殿 嶋津淡路守 惟久判

此書中鍋安丸ハ元祿十二年十月十一日誕生、母二階堂源右衛門行格入道宗見 女、十六年六月朔日僊化、年五歳トアリ、公ノ八男ナリ

1458

綱貴公御譜中

正文在文庫

入御念候御紙上之趣過分至極奉存り、右之御禮爲可申上 以御序宜預御披達候、賴入存み、

御自分迄如斯御座み、

おます致死去り付、

爲御悔從

中將樣被成下御書、被爲

1461

恐く謹言、

喜入安房殿 嶋津淡路守

元禄十六年六月十日

詳り、以上、

り様こと薩摩守・修理大夫へ被仰聞可被下り、御報不能 知仕り、拙者も別の大慶存り間、いよく右之通:相究 修理大夫へ申達、子分:仕い様こと相究い由被仰聞、承

元禄十五年六月十八日朱カキ(六)

小一彦大夫樣(小笠原長住)

被獻之外、首尾能遂披露り、 恐く謹言、

元禄十六年六月十四 В

長重判

ď

松平薩摩守殿

小笠原佐渡守

1460

吉貴公御譜中

癸未夏、立二鍋三郎丸一爲三吉貴之嫡嗣二、詳見三于左二、(高津籌) 先」是中將綱貴相,議松平越中守定重二、今歲元禄十六年

御手紙之趣一く致承知り、然素修理大夫子ともヲ奥方子

松

越中守

尚くなともへも委細申聞い、 以上、

— 428 —

1459

仝御譜中

正文在文庫

琉球布十巻并砂糖漬天門冬一器・泡盛酒二壺・御肴一種

綱貴公御譜中

1463

刀・銀馬代・時服1、奉>謁1:于 謝ニ歸ゝ州之辱」、幣物進獻如ニ先規一、久昌亦獻三上御太 路|八月四日入||麑城|、乃奔||島津新八久昌於東都|奉」 六日發、舩同二十日著三舩豐州小倉1、 取、陸經1九州之驛 扈從、同月二十七日到||著伏見| 、七月二日下||大坂|、同 安房久亮、用人野村太左衞門廣貞・平田九郎右衞門純音 先是賜;告於綱貴;、同年六月十八日發;江戸;、家老喜入

将軍家二、且以三時服三領・道服 一領1賜二于久昌1、

全御譜中

以上

正文在文庫

ケ所、 得其意い、 薩摩國鹿兒嶋城下從居所南之方堀貳箇所、 東北之間堀壹箇所埋い付の浚度由、 如元後い様可被申付い、 恐く護言 繪圖書付之通 南東之門堀壹

稻 小笠原佐渡守 葉 丹

元禄十六末 六月廿一日

秋 元 但 喬 朝 守 正通判

こあ

御座り、

家中并家中之者共口及右之廣メ被致い

ハ、祝儀等之取替ゑ仕儀こ御座り、

左様いへ素沙汰

1464

松平薩摩守殿

正文在文庫 吉貴公御諡巾 未ノ六月廿二日朝小笠原佐渡守殿に相越、

誰ゑ無御座、鍋三郎殿御事御物語申い趣去

於御居間

薩摩守殿發足之刻相究リ申い、右妾:女子及壹人在之 被致養子り、勿論修理大夫殿本妻ゑ同心この御座り付、 薩摩守殿に相談こあ、右之妾之御息ヲ修理大夫殿與方 松平修理大夫殿妾:三歲之男子御座片、 夫殿血忌之御屆ケハ被申上り、尤本妻:此以後男子出 有之い得共、于今子壹人ゑ無御座り、依之越中守殿ゟ 中守殿息女この御座り、婚禮老最早八九年以前この可 是も同意:被致養子り、 最前兩人出生之刻修理大 本妻素松平越

土 屋 相 政 道 判

豐 正後 武守

归

部

生仕りハヽ嫡子こ相立、此度之養子素次男こ仕ル申合

賴置被申り由申上りへハ、佐渡守殿御挨拶: 考一段之 父子被存り付、 有御座り、 沒有之時分修理大夫殿嫡子只今出生之樣:取沙汰沒可 左いる
素何様之
首尾と可被思召と
薩摩守殿 拙者:右之趣御物語申置くれり様こと

儀り、越中守殿并修理殿御奥方御同心この右之通御究

仕り由この入御披見りへハ、御覽珎重成義こり、御列座 御返答申り い由この、 い得去、 に

表序を

以御物語可被成

が間、 無殘所儀こりと被仰り付、 御請取置一段之義と御快御挨拶こあいこ付 薩摩守殿父子へ申聞いハ、太慶:可被 此書付ハ爲御覺御留置 拙者覺之ため書付

佐渡守殿に進置い書付之扣

存り由申達り

共 中勿論其通:御座り、 相定申り、依之一家中廣メ申談祝儀之取替シも仕、家 摩守相談:あ、本妻:子壹人ゑ無之:付、養子:此度 松平修理大夫妾:三歲之男子御座り、 く之者素聢と不存程:あ御座り、 嫡子之廣メ被致い間、 急度申上ル儀この老無御座りへ 沙汰及可有御座と薩摩守父 然處松平越中守同薩 一家中家中之末

六月廿二日

右之通之樣子:御座り間、 左様御心得可被遊り、 小笠原彦大夫

爲御覺書付致進上片、以上、

修理大夫樣

小笠原彦大夫

松

1465

全上

正文在文庫

成り、六太夫方へ口上具:素申上り、以上、 御父子様へ宜様:申りへと被仰聞り、 **り趣去、** 目申いへ考、一段珎重成義:被思召い、被入御念被仰聞 御次あヲ以御連座之御方へも御物語可被成り、 左様:御心得可被

元禄十六年六月廿二日

修理大夫樣

小笠原彦太夫

松

全上

1466

正文在文庫

御座り付申上り、以上、

子被存外付、

拙者:輕ク御物語仕くれい様ことの義こ

端午之。御内書可相渡い間、明日五半時御城に可罷出い、

-- 430 --

口上覺

内へ御賴被成り義、佐渡守殿具ニ御物語仕、

書付ゑ懸御

元禄十六年

以上、

元禄十六年六月廿六日

松平薩摩守殿

正文在文庫 綱貴公御譜中 留守居

1467

返く一土用明りへ共、ことの外なるあつさこて、さ そ道中暑く御さりいんとそんしり、なを跡より申り へくり、又々かしく、

たひこてりへとも、さハりもなく御通り之よしうけ給 使まいりりよし承りまゝ、一筆申入り、中途よりもさい くた右御座りて、弥機けんともよく、又之進殿こい初

さり箸よし、勘解由・助之丞こあうけ給、一段の事こそ(島津久常) (島津忠守) **敷 () よろこひまいらせい、扨ハおミつ・鍋三郎殿事内** んしゅ、御悦のため申入り、めてたくかしく への通:首尾よくす!まいらせ、一もん中へもひろめ御

松平さつま守殿、四

1468

綱貴公御譜中

正文在文庫

猶く萬く目出度奉存り、以上、

い間道中無<沈氣が、奉察入い、御舩中ハ涼しく可有御 固:御國元へ御着可被成と目出度奉存り、暑氣甚~御座 筆致啓上り、 御發駕以後段く天氣能、海陸ともこ御堅

座と奉存り、御當地御立被成り節ハ御使者被下成、過分

仕い、先可申上と修理大夫殿御機嫌能御座被成、目出度 奉存り、もはや御立被成り旨御使者被申故、御返事延引 公様こも嘸~御恐悦と奉察りあ目出珎重不過之奉存り、 奉存り、鍋三郎殿御事御嫡子之御披露御首尾能相濟、

猶期後慶時い、 恐惶謹言、

元禄十六年七月四日

向井空参(正興)

薩州様 参人、御中

1469 正文在文庫

以別紙申上候、 能、拙者ゟ御禮相心得り樣こと被仰り、殊之外之御悦之 御申出先比御國元之三種被遺、御心入之至御滿足被成外、 去ル朔日水戸様へ參上仕り處、あなたん(編修)

筆致啓上り、 正文在文庫

矮暑甚御座り得共、弥御堅達可被成御座

元禄十六年五日

薩州樣

空參

元禄十六年七月十一日

松平越中守

松平薩摩守樣

御報

旨、段く被仰聞いキ、以上、

綱貴公御譜中

事、御嫡子之御願首尾克相濟、 以愚札如此御座片、恐惶謹言、 と珎重奉存み、 然素御同氏修理大夫殿御息樣鍋三郎殿御 目出度奉存い、右爲御悦

奉存り、恐惶謹言、

元禄十六年七月十二日

松平因幡守

松平薩摩守樣

御報

儀目録之通致進覽之外、

御禮被仰下被入御念御慇懃之至

京極對馬守

元禄十六年七月十日

松平薩州樣

参人、御中

1472

<u>소</u>上

貴札致拜見り、先頃おミつ殿・鍋三郎殿御弘付、爲御祝 全

綱貴公御譜中

儀目録之通進上之仕り、 貴札拜見仕み、 正文在文庫 おミつ殿・鍋三郎殿御弘相濟り、爲御祝

元禄十六年七月十二日

御禮被仰下御慇懃之至奉存候、

1473

松平三郎助

1471 正文在文庫

御札致拜見候、おミつ殿・鍋三郎殿御弘相濟り、

爲御祝

儀以使者目録之通致進覽り、御禮被仰聞御慇懃之至存り、

恐惶謹言、

綱貴公御譜中

恐惶謹言、

— 432 —

秋

元 但

香朝 利

1475

綱貴公御譜中

正文在文庫

獻之り、首尾能遂披露候、

恐く謹言、

稻

品葉 丹 後 守

元禄十六年八月三日

爲八朔之御祝儀、以使者御太刀一腰・御馬代黄金十兩被

薩摩守樣

松

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御譜中二茂有之

1474

筆啓上仕候、先以海陸御機嫌能可被遊御歸國目出度奉 正文在文庫

存り、御祝儀爲可申上以使目録之通進上之仕り、

御當地一門中相替儀無御座、 私事及無吴罷在以間、 尊意

安可被思食い、猶奉期後喜之時い、誠惶誠恐敬白、

松平修理大夫

元禄十六年七月廿一日

中將樣

謹言、

元禄十六年八月三日 朱カメキ

薩摩守樣 御報人《御中

正文在文庫

1477

綱貴公御譜中

此御書古貴公御譜中三茂在り

然老先月十九日御舩中於門司關、俄致大風以由驚存申以、 筆啓上仕候、 弥御勇健頃日可被遊御歸國珎重奉存り、 1476

全

正文在文庫

將亦於

松平薩摩守殿

小笠原佐渡守

屋 一相 摸 守

土

部 豐 正武判

阿

— 433 ·

仕旨奉得其意り、依之被示下被入御念御儀奉存候、恐惶 御用被仰付り、若於大坂ゑ御用之儀共御座り去、相談可 尊書拜見仕候、御家來今井八右衞門事京都御差置被成外、 大田和泉守

雖然何そ御別條無御座り旨承知仕、目出度御儀奉存り、 此段爲可申上如斯御座候、 元禄十六年八月六日 進上中將樣 誠惶誠恐敬白、

松平修理大夫

1480

元録十六年八月六日

1478

正文在文庫 全御譜中

此御書吉貴公御譜中"在リ

侍從吉貴御判

謹上 琉球國司

爲今年之住事、芳札殊目錄之通被相贈、入念り段忻然之

至り、猶期後音時り、恐く不宣、

侍從吉貴御判

1479

吉貴公御譜中

芳翰令披見り、去冬於江戸出火之節、芝屋鋪其外兩所屋

鋪及餘煙不意之事り、依之使札被差越、殊目録之通贈給

爲今年之佳事、芳札殊目録之通被相餼、入念之段忻然之 至外、猶期後音時外、恐く不宣、

1482

之、入念り儀過量之至り、恐惶不宣;

元禄十六年八月六日

侍從吉貴

(島津吉貴)

No.1

謹上 琉球國司

爲肇歲之嘉儀被差渡使簡、殊目録之表贈給之、入念外段 令怡悦み、 猶期後音時ル、 恐惶不宣、

之外、爲謝禮示給入念儀存外、恐々謹言、

元禄十六年八月六日

松平修理大夫殿

回章

芳札令披見り、其方弥無吴由珎重存り、然素七夕祝物進

1481

薩摩守

綱貴御判

元禄十六年八月六日

回復 中城王子

元録十六年八月六日

綱貴公御譜中 正文在文庫

回復 讀谷山王子 侍從吉貴御判

來札令披閱片、去冬於江戸出火之節、芝屋敷其外屋敷兩

1483

之、過當之至り、恐々不宣、 所及類燒不意之事り、依之入念り紙面、

殊別楮表被相

元録十六年八月六日

侍從吉貴御判

回復 中城王子

來札令披閱片、去冬於江戸出火之節、芝屋敷其外屋敷兩

所及類燒不意之事り、依之入念り紙面、殊別楮之表被相

1484

贈之、過當之至り、恐々不宣

元録十六年八月六日

侍從吉貴御判

讀谷山王子

回復

1487

綱貴公御譜中

元禄十六年八月八日

三輪 山王大先達 三輪 山王大先達

延命御子孫御繁榮御如意御圓滿之處奉抽精誠外、

猶般若

巻數守天遠進獻之仕い、

益御國家安全御武運長久御息災

被致修行、

御札巻數進上之被仕り、

從自分御祈念之御札

則以吉日良辰諸先達

如御嘉例於大峯大護摩之儀蒙仰り、

院口上可被申上候、恐惶謹言、

松平薩摩守樣

御小姓中御披露

吉貴公御譜中

1486

正文在文庫

明十五日例月之御禮無之い間、 不及登 城候、 以上、

八月十四日

稻 葉 丹後 守

秋元 但 馬守

小笠原佐渡守

後守

土屋

相

摸守

阿 部 豐

松平修理大夫殿

全上

1489

爲重陽之祝儀、 小袖五到來歡覺候、 委曲秋元但馬守可述

日||褒方| 亀姫居所

追申乍次申入候、拙者儀當月廿日宮內卿敕許相叶冥

正文在文庫

山 御札令披閲り、先以貴樣御堅固:海陸無恙御歸國被成 珎重此事存み、被入御念早く預御示欣悦至み、 猶期

後喜之時み、 恐惶謹言、

元禄十六年八月廿八日

松平薩摩守樣

御報

交野宮内卿

1490

綱貴公御語中

筆令啓達り、 正文在文庫 愈御無吴片哉承度存片、

尺令進覽之候、 猶期後信之時い、 恐く謹言、

隨の領所之鮭三

元禄十六年九月十二日

水戸宰相

松平薩摩守殿 人《御中

1491

綱貴公御譜中

先,是約,使,亀姫備中丁 (網貫二女) 左大臣家凞公求三因」綱貴營二家久公宮室二、是故元 近衛大納言家久公好逑上、依」之

禄十六年九月綱貴降」命、

使上11預2事之士1如4京師上、大

起ニ土木之工こ 新經二始 殿下之宮室1 家久公居所 ヨロレ 表又 左大臣家凞公及大納宮

い也、

— 436 —

元禄十六年九月七日 墨綱印吉

薩摩

中將殿

正文任文庫

芳翰落手、雖難避殘暑以愈住勝且無恙歸國之由、

早速被

示聞、懇篤之至令滿屬り、此邊無吴り、尚期後便り、謹言

(近衛家記

(花押

No.4

元禄十六年 秋高初七

薩摩中將殿

綱貴公御譜中

正文在文庫

1493

元禄十六年九月廿二日

松平薩摩守殿

松平美濃守

1495

소 上

正文在文庫

右之段爲可申達如斯外、

五壺被獻之み、

則

宗玉西堂

中將綱貴御判

元禄十六年九月廿七日

公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之片、

御心安候、

強の御肴一種被獻之り、

紙面之趣得其意候、 益御勇健御事い間可

御札令披見り、

恐く謹言

元禄十六年 九月廿七日

松平右京大夫

本平美濃守

松

松平薩摩守殿

各申談首尾好遂 益御勇健御事

1496

阿部豐後守

全 上 正文在文庫

嫌爲御窺御使者就被差上之、 貴札致拜見候、 愈御堅固御座り由珎重奉存り、然素御機

被餼下之、忝奉存り、

猶期後音時み、

恐惶謹言、

1492

綱貴公御譜中

正文在文庫

筆令啓り、 泡盛之儀申達い處、

一位樣 z 差上御喜色之御事 ル 、^(桂昌院)

恐く謹言、

綱貴公御譜中

正文在文庫

御札令披見 4

間可御心安り、隨の御肴一種被獻之候、 公方樣御機嫌之御樣躰以使者被相伺卟、

披露候、

恐く謹言

元禄十六年九月廿六日

松平薩摩守殿

正興寺住持職事、 綱貴公御譜巾 任先例可令執務之狀如件、

— 437 —

被入御念御紙面殊串蚫

全御譜中

芳札令披見り、爲年首之御祝儀

中將樣は練蕉布十端進

上い付、首尾好及、貴聽い、恐く謹言、

松平薩摩守樣

元禄十六年九月廿七日

秋元但馬守

元禄十六年九月廿七日

種子嶋藏人

上式 久部 重判

Ш

入 安 久亮判

喜

久務 輝 判

嶋

津

中

津 大

嶋

識名親方(盛命)

1499

全上

惶謹言、 可被相伺之、被差越使者以付、 正文在文庫

恐

元禄十六年 九月廿七日

松平美濃守

1500

中將樣に練蕉布十端進

1498

綱貴公御譜中

上い付、首尾好及

貴聽以、恐く謹言、

芳札令披見い、爲年首之御祝儀

爲當年之佳祥被差渡使翰、 全御譜中

殊被准恒例目録之通饋給之、

- 438 -

元禄十六年 九月廿七日

種子嶋藏人

Ш 上式 久部 重 判 久時判

喜 入安 久房 亮 判

津 中 久**務** 輝 判

嶋

津

嶋

注 大 藏 り 明判

幸地親方(食象)

貴札致拜見り、弥御堅固珎重奉存り、御機嫌之御樣躰爲 御紙面之趣致承知り、

松平薩摩守樣

御報

全上

之至り、猶期後喜之時り、 爲今年之慶事芳翰殊被准佳例、別録之表被相饋之、欣然

恐惶不宜、

元禄十六年九月廿七日

中將綱貴御判

1501

全上

芳札令披見り、

謹上

琉球國司

中將綱貴御判

躰・唐繪一軸・縮布五端饋給之、懇情之至存み、恐惶不

中將綱貴御判

宣

元禄十六年 九月廿七日

琉球國司

回報

1504

中將樣內年頭之御祝儀被仰上以處、 貴札致拜見い、去歳 全上

貴聞候、 恐惶謹言、 二種一荷被遣之外、

御禮之趣達

御書并宇治御茶一壺

元録十六年九月廿七日

種子嶋藏人

川 上 式 部 久 重判

入安 房

喜

回復

中城王子

令怡悦叶、

猶期後喜之時以、

元禄十六年九月廿七日

1503 全

芳簡令披閱片、去冬江戸從町屋出火、屋鋪類燒之旨相聞 入念示給、殊目録之通被相贈之、欣然之至存り、恐、不

元禄十六年 九月廿七日

回復

中城王子

中將綱貴御判

— 439 —

全御譜中

貴札致拜見り、

嶋

津

大 藏

讀谷山王子樣

川上式部久重判

喜 入 安 房 久亮判

奈百姫樣御誕生:付、去年 中將樣に(觸質四女)

御祝儀被仰上り處、御書并御目録之通被遣之り、御禮之

川上 式部

元録十六年九月廿七日

種子嶋藏人

嶋

津 大 藏

嶋

津

 年

 中

 外

 類

久時判

貴聞い、恐惶謹言、

喜入 安房

嶋 津

中 務

嶋津 大 藏

讀谷山王子樣

1567

燒酎一壺進上之り付め、右之趣首尾克達 御札致披見い、爲年始之御祝儀 綱貴公御譜中

中將樣は練蕉布十端・

貴聞り、恐く

元禄十六年九月廿七日

謹言、

種子嶋藏人 久時判

川 上 式 部

一筆令啓達り、御自分儀去歲越來と被相改り付る、川上

1506 全上

嶋津

中

久務 輝 判

-440 -

中將樣達

貴聽り、恐

く 謹言、 八郎左衞門內書狀之趣致承知、

元録十六年九月廿七日

種子嶋藏人

喜 口入 安 房

嶋 津 中 久務 輝 判

嶋 津

大 久藏 明 判

元録十六年 九月廿七日

1510

貴札致拜見り、

奈百姫樣御誕生付ゐ、去夏

御返翰并御目録之通被遣之

N 匠作様は御祝儀被仰上い處、 御禮之趣首尾好達

貴聞り、

恐惶謹言、

嶋冿中務

讀谷山王子樣

1508

吉貴公御譜中

越來按司

正文在文庫

1511

綱貴公御譜中

匠作様は練蕉布三端進(言責)

御札令披見候、

上之旨遂披露,處、御喜悦之御事り、恐く謹言、

元録十六年 九月廿七日

嶋津中務

久輝判

幸地親方

御狀令披見い、爲年始之御祝儀

許到着爲御禮以使者如目録被獻之外、右之趣遂披露外處、 御暇、其上御馬并白銀・時服拜領難有由得其意候、就國 公方樣益御機嫌能被成御座、

恐悦旨尤い、將又今度被下

元禄十六年十月四日

稻葉 丹後守

御前戶被召出之、入念外段御喜色之御事外、恐、謹言、

秋元但 一 喬朝 朝判

小笠原佐渡守

土屋相獎守

1509

貴札致拜見い、去歳

匠作樣內年首之御祝儀被仰上的付

貴聞い處、

入御念儀被

思召り、

恐惶謹言、

あ、

元録十六年九月廿七日

御返翰被差越い御禮之趣達

嶋津中務

久輝判

讀谷山王子樣

- 441 -

綱貴公御譜中

1513

全上

阿 部 豐 正後式判

松平薩摩守殿

正文在文庫

御札令披見り、

許到着爲御禮以使者如目録被獻之片、紙面之趣承屆片 御暇、其上御馬并白銀・時服拜領難有由得其意み、就國 公方樣益御機嫌能被成御座、恐悦旨尤り、將又今度被下

恐く謹言(

元禄十六年十月四日

松平右京大夫

1平美 吉保判 一

松

松平薩摩守殿

此御書吉貴公御譜中"モ在リ

全上

珎重奉存り、 筆啓上仕り、漸く向冷氣り得共弥御勇健可被成御座、 於御當地一門中相替儀無御座り間、 尊意安

可被思食り、

爲可奉伺御機嫌如斯御座片、

隨の鱈汽巻十

去比父公方就女子誕生、爲嘉儀芳墨并目録之通被惠寄、

1515

全上

薩摩中將殿

1516 全

進上之仕み、 元禄十六年十月四日 猶奉期後音時以、

誠惶誠恐敬白、

松平修理大夫

中將樣

全上

1514

以親切之趣祝着不斜片、縷、期後音不能多毫片、謹言、 去比就孫女誕生、爲嘉儀被遺芳札、且如目録惠賜之、誠(蠻力)

初冬五鳥

(近衞基配)

Na3

去比此方安産之事、因茲賀札、 且如目録被贈與、 親切之

元禄十六年 上冬初五

趣不淺令祝着片、尚期後音片、

(近衞家凞)

(花押 No.4

薩摩中將殿

- 442 -

全上

新納市正殿 喜入安房殿

進

藤

筑 (_{長房}) 長 一

松

薩摩守樣

参貴報

判

1517

正文在文庫 綱貴公御譜中

依

右大臣殿仰申入り、就

無上法院御一周忌從(常子內親王・基熙室)

召外、右之趣各迄可申達之旨外、恐く謹言、

今大路治部少輔

元禄十六年十月六日

進藤

利 部 大 4

· 个 辅 判

今大路兵部大輔(光好)

所様大徳寺に御香奠被進之、

被入御念い段、

御滿悦被思

懇切之趣悦着不斜り、尚期後音り、謹言、 元禄十六年孟冬初五

薩摩中將殿

(正衛家久)

被入御念瑤章之趣怡悦之至存候、

恐く謹言、 水戸中將

元禄十六年十月七日

松平薩摩守殿

御報

今度首尾好御暇、道中無吴儀其地御着之由珎重之事り、

No6

り様:と御家來衆は申達い段御承知、依之被仰下

が趣被 去二日之尊札拜見仕り、然素夏舩·秋舩十壹艘從先月廿 御領内浦、例之通御申付

1519 全上

御二

入御念御儀奉存候、 四日同廿九日迄歸帆就申付り、 恐惶謹言

別所播磨守 (長崎奉行)

、 永井讚岐守 直囿判

正文在文庫

1520

綱貴公御譜中

貴翰令拜見い、如御示交野三位宮内卿令拜任い、大慶存

- 443 -

仝御譜中

元禄十六年十月十三日朱カキ

事件、

依之預御祝詞辱存り、

恐惶謹言、

松平薩摩守樣

平松中納言

松平薩摩守樣 御報

元禄十六年十月十三日

中將綱貴御判

琉球國司 回答

<u>숙</u>上 正文在文庫

1522

通被掛御意、 敕許之趣御承知こる、 貴翰令披見候、貴樣愈御堅康之由珎重存り、然素宮内卿 御念入い段忝令受納い、 預御歡詞、 殊更爲御祝儀御目録之 尚期後喜之時外、

交野宮内卿

元禄十六年十月十三日

恐惶謹言

1523

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御語中『モ在リ

尊書謹の拜見仕り、 正文在文庫 先頃海陸御機嫌能八月四日被遊御着

處 首尾好

城

目出度御儀奉存外、

依之爲御禮使嶋津新八被差上4

芳翰令披見り、然光亀女方近年入輿之旨相聞、爲祝儀示

殊目錄之表被相饋之、欣然之至存り、

恐惶、

御目見相濟被成御奉書片間、新八事今日御當地爲立申片、

猶奉期後喜之時以、

誠惶誠恐敬白、

元禄十六年十月十五日

進上 中將樣

松平修理大夫

1524 正文在文庫 綱貴公御語中 此御書吉貴公御譜中ニモアリ

尊書謹の拜見仕候、貴公様益御機嫌能被成御座、

珎重御

猶奉期後喜之時候、 於御當地 儀被下御使、殊御目録之通拜受之仕、幾久忝次第奉存り、 儀奉存り、然素鍋三郎・ミつ事弘首尾好相濟り、 一門中相替儀無御座い間、 誠惶誠恐敬白、 尊意安可被思召外、 爲御祝 露外、

恐く謹言、

1526

可御心易り、隨の御肴一種被獻之り、各申談首尾好遂披 御札令披見り、 正文在文庫

全御譜中

公方様御機嫌之御樣躰被相伺之い、益御勇健御儀い間!

1525

仝御譜中

此御書吉貴公御譜中"モ在リ

元禄十六年十一月四日朱カキ 御書中鍋三郎ハ継豊公ノ御幼名ニテ、元祿十四年十二月廿二日ノ御誕生ナリ 進上中將樣

満君ハ仝十二年八月廿四日御誕生ノ御長女也

上仕い處、被仰下い趣被爲入御念い御儀忝奉存い、 尊書謹の拜見仕り、先頃爲生御靈之御祝儀、 正文在文庫

目録之通進

御心易り、隨め御肴一種被獻之り、紙面之趣得其意り、

公方様御機嫌之御様躰被相伺之い、

益御安全御事い間可

猶奉

恐く謹言、

期後喜之時,、誠惶誠恐敬白、

元録十六年十一月四日

中將樣

松平修理大夫

1528

正文在文庫

松平薩摩守殿

元禄十六年十一月六日

松平右京大夫

松平美濃守

綱貴公御譜中 此御書古貴公御譜中ニモ在リ

目録之通進上之仕り、猶奉期後喜時候、 下、忝次第奉存り、右之御禮爲可申上、 奉存り、然素先頃娘出生仕り爲御祝儀、 差上使申り、仍 誠惶誠恐敬白、 御目録之通被成

筆啓上仕候、先以貴公樣弥御機嫌能可被成御座、

珎重

1527

全上

御札令披見り、

元禄十六年十一月五日朱カキ

松平薩摩守殿

松平修理大夫

小笠原佐渡守

— 445 —

全上

元禄十六年十一月九日 朱カ キ 中將樣

松平修理大夫

正文在文庫

情令進覽片、 漸向嚴寒い處益御勇健い哉承度存み、

敕許御怡申給忝存み、

此目録之通爲謝芳

後喜時以也、 恐惶謹言、

元録十六年十一月十日

松平薩摩守樣

交野宮内卿

1531

松平薩摩守殿

綱貴公御譜中 此御書古貴公御譜中一成有之

正文在文庫

一筆啓上仕候、貴公樣明年御參勤時分被相伺候之處、來

年四月中御参府と被仰出、例年不相替目出度御儀奉存り、 右之御歡爲可申上如斯御座片、 猶奉期後喜時ル、

誠惶誠

恐敬白、

元禄十六年十月十五日

松平修理大夫

進上 中將樣

1532

古貴公御語中 正文在文庫

— 446 —

小笠原佐渡守

秋元

土 屋

相

政直判

呵

部

豐

正武判

先頃素宮内卿

1530 全上 全上

御札令披見り、

公方樣益御機嫌能被成御座、

恐悦旨尤候、將亦參勤時分 高聞い處、來年四月中可致

之儀以使者被相伺之片、

及

参府旨被

元禄十六年十一月十三日 仰出い、可被存其趣い、恐く謹言、

稻

正通判 正通判

奉察り、

隨の拙者家内何及爰元無恙罷有い間、

御心安被

安可被思召み、

先達の爰許之樣子御聞被遊御驚可被成と 何及樣御別儀無御座り之間、

高輪

芝御屋敷こて、

筆啓上仕り、然去去廿二日夜中致大地震候之處、

芝 御心

段

中將樣達

御聽度存、

御自分迄不取敢先如此御座

भ् 追

此等之趣以御序宜

分國并日向國中追放申付之、

他家之奉公相構之り、右之

注進御座り半と申殘り、

以上、

1533

仕り、 元録十六年十一月十五日 猶期來陽諸慶可申上候、 誠惶誠恐敬白 松平修理大夫

歲暮之御祝儀爲可申上如斯御座り、

隨の目録之通進上之

筆啓上仕候、弥御勇健可被成御座、珎重之御儀奉存り、

進上

中將樣

正文在文庫 綱貴公御譜中

地震ハ于今少ミツ、いたし落付不申り、段ミ之由御 類火:逢可申と存り處:、不慮:遁申りの大悦仕り、 歸被成、目出度御同意大悦仕り、 遁被成` こも出火こて及大火、芝御屋敷危ク御座り處こ、 猶以御勇健御休息可被遊と目出度奉存み、 何ゑ樣無何事御退被成、夜中芝御屋敷へ御 拙者下屋敷も其節 去十八日 御

1534

全御語中

正文在文庫

申者段、不届之儀有之り付あ、 筆致啓達り、 然素私家來宇宿傳左衞門并三角太兵衞と (久 明) 今廿五日家中暇出之、

預御披達り、 付以使者委曲可申上以之條不能詳り、 賴入存收、

恐く謹言 嶋津淡路守 惟久判

手為殊之外取込無其儀迷惑仕り、 仕り段、御察可被下り、芝御屋敷へ早、参上可仕り處こ、 思召可被下外、 右之段爲可得尊意如斯

恐惶謹言、

御座り、

元禄十六年十一月廿五日 薩摩守樣

鳥居播磨守

参入く御中

アリテ阿部伊勢守ニ御縁嫁アリ、参考ニ供ス 鳥居播磨守忠教ノ夫人ハ綱賞公ノ御妹ナリ、忠教ノ女ハ吉貴公ノ御誕女ニ台許 元祿十六年正月生ルトアリ

元禄十六年十一月廿五日

— 447 —

全御譜中

此御書古貴公御譜中ニモ在リ

十八日從四谷出火外處、折節風烈芝邊迄及類燒外得共、 筆啓上仕り、弥御勇健可被成御座珎重奉存り、然老去

今日迄ゑ最前之程:光無之り得共鎭不申り、然共 御屋敷無別條大慶仕り、且又同廿二日夜御當地致大地震

儀無御座い間、 公方樣於御機嫌御別條無御座奉恐悦り、將又一門中相替 尊意安可被思食い、委曲爰許家老中より

其許家老中迄可申越片、誠惶誠恐敬白、

中將樣

御修復有之付る、

城叶、以上、

正文在文庫

明朔日例月之御禮無之い間、

不及登

1537 古貴公御譜中

松平修理大夫殿

阿部

豐

後

守

土

屋 相

摸守

小笠原佐渡守 秋元但馬守

元録十六年十一月廿九日

稻 葉 丹後守

秋元但 馬守

小笠原佐渡守

土 屋 相 摸守

阿 部 豐 後 守

松平修理大夫殿

葉丹後守

不及登

1538 綱貴公御譜中

筆致啓達り 正文在文庫

— 448 —

正文在文庫

元禄十六年十一月廿六日****

松平修理大夫

吉貴公御譜中

1536

正文在文庫

城候、以上、

御修復有之付あ、

明廿八日月次之御禮無之い間、

元錄十六年十一月廿七日

稻

正文在文庫 追の田町御屋鋪素類燒り由、苦く敷儀こ存り、

元禄十六年十二月四日

仝御譜中

1539

綱貴公御譜中

正文在文庫 此御書吉貴公御譜中ニモ在リ

珎重奉存り、於爰許一門中別條無御座り、寒中爲可奉伺 御機嫌如是御座り、 筆啓上仕候、雖寒氣之節御座片弥御勇健可被成御座、 猶奉期後音之時 い、誠惶誠恐敬白、

松平修理大夫

1542

全上

去月十八日江府回禄、同廿二日大地震之事驚入候、 承、目出度存候、於其御地可爲御氣遣と令察り、右之趣 御屋敷雖類燒、芝・高輪等御屋敷無御別條各御堅固之旨 田町

爲可申入如此御座り、恐惶謹言、

鋪無別條、高輪:
る無恙
り之由申來、 先月十八日江戸大火事、廿二日大地震絶言語り、 珎重存り、 芝御屋 遠境御

元禄十六年十二月六日 ###

氣遣共察入り、恐惶謹言、

不屆之儀有之り付あ、御分國并日向國中追放申付り、

細之儀御自分迄以書付申上り間、以御序宜預御披達り、

賴入存候、猶使者口上申含候、恐ゝ謹言、

元禄十六年十二月朔日 ###

嶋津淡路守

惟久判

嶋津大藏殿

中將樣弥御機嫌能可被成御座珎重奉存り、然光先達の以

飛札申上り通、私家來宇宿傳左衞門并三角太兵衞と申者

松平薩摩守樣

1541

町御屋敷素雖類燒り、芝・高輪御屋敷無別條各御堅康之 去月十八日江府火事、同廿二日大地震之由驚存り、於田

全上

元禄十六年十二月六日 平松中納言

松平薩摩守樣

遣と察入り、此等之儀爲可申入如此り、恐惶謹言、

旨、兩度之御左右令承知目出度存り、於其御地可爲御氣

— 449 —

元禄十六年十二月六日

松平薩摩守樣

石井少納言

1545

全

蜜柑二箱并御肴一種被獻之り、首尾能遂披露り、恐ゝ謹

言

十二月十一日

正通判

綱貴公御譜中

正文在文庫

仰出り付、御禮之趣欣然之至存り、恐ゝ謹言、(ひと) 徳川主税頭方に家領相續被

元禄十六年十二月十日

松平薩摩守殿

1544

全上

被饋下之忝奉存り、恐惶謹言、

元禄十六年十二月十一日

秋元但馬守 秋元但馬守

松平薩摩守樣

御報

御事り、被入御念御紙面、殊更被差上り御殘、如御目録 貴札致拜見り、雖寒氣之節り弥御堅固御座り由、珎重之

御報

水戸中將

1546

吉貴公御譜中

松平薩摩守殿

稻葉丹後守 正通

御修復有之付あ、 正文在文庫

明十五日例月之御禮無之い間、不及登

城吖、以上、

元禄十六年十二月十四日

稻葉丹後守

秋元但馬守

小笠原佐渡守

土 屋 相摸守

阿部豐後守

松平修理大夫殿

正文在文庫

1547

綱貴公御譜中

御札令披見候、寒中付る 公方樣御機嫌之御樣躰、 以使者被相伺之外、

益御勇健御

全上

元禄十六年十二月十五日

進上 中將樣

後音之時以、誠惶誠恐敬白、 御禮爲可申上如斯御座み、

筆啓上仕り、例年之通御獻上之爲御錢、

櫻島蜜柑并炙

猶奉期

1548

全上

此御書吉貴公御譜ニモ有リ

松平修理大夫

1551 綱貴公御譜中

正文在文庫

御札令披見片、 就寒中

公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之吖、

益御安全之御儀り間

趣得其意候、恐く謹言、

元禄十六年十二月十六日

松平右京大夫

各申談首尾好遂披露片、 恐く謹言(

隨の御羽織五并御肴一種被獻之り、

元禄十六年十二月十五日

土屋相摸守

松平薩摩守殿

存り、

右之段爲可申上御自分迄如斯御座り、 皆、樣弥御勇健被成御座之旨承知仕、

以御序宜預 目出度奉

無御座、

先月廿二日丑之刻、

夥雖地震仕い芝·高輪兩御屋鋪別條

中將樣倍御機嫌能可被成御座、珎重奉存り、然素江府表

筆致啓達り、

御披達り、賴入存り、恐く謹言、

元禄十六年十二月十四日

嶋津淡路守

嶋津大藏殿

1550 全上

綾二百端并.一種被掛貴意忝奉存候、 貴翰致拜見り、 弥御堅固之旨珎重之御事御座り、 恐惶謹言、 隨の紗

元禄十六年十二月十五日

松平薩摩守樣

小笠原佐渡守

可御心易り、隨め御羽織五并御肴一種被獻之り、紙面之

全

先頃以一種通書音り之處、

い、餘期後音い、謹言、

松 平

松平薩摩守殿

吉保判

1555

綱貴公御譜中

被伸謝辭一封丁寧之趣令滿足

正文在文庫

從

中將樣被成下御書、謹の致拜見り、 八日江府出火、三田屋鋪類燒仕難儀存り、乍然女并子共 如被

仰下い先月十

無別條、此段仕合存৸儀御書面之通御座৸、依之被爲入

御念被仰下外趣、忝次第奉存り、右之御請爲可申上御自 分迄如斯御座り、以御序宜預御披達候、賴入存り、恐く

謹言、

被伸謝辭丁寧之趣令滿足り、

餘

元禄十六年十二月十八日

嶋津大藏殿

· 嶋津淡路守 惟久判

薩摩中將殿

期後音い、謹言、

(近衞家熙

(花押

No.4

元禄十六年暮冬十六烏

先頃一種贈進之候處、 소

被伸謝儀慇懃之趣令怡悦片、

餘事

寫正文在文庫

1556

綱貴公御譜中

家作之儀前へ及相達り通弥輕、 覺 寫

向後居屋敷・下屋敷共

--- 452 ---

(花押

Na6

(近衞家久)

薩摩中將殿

元禄十六年季冬十六烏朱カキ

薩摩中將殿

元録十六年晚冬十六烏朱カキ

(近衞基熙)

No3

綱貴公御譜中

1553

正文在文庫

先頃以一種通書信い處、

1554

期後便い、謹言

貴札致拜見り、 正文在文庫 全御譜中

歳暮年頭惣の祝儀の取かいし、

隨分かろく可被致み、 に一通り輕相見りある、手の込たる作事可爲無用事、

看等も鯛・鱸にかきらす何肴にて

も輕取かいし可被致

N 菓子類も獻上之外杉檜之重可爲無用事、 獻上之外白木之臺可爲無用、 若無據節素何木にて

衣類之儀有合に可被用り、 紋着不致いるゑ不苦事、

も可被用事、

附又ものは右に可准事、(又者)

年始其外祝儀之振廻たりといふ共かろく可被致り、 風烈之時分ハ在宿いたし、縱年禮たりといふ共可有延 躰之料理もかろくいたし、白木具之類可爲無用事、

言

引り、運成り分は不苦り事、 右之趣堅可被相守り、以上、

元禄十六年未十二月

日

1559 綱貴公御譜中

正文在文庫

御札令披見 4、

承之、恐悦旨尤り、紙面之趣得其意候、恐く謹言、 公方樣益御機嫌能被成御座、 先頃増上寺被爲 成い儀被

能被遊 忝奉存り、 公方樣益御勇健被成御座、先頃私宅ロ被爲 還御、 恐惶謹言、 恐悦思召旨尤之御事外、 依之爲御悦預示

成

御機嫌

元禄十六年十二月廿二日

松平右京大夫

松平薩摩守樣 御報

1558

小身之面~ハ熨斗目又素定

全上

御札令披見り、

公方樣益御機嫌能被成御座、

先頃増上寺被爲

成り儀被 恐く謹

高聞い、

承之、恐悦旨尤い、紙面之趣各申談及

常

土屋相挨守

元禄十六年十二月廿三日

松平薩摩守殿

元禄十六年十二月廿三日

松平右京大夫

元禄十六年十二月廿七日

松平紀伊守

松平薩摩守樣

参御報

松平美濃守

松平薩摩守殿

綱貴公御譜中

此御書吉貴公御譜中ニモ在り

1560

正文在文庫

鍋三郎・みつ事弘首尾好相濟申り、爲御祝儀先頃以御使 一筆啓上仕候、弥御勇健可被成御座、珎重奉存り、 然去

使申り、隨め目録之通進上之仕り、猶奉期後喜時り、誠 御祝物被下置、忝次第奉存い、右之御禮旁爲可申上差上

惶誠恐敬白、

元録十六年十二月廿七日 進上 中 将 様

松平修理大夫

1562 綱貴公御譜中

正文在文庫

爲歲暮之祝儀小袖五重到來歡覺片、

委曲阿部豐後守可述

外也、

元禄十六年十二月廿九日

墨綱田吉

薩摩

中將殿

全上

1561

候、因是御紙上之趣被入御念儀御座り、恐惶謹言、 貴翰致拜見い、如仰先頃江戸表大火・強地震い得共 公方樣倍御機嫌能被成御座り旨、逐く申來り間可御心安

--- 454 -

綱貴公御譜中

録追 舊 記 雜 録 巻三十三

貴 貴 公 公 至 É Œ 月 月

吉

綱

誠恐敬白、

元禄十七年正月十一日

讀谷山王子 尚益判

進上 中將樣

詞爲可申上、奉呈愚簡り、依之目録之通奉進上之り、

奉表御佳例迄御座り、

猶萬悦幾久可奉得

尊意候、誠惶

誠

全上

改年之御嘉祥珎重、猶更不可有際限御座り、此等之御祝

(表紙)

1564

1566

全上

年首之御吉祥珎重多幸、 猶更不可有休期御座候、此等之 1565

正文在文庫

吉貴公御譜中

猶奉期後喜之時候、誠惶誠恐敬白、 之御祝儀、以安里親方申上候、依之目録之表進上之仕候、 國御平康、倍御機嫌能被成御重歲候之旨奉恐悦候、此等 改年之御吉慶珎重多幸、猶更不可有休期御座候、先以貴

-- 455 --

正文在文庫

年始之御嘉祥幸甚く、猶更不可有盡期御座候、先以貴 國御平安、益御機嫌能被遊御重歲候之由、奉恐悦候、此

候、猶奉期後喜之節候、誠惶誠恐敬白、 等之御祝詞、以安里親方申上候、因茲目録之表進上之仕

元禄十七年正月十一日

琉球國司

元禄十七年正月十一日

琉球國司

尚貞判

進上

侍從樣

尚貞判

中將樣

綱貴公御譜中 正文在文庫

爲年頭之御祝儀、以使者御太刀一腰 ・御馬代黄金十兩被

元禄十七年正月十一日

獻之り、首尾好遂披露り、

恐く謹言、

稻 葉 丹 正通判 1567

全上

補御佳例迄御座り、 詞爲可申上奉呈愚簡り、 改年之御吉慶珎重、 猶萬悦幾久可奉得尊意候、誠惶誠恐 猶更不可有休期御座片、 依之別格之通奉進上之り、 此等之御祝

讀谷山王子 尚益判

元禄十七年正月十一日 朱カキ

進上

侍從樣

敬白、

1570

綱貴公御譜中 正文在文庫

御札令披見り、

秋 元但

御祝詞爲可申上奉呈愚札候、仍目録之表奉進上之候、

誠

恐敬白

元禄十七年正月十一日

尚純判

進上

侍從樣

奉補御佳例迄御座候、

猶萬悦幾久可奉得尊意候、誠惶誠

小笠原佐渡守 高期 高朝 割

屋 相 政直判

土

阿部 豐 一後 武守 判

松平薩摩守殿

全御譜中

1569

誠奉

筆致啓上候、舊冬十一月廿九日之夜、其御地出火、

寺内迄雖及類燒り御前御安泰之由承知仕、珎重御儀奉存 此旨爲可申上如此御座り、 宜預漏達片、 恐へ、

元禄十七年正月十二日 万里小路大進御房

公方樣益御機嫌好可被成御座と恐悦旨尤候、將又舊冬當

全御譜中

此御書吉貴公御譜中ニモ在リ

入念儀存み、恐る、 我等事及無別條い間、

芳札令披見4、其方弥無恙、一門中無吴之由、珎重存4、

可易芳慮以、寒中爲見舞示給、

被

1571

綱貴公御譜中

元禄十七年正月十五日

地甚地震付の被差越使者候、紙面之趣各申談及

上聞い、

元禄十七年正月十六日

松平修理大夫殿(青貴)

回報

恐く謹言

秋元但馬守

1573

全上

珎重御儀奉存り、御悦爲可申上如此御座り、宜預洩達り 筆致啓上片、 今度 御成御殿被成御拜領之由承知仕,

恐く、

元禄十七年正月十六日朱カ*

戸田長門守殿(忠 時)

全御譜中

舊臘十六日之尊札拜見仕り、 正文在文庫 弥御勇健御在國被成、

珎重

奉存外、如被仰下外十一月十八日御當地出火、同廿二日

入御念御紙面、忝次第奉存り、恐惶謹言、 元禄十七年正月十六日

鳥居播磨守

1574

— 457 —

後廿九日大火御座りへ共、是又無吴儀大慶仕り、早ゝ被

大地震處、私屋敷共別條無御座、

何為無事罷在り、

其以

松平薩摩守殿

正文在文庫

御札令披見り、

地甚地震付の、被申越紙面之趣得其意り、恐く謹言、 公方様益御機嫌能可被成御座と恐悦旨尤り、將又舊冬當

元禄十七年正月十五日

松平右京大夫

松平美濃守

松平薩摩守殿

尊報

綱貴公御譜中

1575

貴札拜見仕い、弥御堅達被成御座、 正文在文庫

存外、其節私宅無恙大慶仕外、因茲爲御見舞御紙面之趣、 然素舊冬江府甚地震御座り得共、御屋鋪無御別條珎重奉

忝次第奉存り、恐惶謹言、

松平隱岐守

元録十七年正月十八日

松平薩摩守樣 貴報

全上

1576

封掌握、如來教舊冬當地火災候之處、此邊雖程不遠無

恙、大慶如賢察り、早以懇書之趣不淺思給り、餘不能

二片、謹言、

元禄十七年初春十八鳥

(正衞家熙)

No.4

薩摩中將殿

1578

全上

御札致拜見り、

弥御堅固御座い旨珎重存り、

如仰舊冬當

御地夥敷地震付、居宅等少く致破損り、然共無異儀罷在 誠被入御念御紙面之趣忝存り、 恐惶謹言、

松平右衞門督

元禄十七年正月廿三日

松平薩摩守樣

御報

正文在文庫

1577 綱貴公御譜中

正文在文庫

爰許同前 4、餘期後音 4、謹言、

之、深切之至最令祝着好、其邊愈勇健之由目出思給好 堀川新造經營、依前殿下移徙、被投賀札、且如目録惠賜

目出度御儀奉存み、

元禄十七年孟陽念二

(近衛家熙) (花押

No.4

薩摩中將殿

1579 綱貴公御譜中

舊臘廿二日之貴翰致拜見り、 如御紙上舊冬當表地震甚、

被入御念御儀忝奉存り、 元禄十七年正月廿五日 正文在文庫

貴札致拜見り、舊冬御當地夥敷就地震、爲御見舞被示下、 綱貴公御譜中

宗撰馬守 義方判

恐惶謹言

1580

全上

元禄十七年正月廿三日 松平薩摩守樣 御報 稻葉丹後守

弥御堅固可爲御越年、 震り、依之爲御見廻被入御念預示忝次第り、 舊臘廿二日之貴翰致拜見候、改年之御慶不可有際限り、 珎重御事候、 如仰舊冬當御地強地 拙者無恙致

土屋相換守

超歲候、

恐惶謹言、

元禄十七年正月廿五日

松平薩摩守樣

御報

1583 綱貴公御譜中

正文在文庫

不淺り、 事越年珎重多幸、然老如目録惠賜、懇篤之模樣幾久祝納 華簡落手、如來意新年之佳慶不可有盡期以、 元禄十七年仲春朔烏 萬喜期永日不能多毫升、 謹言、 (近衛基熙) 先以迭無吴

松平薩摩守樣

私屋鋪破損在之外得共、無恙致出勤外、被入御念被仰聞

忝次第御座り、

恐惶謹言、

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御譜中『モ在リ

正文在文庫

儀奉存り、然素去年十一月十八日於御當地出火、 尊書謹の拜見仕候、弥御機嫌能被成御座り由、 珎重之御

日夥敷地震仕り得共、一門中何れる別條無御座、 大慶存 同廿二

い、依之被爲入御念被仰下い趣、忝次第奉存り、

被思召り、 只今迄少宛ゆり申り得共、 誠惶誠恐敬白、 段く輕ク罷成い間、

> 御心安可 地震後

元禄十七年正月晦日

松平修理大夫

進上中將樣

(花押 Na3

— 459 —

1582

薩摩中將殿

吉貴公御譜中

芳緘手裏、 全

之、誠懇情之趣祝着不斜り、猶期春深不能宣備り、 越年之由、承悦此事り、爰許同前り、然光目録之通惠賜

如來諭肇年之祝詞不可有休期片、先以滋健逞

元禄十七年 仲春朔烏

薩摩中將殿

1585

正文在文庫 **仝御譜中**

(近衞家熙)

No4

1587

謹言、

被伸新年之嘉儀芳翰落手、愈無吴超歲珎重思給卟、 全上 連□懇情之趣祝着不少候、尚期永日卟也、本▽、(&力) 當地

元禄十七年仲春初三 朱为*

同前候、

家久

松平修理大夫殿

1588 綱貴公御譜中

歡爲可申入如此御座片、 筆致啓達り、貴樣儀舊臘少將御昇進之由珎重存り、 恐惶、

御

至欣然不少り、

猶期永春不能多端り、謹言、

(近衛家久) (花押

Na6

元禄十七年 仲春朔鳥

薩摩中將殿

珎重思給り、此邊無恙り、仍如目録被贈與、連年親切之 玉章披覽、如來教青陽之嘉義同前片、先以勇健越年之由

元禄十七年二月四日 ####

松平陸奥守樣

人・御卓

正文在文庫

被伸新年之嘉儀芳牒落手、先以無事越年珎重思給り、 地同前候、 連歲懇情之趣祝着不少候、尚期永日卟也、

當

(近衛家熙)

(花押

No4

元禄十七年仲春初三 松平修理大夫殿

-460 -

筆致啓達り、

貴樣弥御堅固之旨珎重存り、然老舊冬江

入御念之段忝存り、 付あ、爲御見舞櫻田屋鋪に兩度預御使者い由致承知、被 戸表火事之節、拙者濱屋敷致類燒、且又夥敷地震有之り 御禮爲可申達如此御座い、恐惶'

元禄十五年二月四日

松平伊豫守樣(定昌丸)

人・御中

此御書吉貴公御譜中ニモ在リ

爲改年之嘉儀芳札令披見り、弥無吴事重歲之由珎重存り、

1590

城御禮首尾能相濟 如例年正月二日登 欣然之至存り、猶期後喜之時り、恐く、 等難有仕合同意之儀存り、被入念示給目録之通被相贈之、 御盃頂戴之、 御時服拜領之由、

ζ

松平修理大夫殿 回章

元禄十七年二月五日

1592 綱貴公御譜中

奉存り、 被仰下、 筆致啓上い、舊臘素櫻田屋敷迄以御使者歲暮之御祝儀 殊御時服五被下置之、被爲入御念り御儀忝次第 御禮爲可申上如此御座い、此旨宜預洩達い、 恐

元禄十七年二月六日 朱4 *

戸田長門守殿(忠 和)

1593

수

田屋鋪迄以御使者御禮被仰下御慇懃之御儀奉存り、此旨 筆致啓上り、 舊冬寒氣爲御見舞兩種致進上之い處、

全上 此御書吉貴公御譜中"モ在リ

鍋三郎・おみつ事弘首尾能相濟り爲祝儀、(# 豊) (癩貴女) 舊臘廿七日之芳札令披見り、愈無吴之旨珎重存り、

怡悦み、 恐く、 進之り、

爲謝禮示給、

殊目録之通贈給之、被入念り段令

先頃目録之通

松平修理大夫殿

回報

1591

— 461 –

1596

綱貴公御譜中

私屋鋪迄被下置御使僧、被爲入御念之段忝次第奉存り、 筆致啓上り、 舊冬江府出火地震付る、爲御見舞其御地

宜預洩達り、恐く、 元録十七年||月六日

中山備中守殿(信 飯)

筆致啓上り、 家作并祝儀取替輕仕、 獻上之外杉檜重

1594

白木臺致無用、

衣類・振舞等用倹約、

其意り、此旨爲可申上捧飛札り、 可致在宿由、 舊臘廿四日段、被仰渡り御書付之趣畏奉得 恐惶、

元録十七年二月六日

土屋相摸守樣

求馬久房譜中 光久公

元禄十七年甲申二月九日 綱貴公手自書二衣服之紋」以三

横少尖頭而出二圈外1、且圈形内圓 |階堂出右衞門行佐||沙給>之也、 乃其圖者十文字之縱 外如」花輪矣'

元禄十七年二月十日

右之御禮爲可申上如此御座卟、

此旨宜預洩達り、

恐く、

聖護院御門跡

岩坊法印御房

全上

私屋鋪迄被下置御使僧、被爲入御念之段忝次第奉存り、 筆致啓上い、舊冬江府出火地震付あ、爲御見舞其御地

元禄十七年二月十日

右之御禮爲可申上如此御座り、

此旨宜預洩達り、恐る、

曼珠院御門跡

御坊官衆中

1598

全上

元禄十七年二月十日

右之御禮爲可申上如此御座片、

此旨宜預洩達り、恐る、

私屋鋪迄被下置御使僧、被爲入御念之段忝次第奉存外、

筆致啓上り、舊冬江府出火地震付あ、爲御見舞其御地

1597

且又風烈い時分素

--- 462 --

州

1600

全御譜中

助左衞門・竹之内仲右衞門等副>之渡:|楫彼國||而監:|諸 琉球國在番奉行」、 二階堂大兵衞・大迫休右衞門・小原 元禄十七年甲申二月十三日使上,伊集院賀左衞門久品 補中

寳永三年丙戌六月二十一日久品等任限充而歸;;于薩

1599

正义在文庫 全御譜中

照高院御門跡 御坊官衆中

舊臘當地御屋敷迄、就歲暮之御祝儀被仰入り、從 中將

露り、恐く謹言、

儀御座片故不及御書片、此旨自私方御自分迄可申述之由 樣御狀之趣、被入御念外儀御滿悦被思召り、 前關白殿仰、如此內也、恐惶謹言、〔近衞蓋熙〕 右御禮計之

所

嶋津勘解由殿 喜入安房殿 元禄十七年二月十二日

進藤筑後守

1602

正文在文庫 綱貴公御譜中

尤り、隨の御樽肴被獻之り、 ·公方樣益御機嫌能被成御座、 御札令披見り、 如承青陽之慶賀珎重り、 年始御規式可相濟と恐悦旨

先以

言

元禄十七年二月十五日 朱カキ

松平右京大夫

紙面之趣得其意り、恐く謹

松平美濃守

松平薩摩守殿

1601

全御譜中

正文在文庫

御札令披見候、

阿部豐後守

元禄十七年二月十四日

松平薩摩守殿

今度領内に被遣り無宿流人六拾八人之内、江戸より大坂 全上

口上覺

籠中迄:十三人病死之由りあ、大坂町奉行衆より五拾五 今度領内ロ被遣り無宿流人六拾八人之内、江戸より大坂 人請取り内八人於舩中病死、 相残四拾七人去ル十二日領

元禄十七年二月十六日

内に致到着り、此段申上り、以上、

全上

1604

小笠原佐渡守樣

今度領内ロ被遣り無宿流人六拾八人之内、江戸より大坂

籠中迄:十三人病死之由いあ、大坂町奉行衆より五拾五

内口致到着片、此段申上片、以上、 人請取り内八人於舩中病死、相綫四拾七人去ル十二日領

元禄十七年二月十六日

稻葉丹後守樣

1606

綱貴公御譜中

筆令啓達外、領内口之永良部と申嶋に朝鮮國之舩一艘(熊 毛 郡)

彼所は差置り在番之者致警固、當國之内山川と申所迄送 去月廿七日漂着及破損、 朝鮮人共陸に上り罷居り付あ、

Ŋ

此段爲可申入、以飛札如此御座片、委細之儀者家來

當地より警固之者相添、

日和次第其元差越可申

共可申上り、恐惶、

元禄十七年二月十八日 別所播磨守樣(長崎奉行)(常治)

石尾阿波守樣(同)(氏信)

人
る
御中

1607 全上

- 464 —

大坂町奉行衆より五拾五 相残四拾七人去ル十二日

領内に致到着り、此段申達り、 人請取り、內八人於舩中病死、 籠中迄:拾三人病死之由りあ、

以上、

元禄十七年二月十六日

丹羽遠江守樣(町奉行)(長守)

元禄十七年二月廿二日

日和次第長崎可差越旨、彼地奉行衆ロ申達り、此段申上 當國之内山川と申所迄送來4間、當地より警固之者申付、(雖確都) 渡之、番之者堅固申付、所、舩:召乘在番之者致警固、 鮮人共致燒失り、右三拾七人之儀素木屋相調飯料相應相 付ゐ、海邊方、相尋見出不申り、舩滓少、流寄り處、 死人兩人内一人死躰有之、一人死躰流失り由書付差出り 之内穀物爲買賣差越逢難風致漂着り、人數三拾七人之外, 上り罷居り付る、彼所在番之者より樣子承屆り處、本國 以上、 朝

元禄十七年二月十八日

綱貴公御譜中

可申入如此御座り、 日漂着之朝鮮人共警固之者相添其許に差越申り、此旨爲 筆令啓達り、先頃申越り領内口之永良部嶋は去月廿七 委細光從家來共可申上外、 恐惶

吉貴公御譜中

1609

私領内口之永良部嶋之内いきすと申所ロ朝鮮國之舩一艘

石尾阿波守樣別所播磨守樣

人
マ御中

口上覺

人數三拾七人乘、去月廿七日漂着及破損、

朝鮮人共陸に

年二月二十五日綱貴移二徙于本丸一、詳見二綱貴之譜中一、 未」終二其功二、是故經二營對面所及廣間」也、是歲元禄十七 先是、元禄九年之初夏魔城罹::火災:、因先修::外郭:其外

1610

綱貴公御譜中

正文在文庫

鲜國之舩一艘去月廿七日漂着、舩及破損朝鮮人共陸に上 去十八日之尊札拜見仕り、然素御領内永良部と申嶋ロ 分之内山川と申所迄送來い旨、 罷居り付あ、彼地被差置り在番之御家來衆被警固、 依之例之通警固御差添、 御領 朝

可被送遣り、 元禄十七年二月廿五日 恐惶謹言 細從御家來衆も被申聞承屆り、 日和次第當地は可被差遣之由、

得其意奉存外、右之段委

弥右之漂民共早へ此津に

石尾阿波守

別所播磨守

参貴報

綱貴公御譜中

謹言、

仲春念五

(近御家久)

(花押

No.6

薩摩中將殿

吴事り、

仍御太刀一腰・御馬一疋贈之り、

正文在文庫

1611

任嘉例、城中改年之御祝義令申入外序、啓一翰外、 弥可

爲勇健目出度思給い、此邊無恙い、仍御太刀一腰・馬一 疋并調合之薫物二香合可被試吖、 猶屬使者口上不能多毫

元禄十七年仲春念五

ル、謹言、

(近衞基熙

No.3

(花押

薩摩中將殿

全上

い、仍御太刀一腰・ 改年之吉兆雖事舊り啓一翰り、 馬一疋并調合之保之二香合贈之外、 愈可爲康健り、 此邊無恙

尚屬口上い、謹言、

元禄十七年 仲春念五

(近衞家凞)

Na4

1614 綱貴公御譜中

漸修:|樓門外郭|未>終;|其功|也、 先,是元禄九年之初夏麑城回禄矣、 去年以來先經二營對面 雖、然依;;其事廣大;

之、是閃重燈 于本丸、 所及廣間二、是歲元禄十七年二月二十五日擇;;吉辰1移;)徙 ・本田本田家者不拘察之田兩家勤ニ移徙之儀式」也、

1615

之家例也

綱貴公御譜中

御時服二拜領仕、

誠以忝次第奉存り、御禮爲可申上如此

筆致啓上り、

歲暮之御内書頂戴仕り付る、

家來之者に

御座り、 恐惶、

元禄十七年二月廿七日

正文在文庫

肇年之祝詞雖事舊 4 呈一

簡り、

愈可爲御平安候、此邊無

尚屬口上り、

-- 466 --

1612

(花押

薩摩中將殿

綱貴公御譜中

全御譜中

貴札致拜見り、

正文在文庫

候付、爲御歡預示忝次第御座り、 公方樣益御機嫌能被成御座、

舊臘十八日拙宅に被爲

成

段申上り、以上、

元禄十七年申二月廿八日

恐惶謹言、

元禄十七年二月廿七日

松平美濃守

1619

全

口上覺

松平薩摩守樣 御報

京泊と申所は漂着卸碇り付る、(〒内)

固之者相添長崎ロ差送可申旨、

彼地奉行衆に申越り、 如例番舩等付置申り、

此

1618

稻葉丹後守樣

人 ~ 御(中脱カ)

全

南京出來朝之唐舩一艘人數四拾一人乘、去廿六日私領內

口上覺

元禄十七年申二月廿八日

小笠原佐渡守様

段申上り、以上、

固之者相添長崎は差送可申旨、 京泊と申所は漂着卸碇り付め、 南京出來朝之唐舩一艘人數四拾一人乘、去廿六日私領內

如例番舩等付置申り、

彼地奉行衆に申越り、

此 警

恐

1617 全御譜中

筆令啓達い、南京出來朝之唐舩一艘領内京泊と申所に(向内)

漂着卸碇い付る、 如例番舩等付置申り、 警固之者相添其

許に差送可申り、 委曲從家來共可申上以問不能詳以、

元禄十七年二月廿八日

別所播磨守様

石尾阿波守樣 人《御中

1620

正文在文庫 吉貴公御譜中

-- 467 --

元禄十七年三月朔日

石尾阿波守樣 別所播磨守樣

人
る
御中

來共可申上り、恐惶、

京唐舩壹艘、警固之者相添其地に差送申り、

筆令啓達外、先立の御案内申越外領内京泊に漂着之南(川内)

1622

綱貴公御譜中

敕許御拜賀之御祝儀首尾能相濟申之由承之、 筆致啓上り、 先頃 近衞左大臣樣 珎重之御儀

明朔日例月之御禮無之候間、 元禄十七年二月廿九日 不及登 稻 葉丹後 城外、 以上、 守

秋 元 但 馬

小笠原佐渡守 守

土 屋 相 摸守

阿 部 後 守

松平修理大夫殿

1621

綱貴公御譜中

全

嶋津大藏所は之芳札令披見候、其方弥無吴之由珎重存り、(《煛)

い、來六日弥出足此節九州筋差越儀こい、 我等儀近日當地令發足以旨被承之、 爲祝詞示給入念儀存

無程於江府可

得芳意り、恐く、

委細素從家

元禄十七年三月三日 嶋津淡路守殿

回報

1624

芳簡殊被任恒例、於神前御祈禱之御玉會并薫兩器贈給之、 綱貴公御譜中

過分至り、 猶期後喜之時み、 恐く謹言

元禄十七年三月六日

諏方大祝 回章

進上之外、右之趣宜預洩達外、 恐く謹言

奉存み、

右御祝詞爲可申上如斯御座り、

隨の目録之表致

元禄十七年三月三日 朱光*

戸田長門守殿 (忠和・甲府家家老)

1623

乘二舩和泉米津1、同十七日着二舩肥前國寺井川1、(田水)

平田清右衞門純旨・諏方市右衞門兼秩扈從、

同月十三日

從」是

又次郎久健、家老川上式部久重、用人野村太左衞門廣貫

元禄十七年甲申三月十日綱貴爲;,述職,發,國、

一族嶋津

1625

全

使者申入り、 御札致拜見い、 爲御禮預示被入御念之段忝存り、 然光御家督被 仰出い爲御祝儀、

元禄十七年三月六日 松平陸奥守樣(伊達吉村)

申外間、 筆令啓達り、家來野村源助と申者其許御用爲可承差越 萬端宜樣:御差圖賴存外、 爲其如斯御座り、

恐

惶

1626

綱貴公御譜中

元録十七年 三月十日

惶

別所播磨守樣

1627

全

1629

全上

筆令啓達り、

儀、 隨の琉球太平布十疋令進覽之い、猶期後音之時い、恐惶 日國許罷立、九州筋致通路候、爲御案内以使札申入り、 公方樣益御機嫌能被成御座旨、 貴樣弥可爲御無吴、 珎重存み、 恐悦奉存り、 將又拙者儀爲參勤今 其表無相替

1628 全御譜中

恐惶

舊臘以

日著二舩大坂二、

第 介啓達 い、

公方樣益御機嫌能被成御座旨、奉恐悦り、其表無相替儀、

琉球太平布五疋并一種令進入之外、 元罷立、 御自分可爲御無吴、 九州筋致通路,、爲御案内以使札如斯,、 珎重存み、 將又我等儀爲參勤今日國 猶期後音之時以、 随る

恐

元禄十七年三月十日

小野朝之丞樣(代官)(高保)

經、陸、 同十九日到:|著豐前國大裏:|又駕>舩、同月二十八

全上

1631

元禄十七年三月十日

元禄十七年三月十日朱兆井 別所播磨守樣(常治)

筆令啓達り、

隨の琉球太平布十疋令進覽之り、猶期後音之時り、恐惶、 日國許罷立、 貴様弥可爲御無吴、珎重存い、將又拙者儀爲参勤今 九州筋致通路4、 爲御案内以使札申入り、

公方樣益御機嫌能被成御座旨、恐悦奉存り、其表無相嶅

元禄十七年三月十日 石尾阿波守様(氏信) 人、

全上 此御書吉貴公御語中"モ在り

我等事爲參勤今日鹿兒嶋令發足以間、 追付參府可得芳意

筆令啓り、其方弥無吴一門中る別條有問敷と珎重存り、 恐~、

吉貴公御譜中

日一為」元、依川其地

1632

元禄十七年甲申三月十三日元改二寳永一東都省以三月晦日|為」 御宿所 元薩府者以,] 四月二十五

松平修理大夫殿

1633

之鸿近;有11遅速1也

之、其大者言之於鏞也、 之、驚於麂興夜禪之時且告乎朝講晚誦之期也、 之大夢抜濟苦海之沈倫、以來三國規之諸寺皆置之晨夕槌 **竊惟華鯨者主於晝夜十二之時刻之器而黃帝之時倕氏叛造** 綱貴公御譜中 世尊以鳴鐘警六時又從警覺生死 一擊之則

晨昏宗退之期限也、寔如然則其德皇矣、又高哉欲陶鑄之 於公侯之家用于樂器則達于混沌之元氣彰於自然之天聲而 音律皆備宮商自契也、更暨置于府城者爲令仕官之輩知於

其聲振大千界、聞者澄箇々之真心忘人々之俗處矣、置之

則範于陰陽九六之數、其功以合造化均於厚薄儉侈之分、

禮曰、 故作補牢、於上以所擊之者爲鯨魚云云、 其響以諧清濁也、 海島有大獸名蒲牢々々畏鯨魚々々撃蒲牢輙大鳴吼 形如圓蓋而圍空質備九乳而成文也、 爰以或名補牢又 周

鬼畜冥脱

天人咸宗

董民祐國

稱華鯨者職而斯由也、 今新所造者

薩隅日三州刺史從四位上羽林中郎將源朝臣綱貴嚴君爲令 城邑之士庶人知於早曉夕曛之時刻、 命于宰臣令跋之、於

越宰臣課于鳧氏令陶冶之、以懸于城南松林之地矣、曉天

告於没照之期也。解釋之言、 當于兎之下刻撞之驚於遲明之時、夕陽向于鳥之下刻擊之 因茲無貴賤無男女聽之、 則自

令余爲之銘也、 邦君之仁德何人不庶幾乎、若不記者後來誰得識之哉、 余當于仁不讓叨書之云尓、

知於早起晚旋之節也、

於戲厚哉我

城南勝境 新掛大鏞 松林欝翁 倕氏巧定 傍構一樓 鑪鞴吐紅

銅銕鎔已 範圍成功 **簨**虡高架

長鯨吼月 蒲牢數桐 風觀朝響 幽溪答空 告曛與曉 霜傳夜舂

應呂兼律 協商旦宮 音貫南北 鏘 々韻崇

從橫至縱

聞達西東

上接蒼穹 驅馳龍象 救劍輪苦 膂 悟 盲聾 抜湯鑊恟 下徹泉底

> 滄海可竭 植德旌忠

子孫荒々

君臣穆々

福報無窮

元禄第十七龍集甲申三月穀旦

經圍山大乘教院第十八世法印覺雲謹識

全御譜中 此御書吉貴公御譜中ニ在リ

1634

正文在文庫

老御城內御作事出來仕、先月廿五日御移徙相濟申以由承 筆啓上仕候、弥御機嫌能可被成御座、

珎重奉存り、

仍

乍序先右之御祝儀申上 い、 知仕、目出度奉存り、此節餘事之儀付の使差越申り間、 猶奉期御參府之節以、

誠惶誠

元禄十七年三月廿二日 進上 (編章)

松平修理大夫

綱貴公御譜中

1635

正文在文庫

まく、 返~~いよ~~機嫌よく��や、又八郎殿にもふし:(鳥津久蔵) い半とめてたさ、中途こていまゝ、文こて申さすい 御事つて申り通、 御つたへ下されいへくい、

-471 -

機けんよく御たちこていハんと、めてたくそんしい、 こりまゝ、御心安おほしめしりへくり、かしく、 ひ申りへくり、此方こてもいつれのやしきにも無事の事 や参勤之間もなくいまゝ、なを御つきのちふん御よろこ 廿五日こする~~とわたましも相すミ申りよし、めてた(8 徙) 中途へ使參りよしうけ給りまゝ一筆申入り、弥図もとも さいよく一めてたき事のミといわる悦まいらせり、 もと本丸のふしんもたいめん所・ひろ間出來りて、二月 もは 閾

松平さつまの守殿 陽和院を

綱貴公御諸中 此御書吉貴公御譜中ニモ有り

1636

筆令啓り、

其元別條有之間敷珎重存り、

我等去十日

噟

恐 兒嶋發足之段素申越い間、此頃:素可相達と存い、今日 い間、追付大坂に可致着舩と存い、右之趣爲心得申越い! 防州室積迄無吴致通舩卟間、 可安芳意い、 打續日和後能

之儀付の輕使差越い間、 猶く歲暮之御内書頂戴、 使者に御時服拜領之、 如斯ル、 以上 御禮

۲,

元禄十七年三月廿三日

松平修理大夫殿

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御譜中『モ有り

1637

慈 被差越使、殊目録之通被相饋之、欣然之至り、 芳札令披見り、 於一門中養無別條之由、珎重存り、猶期後喜之時り、 我等事海上無吴大坂に致着岸り、爲祝儀 其方弥無

猶《上巳之祝儀目録之表進之り、 爲謝禮別札之趣慇 恐 く**、**

元禄十七年 三月 晦日 熟之事存み、以上、

松平修理大夫殿

草回

1638 全御譜中

の通被下、めてたさよろこひ中外、お亀のかた・おの通被下、めてたさよろこひ中外、お亀のかた・お ちまいらせ4、扨は桃のせつくこハ、しう義いつも(m 句) やかてく、此方へ御着の事:ていいんと、めて度ま 返く〜いよく〜御そくさいこ、又八郎殿にも同前こ、 (綱貫三男)

- 472 -

お亀の方よりもする~~と御つきの御よろこひ、よく心 M 修理大夫殿よりつかひ参りまゝ一筆申入り、弥きけんよ(キ゚ 賃) くする~~と大坂へ御着被成りハんと、めてたくそんし りて申入りやうことの事こて御さり、めてたくかしく、 元禄十七年 御悦申いしるし迄こ、もく録之とをりしんし申り 御心やすく思しめしいへくい、めてかしく、 と是こ申入り、此地こてもいつれも無事にりまゝ、 なをへももくろくの通つかハされ、かたしけなく幾度四分) の事こて御さり、別こ申りハんか中途御取込のゆへ 久しくといわゐ入りよし、よく御禮申入りやうこと 松平さつまの守殿

陽和院を

之御儀奉存り、然光年始之御祝詞被仰下、殊御太刀一 前關白樣御書拜見仕片、益御機嫌能被成御座、(近衛墓) 珎重 腰

1639

綱貴公御譜中

從

奉存り、此旨宜預洩達り、恐く、 御馬一疋并御調合之御薫物二香合被下置之、寔以忝次第 元禄十七年三月晦日 進藤筑後守殿(長房)

> 1640 全上

馬一疋并御調合之御黨物二香合被下置之、寔以忝次第奉 儀奉存み、 從 左府樣御書拜見仕**卟、** 然光年始之御祝詞被仰下、 益御勇健被成御座、 殊御太刀一腰 珎重之御

御

存外、 元禄十七年三月晦日 此旨宜預洩達以、

今大路兵部大輔殿(光 好)

ル、恐く、 奉存り、然素年始之御祝儀被仰下、 元禄十七年三月晦日 疋并御肴一種被下置之、忝次第奉存め、 殊御太刀 一腰· 此旨宜預洩達

1642 全上

勤之由珎重存り、舊冬御類燒付る、 宮之原甚太夫所迄之二月廿五日御札令拜見り、 御普請之足:及可能 御無吴御

從

大納言樣御書拜見仕,

倍御勇健被成御座珎重御儀

御馬

全上

進藤刑部大輔殿

Ħ

綱貴公御譜中

不申り、 成哉と存り段有之、其趣嶋津勘解由所は申越、(久 当) 念儀存り、 且又年頭之御祝儀物致進入以段迄奏被仰聞、 い付、御禮之趣被仰聞之旨、委細致承知御慇懃之儀存り、 就夫右御紙面於大坂令拜見り、 甚太夫事太國許は用事申付此節及供こ及召列 近日中可致參府 是又被入御 御用相達

宜樣御心得被成可被下り、 (本) 以上、

い間、

其節旁得御意可申り、

先早く御報申達り、

恐惶、

元禄十七年三月晦日朱ヵキ 小野助九郎樣

御報

芳札令披閱片、 祝詞示給被入念儀令怡悦片、 綱貴公御請中 先頃城内作事出來、 此御書吉貴公御譜中"モ在り 恐く、 移徙相濟い付る、

1643

元録十七年四月三日

松平修理大夫殿

1645 正文在文庫

謹の奉呈愚翰候、

鍋三郎樣去歲被遊御弘目候之旨承知仕、(維豊) 千秋萬歲目出度

奉存候、此等之御祝儀爲可申上、目録之通奉進上之候、

猶奉期後喜之時候、 誠惶誠恐敬白'

元禄十七年卯月五日 朱九末

中城王子

尚純判

爲

進上

中將樣

1646 全上

謹の奉呈愚簡候、 去歲

剛姫樣被成御誕生候之由奉承知之、千秋萬歲目出度御儀(綱貫六女)

請爲可申上如斯御座り、 申之旨、 可仕り、 段く被 荷物之儀及御定之貫目より重無之様:相心得可 仰渡御書付之趣得其意奉存り、右之御 恐惶

筆致啓上以、諸大名參勤御暇之節、

道中込合不申様こ

元禄十七年 四月四

稻葉丹後守樣 人・御中

--- 474 --

鍋三郎樣去歲被成御弘目候之由承知之仕、千秋萬歲目出

按 猶奉期後喜之時候、誠惶誠恐敬白、 奉存候、 元禄十七年卯月五日 剛姫君ハ綱貴公御末女ニテ、元禄十六年未三月廿七日御誕生也 此等之御祝儀爲可申上、目録之表進上之仕候、 中將樣

中城王子 尚純判

元禄十七年卯月五日朱カキ

琉球國司

録之表進上之仕候、猶奉期來慶之節候、

誠惶誠恐敬白、

度御儀奉存り、此等之御祝儀以美里按司申上候、因茲別

侍從樣

1649

全上

謹の奉呈一翰候、 去歲

奉存候、此等之御祝儀爲可申上、目録之表進上之仕候 剛姫樣被成御誕生候之由奉承知之、千秋萬歲目出度御儀

猶奉期後喜之時候、誠惶誠恐敬白、

元禄十七年 卯月五日 朱ガキ

中城王子

進上. 侍從樣

1650 全 上

欽奉捧一封候、

後慶之節候、 滿姫樣去歲被遊御弘目候之由承知之仕、 依之御祝儀爲可申上、 誠惶誠恐敬白、 目録之通奉進上之候、猶奉期 諶以目出度奉存

-- 475 --

1647

吉貴公御譜中

正文在文庫

寔以目出度御儀奉存候、 欽奉捧一簡候、 满姫樣去歲被成御弘目候之由承知之仕、

猶奉期後喜之時候、

誠惶誠恐敬白

琉球國司

尚貞判

依之爲御祝儀別録之表進上之仕

候

卯月五日

進上 侍從樣

謹奉呈愚翰候、

侍從樣

全上

1651

謹の奉呈愚翰侯、

鍋三郎樣去歲被遊御弘目候之旨承知仕、千秋萬歲目出度

猶奉期後喜之時候、 誠惶誠恐敬白、 奉存候、此等之御祝儀爲可申上、目録之通奉進上之候、

進上 卯月五日

侍從樣

尚純判

元禄十七年四月六日

禮爲可申上如斯御座り、

右之旨宜預洩達み、

恐く、

又御料理被下、拜領物等被仰付、蹇以忝次第奉存り、 來相良市邱左衞門使者申付差上以之處、御前被召出、

今大路兵部大輔殿

1654

綱貴公御譜中

被仰渡い趣承知仕、 御座り、 恐惶、 畏奉得其意り、右之旨爲可申上如斯

筆致啓上り、此節年號寳永と被相改候付あ、

去月晦

日

元禄十七年四月九日

阿 部 豐 後 守様

土屋 相 摸守樣

秋 元 但 馬 守樣 小笠原佐渡守樣

稻葉丹後守樣

1652

綱貴公御譜中

口上覺

者相副、 先達の申上置い領内京泊ね漂着之來朝唐舩壹艘、警固之(河内) 儀御請取い、 元禄十七年四月六日 長崎は送屆申い處、去月十六日彼地奉行衆無吴 此段申上り、以上、

松平薩摩守

1653

全上 筆致啓上り、

然去

左府樣御轉任之御悦爲可申上、

- 476 -

且

全

1656

綱貴公御譜中

正文在文庫

御座り、 被仰渡い趣承知仕、 元禄十七年四月九日 朱4 * 筆致啓上い、此節年號寶永と被相改候付る、去月晦日 恐惶、 畏奉得其意い、 右之旨中上4間如期 「Mp

松平右京大夫樣 松平美 濃 守樣

人、

1658

吉貴公御譜中

欽奉呈思簡候、 正义在文庫

去歲

奉存り、乍恐此等之御祝儀申上り、 鍋三郎樣被遊御弘目り由奉承知之、千秋萬歲目出度御儀

元禄十七年卯月十日

之候、猶奉期後喜之時候、

之候、猶奉期後喜之時候、

誠惶誠恐敬白'

融谷山王子 尚益判

元禄十七年卯月十日

進上

中將樣

鍋三郎樣被遊御弘目以由奉承知之、

千秋萬歲目出度御儀

因茲別楮之通奉進上

奉存り、乍恐此等之御祝儀申上り、

欽奉呈愚簡候、去歲

進上

侍從樣

欽奉呈愚簡候、去歲

1655

綱貴公御譜中

剛姫樣被遊御誕生り之由奉承知之、千秋萬歲目出度御儀 奉存み、 依之御祝儀爲可申上、別楮之通奉進上之候、

元禄十七年卯月十日

奉補御嘉儀迄御座候、

誠惶誠恐敬白、

誠

進上 中將樣

讀谷山王子 尚益判

誠惶誠恐敬白、 因茲別楮之通奉進上

讀谷山王子

欽奉呈愚簡候、

1659

全上

-477 -

奉期後喜之時候、

誠惶誠恐敬白

奉存み、

依之御祝儀爲可申上、

別

楮之通奉進上之み、

猶

1661 全上

筆啓上仕候、

弥御堅固御旅行可被成、

珎重奉存み、

又當地御發足之砌、

爲御案内御使者被下、

被入御念御儀

1664

全上

なを 人 又八郎殿へも同前:よく御心へたのミそん

奉存り、其節出京不能御返答り間如斯御座り、恐惶謹言、

侍從樣

元禄十七年卯月十日 進上

讀谷山王子 尚益判

1663

於榮殿俄ニ病氣付め、 全上 此御書吉貴公御譜中"モ在リ 様く雖養生い不相叶、去ル七日死

四月十二日

去之由、

笑止之段同然存以、依之示給入念儀存以、恐<、

1660

全上

之仕り、

誠奉補御嘉儀迄御座候、

誠惶誠恐敬白

讀谷山王子 尚益判

元禄十七年卯月十日

進上

侍從樣

目出度御儀奉存り、

中將樣去歲

剛姫樣被遊御誕生り由奉承知之、千秋萬歲上六年11月日七日生

依之御祝儀爲可申上、別楮之通進上

欽奉呈愚簡候、

滿姫様去歲被遊御弘目り之由奉承知之、諶以目出度御儀

1662 綱貴公御譜中

於榮殿俄:御病氣被差發、 絶言語存り、

様く雖御養生い不相叶、 貴樣御心底令推察外、

去七

悔如此御座卟、 恐惶、

口御死去之由、

元禄十七年四月十二日 株分半

鳥居播磨守樣

松平修理大夫殿

建部内匠頭(伏見奉行)

元禄十七年四月十日

松

薩摩守樣

参人、御中

政守判(字力)

— 478 —

鶴姫君樣御逝去之旨致承知、絕言語奉存卟、(總川綱吉女) 一位樣御機嫌爲可奉伺之、秋元但馬守殿迄以書中申上外(#ड原) 全上

い時分御返事御悦申い半とそんしいへとも、 てよろこひ申り、おつゝけ道中機けんよくこゝもとへ御 に入津の事うけ給り、そんしのほかはやくふねつき中り く御立の事、めてたさ大坂より御返事被下、三月廿八日 三月十日之日付こて文下され、國もとするくへと機嫌よ つきの事と、めてたく悦まちまいらせり、此中使まいり い半か、御ちうとこて御らんも御むつかしくいへん(中 ´´´) しい、 との事こてい、以上、 と、御言傳:申入りよし、われくておよく申入りへ 御ふミ下され、かたしけなくそんしゅ、御返事申入 めてたくかしく、知性院よりも御國もと御立の時分、(光久な・織田信盛室) 何事も参勤之時分御めにかゝり申承へくり、 使はやく立

松平さつまの守殿 陽和院

1667

申りよしうけ給り、

申進しいハすい、かしく

先頃依被參府、 可爲當着、珎重御事以、 國元之品、贈給之、怡悦不淺り、 右爲謝辭呈一簡り、 謹言、 愈平安

元禄十七年首夏十八

(近衞家久) (花押 No6

薩摩中將殿

1666

鶴姫君様御逝去就被成り預御札忝存り、 綱貴公御譜中 正文在文庫

元禄十七年四月十七日

松平主税頭料方判

爲御禮如此御座

松平薩摩守樣

恐惶謹言、

全上

1668 全

依之

鶴姫君御方御逝去付、 芳翰之趣御懇情之至存り、 恐く謹

猶以御樣躰承知仕度存如斯御座

得共、

元禄十七年四月十五

本庄安藝守樣

-479 -

全上

元禄十七年四月十八日 松平薩摩守殿

水戸宰相

言

綱條判

御報

く謹言

就鶴姫君御方御逝去、御吊翰之趣、御深志之至存り、恐

元禄十七年四月十八日

水戸中將

御報

松平薩摩守殿

1670

全上

鶴姫君樣就御逝去

費札致拜見り、

御事ゑ無御座い間、

御心安可思召り、恐惶謹言、

一位樣御機嫌爲御伺被入御念御紙面趣承知仕り、

被爲替

鶴姫君樣就御遠行

1673

全上

秋元但馬守

元禄十七年四月十八日

松平薩摩守樣

御報

一位樣被伺御樣躰、入御念り御紙面之趣致承知り、

御機

嫌御障養不被成御座り、恐惶謹言、

元禄十七年四月十九日

1671 全上

鶴姫君樣御逝去付、被仰聞い御紙面之趣、甲府殿は令洩(徳川家真) 達

好處、被

被入

御念

好段

宜申演

旨御

座

好

、

恐惶

謹

言

、 貴札致拜見り、

元禄十七年四月十八日

戸田長門守

松平薩摩守樣

1672 全 上

鶴如君樣御逝去、御同意奉絶言語事外、恐惶謹言、 御札致拜見候、

元禄十七年四月十八日

松平薩摩守樣

松平左京大夫

御報

本庄安藝守

— 480 —

嚴有院殿就御年忌、使者指下��間、乍序令申��、(徳川家稱) 綱貴公御譜中 正文在文庫

松平薩摩守樣

無事り哉、 元禄十七年四月十九日 當地無別條外、 委曲口上申含4也、 照高院宮

松平薩摩守殿

道尊

二人 御目見被仰付い間、

其意い、恐惶謹言、

宝永元年四月廿八日

511 部 豐 立後 守様

土屋 相 . 摸守樣

秋 小笠原佐渡守樣 元但馬守樣

1679

正文在文庫

小笠原佐渡守

相 摸守

阿 土屋 部 豐 一後守

1677 全御譜中

明廿九日四時登

城仕、參勤之御禮可申上旨、且又家來

召連可申之由被仰下、畏奉得

先以御

松平薩摩守殿

增上寺火之番被 仰付い間、被得其意可有勤仕い、以上、

1675

綱貴公御譜中

- スポー七年甲申三月十三日元改ニ寳永 | 元、巖府省以;四月二十五元禄十七年甲申三月十三日元改ニ寳永 | 元府省以: 三月曜日,為」

日|改 レ之

1676

綱貴公御譜中

正文在文庫

猶以家來二人

御目見被

仰付い間、

召連可被罷出

1678

綱貴公御譜中

同年四月二十九日受:[奉書]綱貴勤:|増上寺火之番]、

候、以上、

明廿九日四時登

城參勤之御禮可被申上外、

以上、

宝永元年四月廿八日

秋

元但馬守

宝永元年四月廿九日

秋

元但馬 守

小笠原佐渡守

土屋 相 摸 守

將軍家,也、

阿部 豐

後

松平薩摩守殿

1680

全御譜中

增上寺火之番被

仰付い間、

可相勤之旨被

仰下、

奉畏

存り、恐惶謹言、

宝永元年四月廿九日

阿部豐

後守樣

秋元但馬守樣 小笠原佐渡守樣 土屋相摸守樣

1682

綱貴公御譜中

御檜重一組被獻之片、首尾能遂披露候、 正文在文庫

政直判

恐く謹言、

宝永元年五月四日

松平薩摩守殿

土屋相搝守

1683

正文在文庫 綱貴公御譜中

御肴一種被獻之り、首尾能遂披露候、恐く謹言、

宝永元年五月九日

政直判

土屋相摸守

松平薩摩守殿

同

二十九日登 >營奉>見三于

--- 482 ---

時服二十1也、久 健・久 重等亦從 2 例奉 2 謁ニ于(島津又次郎) 印上式部)

大樹綱吉公1、從1先規1獻1上御太刀・馬代白銀五百枚・

1681

先5是、四月朔日至三伏見二、同六日發三伏見二、同十八日

參府、同二十三日以二 上使土屋相模守政直。勞>之、

綱貴公御譜中

從

宝永元年五月十日

今大路兵部大輔殿

之儀忝次第奉存り、此旨宜預洩達り、恐く、

且又私無吴參府仕り儀被仰下り段承知仕、蹇被爲入御念 之御儀奉存り、然素先頃國許之品、進上仕り付の蒙仰趣

御儀奉存り、然素先頃國許之品~進上之仕り付る蒙仰趣 大納言樣御書拜見仕外、增御勇健被成御座旨、珎重(wh)

儀忝次第奉存候、此旨宜預漏達り、恐く、 且又私無吴參府仕り儀被仰下り段承知仕、被爲入御念之

宝永元年五月十日

進藤刑部大輔殿

全御譜中

口上覺

1686

先達の申上置い當年正月廿七日私領口之永良部嶋は、

漂

正文在文庫 全御譜中

守可述的也、

爲端午之祝儀、

帷子單物數十到來歡覺候、

委曲阿部豐後

宝永元年 五月十五日 薩摩

提綱 印吉

中將殿

1688 吉貴公御譜中

恩贇之品物如二先規二、乃謹奉」拜二謝之二、 其後登 大樹使上二小笠原佐渡守長重一來#櫻田第上賜二告於吉貴一、(續吉) 寶永元年甲申五月十四日

發」東都、家老嶋津助之丞忠守、 而稟;|恩篤之忝:、時賜;|御馬一匹|也、同月二十一日吉貴 用人赤松次郎右衛門則

着致破舩外朝鮮人三拾七人、外一人死躰塩詰こめ、 は送越候處、三月廿七日彼地奉行衆無吴儀御請取り由、國

1684

全御譜中

左府樣御書拜見仕い、増御機嫌能被成御座旨、珎重(繁))

許より申越り、此段申上り、以上、

宝永元年五月十三日

1687

-- 483 --

綱貴公御譜中

從 左府樣御書拜見仕り、 漸く向暑氣候得共、 愈御機嫌

坂至:|攝州尼崎|、 昱十五日開||舩 於同國兵庫津|、 月六日到:著伏見;、同月九日下,大坂、 春・堀四郎右衞門興昌等從ュ駕也、 取二道于東海道二、六 同十四日發」大 同月

十九日著:|舩豐州大裏一、乃取ゝ陸而經二九州之驛|到三著(大里) 赴中江都上 久蛩仮改 : 名叉左衞門 | 率ゝ夷 ; 八月二十八日久 致登 z 薩州和泉」、七月朔日入||魔府」、即日使ヒ||新納治部久致(田メ)

營獻に先規之幣物に而奉ゝ謁に

將軍家1奉」謝11吉貴歸2州之恩遇1也、 刀・銀馬代・時服三二、且以三時服三領i賜三于久致二、 久致亦獻 二上御太

1689 綱貴公御譜中

正文在文庫

日首尾克御登城之由承及、 書令啓達り、 先以道中御堅固去月十八日御着府、 目出度存候、 爲御悦如此外、 廿八

恐惶謹言

宝永元年五月十六日 松平薩摩守樣

平松中納言

1692 正文在文庫 吉貴公御譜中

能被成御座、珎重之御儀奉存り、 種拜受之仕、忝仕合奉存り、此旨宜預洩達り、恐く、 被爲入御念被仰下、

殊

宝永元年五月十八日

進藤筑後守殿

1691 全

拾三人居所立退、私領日州**籾木村に相越申り付あ、** (東麓県郡) 村と申所:差置外郷足輕八人、所之者と致申分、男女四郡) (V) 四年以前巳之十二月申上置��嶋津淡路守領内、日州三才四年以前巳之十二月申上置��嶋津淡路守領内、日州三才四年以前、(W)) 覺 立歸

Ŋ 置り、 と存り付、私領國之端:彼者共差置申筈、 **り様こと申付り得共、** 押の追歸り老他領に立退、悪事抔仕出りの老不宜儀 其以後及歸參之儀段、申聞り得共、心腹不仕罷在 歸參不仕り、 右之趣先頃委曲申上 淡路守口内談

宝永元年中五月

仕り間、此段申上り、以上、

松平薩摩守

筆令啓り、 正文在文庫

途中無吴儀大坂は可爲參着と珎重存り、

爲

此御書吉貴公御譜中ニモアリ

恐く謹言、 之外、於東叡山首尾能奉納之事り、 嚴有院樣御遠忌之御法事御執行付あ、(徳川家綱) 右之趣及 以使者御香奠被獻 高聞り

今度

見送輕使差越之み、

仍目録之通進之り、

恐く謹言、

薩摩守

綱貴御判

宝永元年五月廿五日

松平修理大夫殿

宝永元年五月廿一日

稻葉丹後守

松平修理大夫殿

五通哨

1695 全御譜中

被獻い御臺子、 正文在文庫

於御内證首尾好披露相濟外、

此段爲可中

入如斯御座片、 以上、

室永元年五月廿五日

小笠原佐渡守

松平薩摩守樣

爲御斷如斯 委細素京

1696 綱貴公御譜中

被爲入御念り御儀、 御禮被仰下、 筆致啓上い、先頃 殊御太刀・御馬代并御目録之通拜受之仕、 忝次第奉存み、 左府樣御轉任之御祝儀申上い付あ、 御禮爲可申上如斯御

座外、

宜預洩達り、

恐 < 、

進藤筑後守殿

寶永元年六月二日

-485-

1693

綱貴公御語中

全上

筆致啓達り、

差越申り、

御關所罷通好御手形御出可被下候、

私娘召仕之女上下拾四人、從國元江戸口

御座 小 恐惶 都に差置い家來伊集院主水證文差出可申い、

宝永元年五月廿五日 朱ガキ

松平紀伊守樣(徳川信用)

仝御譜中

1694

全上

爲入御念り御儀、忝次第奉存り、 御禮被仰下、殊御太刀・御馬代并御目録表拜受之仕、 筆致啓上い、先頃 宜預洩達み、 恐く、 左府様御轉任之御祝儀申上い付る、 御禮爲可申上如斯御座

寶永元年 六月二日

今大路兵部大輔殿(光 好)

全上

被爲入御念り御儀忝次第奉存り、 御禮被仰下、 筆致啓上**4、**先頃 殊御太刀・御馬代并御目録之通拜受之仕 左府樣御轉任之御祝儀申上い付め、 御禮爲可申上如斯御座

寳永元年六月二日 宜預洩達り、 恐く、

進藤刑部大輔殿(長 之)

綱貴公御譜中

寶永元年甲申 六月十一日 加中療養上、 同十五日病變而爲:1瘧濕二、 綱貴罹! 疾病 | 使 | 时 村田長庵 依」之招:奥山謙

也

被

同年七月四日綱貴之病湯藥無」應、 故使上一藥師寺宗仙院

法印 | 胗ㄐ↘脉進□藥餌 | 也、

德院法印於芝第一、法印對||話長庵|論||藥味|以進||湯藥

1700

綱貴公御譜中 此御書吉貴公御譜にそ在り

正文在文庫

尊書謹の拜見仕候、弥御機嫌能被成御座珎重御儀奉存り、

仕り、 次第奉存り、 私儀路次無恙去九日大坂ロ參着仕、今日罷立從兵庫乘舩 然素爲御見送被下御使、 猶奉期後喜之時候、 殊御目録之通拜受仕、忝 誠惶誠恐敬白、

宝永元年六月十四日

松平修理大夫

進上 中將樣

全上

遊御座と奉恐悦み、 去

然

筆啓上仕候、

暑氣之時分御座り得共、

益御機嫌能可被

匠作樣御儀、先月十四日御國元ル之御暇首尾好被遊御拜(青) 同廿一日被成御發駕片由承知仕、 恐悦至極奉存り、

頟

— 486 —

1699

1698

1701

全御譜中

宝永元年六月廿二日

喬朝判

1703

全御譜中

1702

綱貴公御譜中 正文在文庫

宝永元年六月十六日 進上

中將樣

御祝詞爲可申上如斯御座候、

誠惶誠恐敬白、

忠直判

被差出い、以上、

宝永元年六月廿四日

阿部豐後守

松平薩摩守殿

端午之 御内書可相渡候間、

明日五半時

御城に家來可

恐く謹言、

御馬二疋被獻之い、首尾能遂披露候、

1705 全御譜中

爲端午之御祝儀、

の頂戴、難有仕合奉存り、右之趣可然樣御披露所仰御座 御帷子單物獻上仕之處、被成御內書謹

4、恐く、

松平薩摩守殿

秋元但馬守

宝永元年六月廿五日 阿部豐後守殿

1706 소 上

筆致啓上り、

端午之御内書頂戴仕り付あ、家來之者御

御禮爲可申上如斯御

披露之旨、忝次第奉存り、恐惶、

宝永元年六月廿二日

秋元但馬守樣

御奉書致拜見り、御馬二疋獻上之仕候處、首尾好被遂御

時服三拜領仕、 誠以忝次第奉存り、

座り、恐惶、

宝永五年六月廿五日

正文在文庫

— 487 **—**

阿部豐後守樣

人×御中

綱貴公御譜中

被獻之候、首尾好遂披露り、恐く謹言、

琉球布十巻・砂糖漬天門冬一器・泡盛酒二壺并御肴一種

喬朝判

秋元但馬守

松平薩摩守殿

1710

全上

御狀令披見候、就土用中 公方樣御機嫌之御樣躰被相伺之り、益御安全之御事り間

可御心易り、紙面之趣得其意り、恐く謹言、

宝永元年六月廿九日

松平右京大夫 輝貞判

松平美濃守

松平修理大夫殿

1711

綱貴公御譜中

正文在文庫 尚以御殊之三種拙者へ養被懸御意忝奉存み、

序御禮

1707

正文在文庫

宝永元年六月廿七日

1708

綱貴公御譜中

宝永元年六月廿七日

秋元但馬守樣

惶

上之仕り處、首尾好被遂御披露之旨、忝仕合奉存り、恐 御奉書致拜見り、琉球布・天門冬・泡盛酒并御肴一種獻

事い間可御心安い、隨の御肴一種被獻之候、各申談首尾

公方樣御機嫌之御樣躰以使者被相伺之片、益御勇健之御

御狀令披見い、就土用中

正文在文庫

好遂披露り、恐く謹言、

室永元年六月廿八日

秋元但馬守 秋元但馬守

松平修理大夫殿

仝上御譜中

如仰暑氣甚御座い得共 位樣益御機嫌能被成御座、

披露被仰下之趣致承知、忝次第奉存り、以上、 尚く御殘之三種貴樣に及致進覽之り付あ、 御禮之段

冬·琉球泡盛酒并御肴一種進上之仕片處、首尾能被成御

奉恐悦み、

隨の砂糖漬天門

如斯御座い、以上、

御慇懃之至御座り、

當分病氣:の罷在候故、用他筆

宝永元年七月三日

本庄安藝守樣

宝永元年七月三日

松平薩摩守樣

本庄安藝守(宗俊)

宝永元年七月三日

之段宜樣賴存り、以上、

御賢慮之程御尤奉存以條、

御料簡之通可申付外、

無之御作事之分素來春御延引可被成之由、依之委細蒙仰

御婚禮御用之御殿當年十月致出來、

差の御E 用

1714 綱貴公御子

仁十郎

寶永元年甲申七月六日誕生、

母二階堂源右衛門行格

女

爲島津主水久輔發子、

綱貴公御譜中

1715

口上覺

不申收、 月五日致漂着叶、 琉球國之内大嶋と申嶋ロ小舩一艘、 荒波之所は其儘難差置い付、則小屋作外廻圍等 言語文字不通:候故、 異國人六人乗りる去 何國之者共相知

1713 全上

一位樣弥御機嫌能被成御座內、(柱昌院)

隨の砂糖漬天門冬一器

承知仕り、

御所御普請之儀付あ、

從

左大臣樣被仰下御口上書之趣

甚暑い得共

鯛塩辛一器・琉球泡盛酒一壺被上之、女中に相達致披露

昨朝老以御使者被仰聞い趣致承知い、

申

述り、已上、

い所、御怡悦之御事い、

宜申進旨:御座り、已上、

- 489 -

宝永元年七月廿二日

Ļ

彼地奉行衆に申上り由、 あ以飛舩城下に申越い付あ、

家來共申越り、此段申上候、

以

着舩次第長崎ロ差送可申旨

松平薩摩守

綱貴公御譜中

如斯御座ル、 政姫樣去ル廿二日御逝去、絶言語奉存り、 此旨可預洩達外、 恐く、 御悔爲可申上

宝永元年七月廿七日

進藤筑後守殿(長)房)

1717

全上

如斯御座り、 政姫様去ル廿二日御逝去、 此旨可預洩達り、 絶言語奉存み、 恐く、 御悔爲可申上

宝永元年七月廿七日 今大路兵部大輔殿(光 好)

> 1718 全上

相調、

異國人入いる番之者堅固付置い、右者共之形阿蘭

陀人:似爲申樣子こあり、

順風次第所之舩:乘之、

彼嶋

ロ差置い在番之者致警固、薩摩之地方迄可差越旨、 先達

如斯御座り、此旨可預洩達り、恐く、 政姫様去ル廿二日御逝去、 絕言語奉存り、 御悔爲可申上

寶永元年七月廿七日

進藤刑部大輔殿(長之)

1719 古貴公御譜中

筆令啓り、其方儀海上無吴其地に到着、 正文在文庫

之通進之り、猶期後喜時り、恐く謹言、 寶永元年八月朔日 薩摩守

爱元一門中無恙り之間、可安芳意り、隨る爲祝儀、目録

珎重存み、

於

松平修理大夫殿 御宿所

1720 全御譜中

寶永元年甲申八月朔日

也、 同月十三日以: 上使本田彈正少弼忠晴,又問,疾、且 同(多) 將軍家使♪||田村右京大夫建顯|來+於芝第ュ尋||綱貴之疾 是故吉貴馳」一使書于江府一奉、禮二謝之二、乃賜、奉書、

こあ、

藥達の辭退申り得共、是非と致所望、夜前より善

1722

全上 覺

長尾善庵を招、 松平薩摩守病氣、 罷成み、 藥師寺宗仙院昨日より斷この御座り付、 様躰見せい得太、以之外大切:御座い由 一兩日以前より差重り、十死一生之躰

夜前

年九月七日使上二久永内記一尋中病症上賜二御肴 之譜」、因今略=於茲二、 貴嚮 日發」國於;;途中1聞」之奉」謝;[恩遇渥]、詳見;[綱貴 種 世

吉

庵藥仕り、

右之通御座り間、修理大夫儀御當地い罷下り

樣、

一家之者共何れも奉願り、

以上、

寶永元年八月二日

松平陰岐守松平陰岐守

綱貴公御譜中

1721

休息所 [而謹奉] 大樹以二田村右京大夫宗永,尋二綱貴之疾,、招三請宗永於 于 台聽一、下二奉書二而免二許吉貴參府事一也 湯藥」、乃直定相;議松平越中守定重1以;連書1奉ℷ訴;1修 定·松平因幡守定達·酒井右京亮忠重·京極對馬守高規 理大夫吉貴參府之事」、稟三元老稻葉丹後守正通一、乃達一 島津淡路守惟久各會二談于芝第二、而使41長尾善庵|進中 同年八月一日綱貴之病追ゝ日不快也、依ゝ之松平隱岐守直 台命1、奉2謝11尊言之辱1也

> 1723 全御譜中

獻之片、首尾好遂披露り、恐く謹言、 爲八朔之御祝儀、 以使者御太刀一腰・御馬代黄金十兩被

寶永元年八月三日

正通判

松平薩摩守殿

稻葉丹後守 正**通**

1724 吉貴公御譜中

正文在文庫

太御家來衆は申談り、 吴國人警固御差添被遣、今日當津に致着請取申り、 尊札致拜見候、先達の被仰聞い琉球國之内大嶋に漂着之 恐惶謹言 委細

佐久間安藝守(長崎華庁)

寳永元年八月二日

- 491 -

正文在文庫

爲八朔之御祝儀、 以使者御太刀一腰・御馬代黄金十兩被

1725 全上

松平修理大夫樣 貴報

石^ 尾^同

阿し

氏信判

願之通達 上聞い處、勝手次第可致參府旨被 仰出候、 同氏薩摩守病氣大切付あ、爲看病其方參府以樣仕度之由、

寶永元年八月二日

可被存其趣い、恐く謹言、

稻 在葉 丹後守

秋 元 但 香朝 料

小笠原佐渡守

呵 土 屋 部 相 豐 政直判 正後守

松平修理大夫殿

1727

綱貴公御譜中

以御容躰被聞召度思召り、 被進之外、右之趣各迄從拙者共可申述之旨 中將樣御所勞弥御快然之由被聞召、 正文在文庫

崎の御見舞之印迄:學鰹一桶

前關白殿御(近衛基票)

御滿悦之御事み、

猶

寶永元年八月十四日

命候也、恐く謹言、

進藤 今大路治 刑 部色

形。 長 利 形 大 輔

寶永元年八月三日

獻之候、首尾能遂披露片、

恐く謹言、

稻 葉 丹 正通判

秋元 小笠原佐渡守 但 高期 高期 高明

屋 相 心 政 直 判

土

豐 正武判

松平修理大夫殿 阿 部 川

嶋津勘解由殿 上式部殿

1728

全上

川上式部殿(久重) 鳴津勘解由殿(久当)

進

今大路兵部大輔 (光 好) 藤 筑 守罗

1729

全上

長後^長

仰候也、恐く謹言、

桶被進之り、右之趣各迄從拙者共可申述之旨 以御容躰被聞召度思召り、隨の御見舞之驗迄:糟漬鯛 中將樣御所勞愈御快然之由被聞召、御滿悦之御事外、猶

大納言殿

寶永元年八月十四日

今大路治部少輔 判

進藤

長 判 長 判

今大路兵部大輔 判

筑

長後

藤

進

Ш 上式部殿

嶋津勘解由殿

正文在文庫

御狀令披見り、

進

藤

筑

守 判

長後

到着、爲御禮以使者目録之通被獻之り、遂披露り處 下御暇、其上御馬并時服拜領難有之由得其意外、就國元 公方樣益御機嫌能可被成御座と恐悦旨尤候、將又今度被 御

-- 493 --

中將樣御所勞弥御快然之由被聞召、御滿悦之御事り、猶

寶永元年八月十四日 朱かき

今大路治部少輔

進藤

長 判 長 判

今大路兵部大輔

判

1733

吉貴公御譜中

被進之片、右之趣各迄從拙者共可申述之旨 左大臣殿御(家際) 以御容躰被聞召度思召り、

飚の御見舞之驗迄:干鱧一箱

意候也、恐く謹言、

綱貴公御譜中

口上覺

前口被召出入念り段、 寶永元年八月十八日 御喜色之御事候、恐く謹言、

秋元但

香期 事 明 判

小笠原佐渡守

土 屋 相 政直判

部 豐

阿

正後 正武判

松平修理大夫殿

六人乘り小舩一艘、彼嶋在番之者附添薩州之地方山川と(単常郡) 先頃申上置り琉球國之内大嶋は六月五日致漂着り異國

申所は到着り、彼吴國人言語文字不通:あ、 不相知者共之儀り故、例之漂着唐舩之通:≾難致り間) 何國之者共

資永元年八月廿日

元家來共申越4條此段申上4、以上、

警固之者等念を入申付、山川より長崎に相送申之由、國

1732

全御譜中

口上覺

南京舩一艘、人數五拾人乘いる碇を卸い、彼所煮繫場惡 私領屋久嶋之内小嶋村と申所沖ロ、 六月五日四番歸唐之

敷い付、安坊と申所之川に翌六日挽入、番艘等付置い處、(6)(6)

彼川之儀ゑ洪水之節右躰之舩難繫之由、所之者共申候付

四日順風有之出帆仕り、 あ、 同十三日一湊と申浦は挽廻之、番舩附置い處、翌十 最早漂着之儀及早速鹿兒嶋に可

付め、長崎奉行衆に右之趣申上り由、國元家來共申越り 申越之處こ、順風無之不能其儀由、 彼嶋在番之者申越り

此段申上り、以上、

寶永元年八月廿二日

松平薩摩守

1733

仝御譜中

同年八月二十二日謙徳院法印受: 奉書:而再療::治綱貴之(愛母)

疾二、昱二十三日

招□待忠晴於休息所1、奉三 尊言1以奉2禮11謝之1、 大樹命上二本多彈正少弼忠晴 | 來#芝第上、辱問三病啊 | 、 因

奉行衆無違儀御受取り由、

國元家來共申越り、此段申上

舩等迄、警固之者申付長崎は相送申い處、今月二日彼地 先達の申上置り琉球國之内大嶋ロ漂着之異國人六人并乘

ル、以上、

1734 在所到着御禮之使者新納又左衞門、(久 改) 可存其趣い、以上、 御城2可差出候、且亦又左衞門自分之御禮可申上4間、 吉貴公御譜中 正文在文庫

明廿八日五半時

寶永元年八月廿七日

稻 丹後

松平修理大夫殿

留守居

1735

綱貴公御譜中

口上覺

1737

正文在文庫

吉貴公御譜中

下御暇、其上御馬并時服拜領之、難有由得其意り、國許 御狀令披見吖、 公方樣益御機嫌能可被成御座と恐悦旨尤り、將又今度被

到着付る、

爲御禮以使者如目録被獻之片、

御前は被召出、入念い段御喜色之御事い、

恐く謹言、 遂披露い處

寳永元年八月晦日

稻 葉丹 正通判

秋 元 但 喬 朝 判

小笠原佐渡守

政 直 判

相

土

屋

1736

在所到着御禮之使者新納又左衞門、 吉貴公御譜中

明晦日四時

御城に

寶永元年八月廿八日

松平薩摩守

松平修理大夫殿

可差出い、以上、

寳永元年八月廿九日

稻 丹後

松平修理大夫殿

留守居

全上

御狀令披見り、

正文在文庫 吉貴公御譜中

御狀令披見り、

到着付ゐ爲御禮以使者如目録被獻之り、紙面之趣承屆り、 下御暇、其上御馬并時服拜領之、難有由得其意候、國許 公方樣益御機嫌能可被成御座と恐悦旨尤り、將又今度被

恐く謹言、

資永元年八月晦日

松平右京大夫

松平美濃守

松平修理大夫殿

寶永元年八月晦日

松平修理大夫殿

露り、

恐く謹言、

可御心易り、隨の御肴一種被獻之り、各申談首尾好遂披

公方様御機嫌之御樣躰被相伺之い、益御安泰之御事い間

稻葉丹後守

-496 -